

2004年度

言語文化学科シラバス

獨協大学

【シラバスの見方】

「シラバス」は、科目の担当教員が、学期ごとの授業計画、講義概要、評価方法などを学生に周知することにより、受講する際の指針とし、授業の理解を深めることを目的に作成されたものです。

以下に、シラバスの各項目についての説明を載せます。
シラバスを良く読み、計画的な履修登録をしてください。

なお、目次は入学年度により”2003年度以降入学者用”と”2002年度以前入学者用”に別れています。各自の入学年度の目次をご利用ください。

①適用年度 適用年度	② 科目名 科目名	③ 担当者
④ ◆講義目的 講義概要	⑦ ◆授業計画	
【 春学期 】	第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	
⑤ ◆評価方法		
⑥ ◆テキスト 参考文献		

*上段は、春学期科目です。

- ①② 入学年度により科目が異なります。
- ③ 担当教員氏名
- ④ 授業の目的や講義全体の説明、学生への要望が記載してあります。
- ⑤ a 科目は春学期終了時に成績評価が出ます。
b 科目と通年科目は秋学期終了時に成績評価が出ます。
- ⑥ 授業で使用するテキストや参考となる文献が記載してあります。
- ⑦ 学期の授業計画についての欄です。各週ごとに講義するテーマが記載してあります。
※場合によっては授業計画ではなく扱う項目を列記している科目もあります。

適用年度 適用年度	科目名 科目名	担当者
◆講義目的 講義概要	◆授業計画	
【 秋学期 】	第1週 第2週 第3週 第4週 第5週 第6週 第7週 第8週 第9週 第10週 第11週 第12週	
◆評価方法		
◆テキスト 参考文献		

*下段は、秋学期科目です。
各項目については、春学期と同一です。

目次【2003年度以降入学者用】

科目名	担当教員	ページ
【学科基礎科目】		
「外国語」部門		
英語Ⅰ～Ⅳ	各担当教員(最初の授業で説明する)	
スペイン語Ⅰ(総合1),(総合2)	各担当教員	8
スペイン語Ⅰ(入門),(会話)	各担当教員	9
スペイン語Ⅱ(総合1),(総合2)	各担当教員	10
スペイン語Ⅱ(基礎表現)(会話)	各担当教員	11
スペイン語Ⅲ(総合),(講読)	各担当教員	12
スペイン語Ⅲ(会話1),(会話2)	各担当教員	13
スペイン語Ⅳ(総合),(講読)	各担当教員	14
スペイン語Ⅳ(会話1),(会話2)	各担当教員	15
中国語Ⅰ,Ⅱ(総合1),(総合2)	各担当教員	17
中国語Ⅰ(入門),(会話)	各担当教員	18
中国語Ⅱ(基礎表現),(会話)	各担当教員	18
中国語Ⅲ,Ⅳ(総合),(講読)	各担当教員	19
中国語Ⅲ,Ⅳ(会話1),(会話2)	易 友人	20
中国語Ⅲ,Ⅳ(会話1),(会話2)	永田 小絵	21
「基礎講座」部門		
ボランティア論	青柳 多恵子	27
現代世界論	飯島 一彦	28
コンピュータ基礎演習(各担当教員)	外国語学部共通科目「情報科学各論」参照	
「概論」部門		
言語文化概論	下川 浩	29
比較思想概論	松丸 壽雄	30
日本文化論a,b	小島 幸枝	31
日本語研究概論a,b	浅山佳郎	32
スペイン・ラテンアメリカ文化論a,b	野々山 ミチコ	33
現代中国論a,b	辻 康吾	34
【学科専門科目】		
「日本研究」部門		
日本思想史a,b	川村 肇	35
日本文化・芸能論a,b	飯島 一彦	36
日本近現代史a,b	丸浜 昭	37
日本文学	飯島 一彦	38
日本経済論a,b	波形 昭一	39
日本政治外交史a,b	福永 文夫	40
日本研究特殊講義(能楽における中世武士の諸像a,b)	瀬尾 菊次	41
「日本語教育研究」部門		
日本語文法論a,b	浅山 佳郎	42
日本語音声学a,b	伊豆山 敦子	43
日本語史a,b	遠藤 和夫	44
対照言語学a,b	中西 家栄子	45
日本語教授法Ⅰa,b	中西 家栄子	46
日本語学a,b	金田一 秀穂	48
日本語教育論	中西 家栄子	49
日本語教育特殊講義(英文文献で読む日本語論a,b)	中西 家栄子	50

科目名	担当教員	ページ
「情報・コミュニケーション研究」部門		
自然言語処理a,b	呉 浩東	52
プログラミング論a,b(プログラミング論・自然言語処理入門)	呉 浩東	53
プログラミング論a,b(コンピュータ・プログラミング論)	高柳 敏子	54
プログラミング論a,b(コンピュータ・プログラミング論)	立田 ルミ	55
通訳翻訳論	永田 小絵	56
異文化間コミュニケーション論a,b	岡村 圭子	57
認知科学	田口 雅徳	58
人間関係とカウンセリングa,b	瀧本 孝雄	59
情報・コミュニケーション研究特殊講義(人間行動論a,b)	青柳 多恵子	60
情報・コミュニケーション研究特殊講義(コーパス言語学入門)	浅山 佳郎	61
情報・コミュニケーション研究特殊講義(CAEL)	安井 美代子	62
「地域研究」部門		
地域文化論 ia,b(ラテンアメリカ)	佐藤 勤治	63
地域文化論 iia,b(スペイン)	野々山 ミチコ	64
地域文化論 iiaa,b(中国)	易 友人	65
地域文化論 iva,b(中東)	高橋 正男	66
地域経済論ia,b(ラテンアメリカ)	今井 圭子	67
地域経済論iia,b(アジア)	森 健	68
地域経済論iiaa,b(中国)	全 載旭／駒形 哲哉	69
比較社会論a,b	井上 兼行	70
地域社会文化論特殊講義(森林地域における風土と生活a,b)	犬井 正	71
地域社会文化論特殊講義(カリブ海域の民族と文化a,b)	井上 兼行	72
地域社会文化論特殊講義(英語圏のエスニックヒストリーa,b)	佐藤 唯行	73
地域社会文化論特殊講義(アラブ文化・芸術a,b)	藤原 和彦	74
地域社会文化論特殊講義(東西文化を結ぶものa,b)	熊谷 哲也	75
地域社会文化論特殊講義(ラテンアメリカの歴史a,b)	G. T. ヨシカワ	76
地域社会文化論特殊講義(地中海世界の歴史)	古川 堅治	77
比較文化論特殊講義(英国人と日本人の生き方の比較a,b)	有吉 広介	78
比較文化論特殊講義(日中文化比較論a,b)	易 友人	79
比較文化論特殊講義(グローバル化とローカル文化)	岡村 圭子	80
比較文化論特殊講義(グローバル社会における文化変容)		
【関連科目】		
「国際交流」部門		
国際関係概論a,b	金子 芳樹／永野 隆行	81
国際関係概論a,b	永野 隆行／八丁 由比	82
国際関係概論a,b	八丁 由比／金子 芳樹	83
国際機構論a,b	松田 幹夫	84
地球環境論a,b(地理学)	犬井 正	85
地球環境論b(植物学)	加藤 僖重	86
地球環境論a,b(太陽系)	福井 尚生	87
都市・地域計画論a,b	鈴木 隆	88
国際経済論a,b	千代浦 昌道	89
国際政治論a,b	阿部 松盛	90

目次【2002年度以前入学者用】

科目名	担当教員	ページ
【基礎科目】		
「外国語」部門		
英語Ⅰ～Ⅳ	各担当教員(最初の授業で説明する)	
英語Ⅴ(Advanced)	J. J. ダゲン	1
英語Ⅴ(Advanced)	P. M. ホーネス	2
英語Ⅴ	P. アップス	3
英語Ⅴ	J. J. ウォールドマン	4,5
英語Ⅴ	W. ベンフィールド	6,7
スペイン語Ⅰ～Ⅳ	2003年度以降入学者用目次参照	
スペイン語Ⅴ	各担当教員	16
中国語Ⅰ～Ⅳ	2003年度以降入学者用目次参照	
中国語Ⅴ	易 友人	22
中国語Ⅴ	辻 康吾	23
中国語Ⅴ	武信 彰	24
中国語Ⅴ	永田 小絵	25
中国語Ⅴ	吉田 桂子	26
「基礎講座」部門		
ボランティア論	青柳 多恵子	27
現代世界論	飯島 一彦	28
「概論」部門		
言語文化概論	下川 浩	29
比較思想概論	松丸 壽雄	30
日本文化論	小島 幸枝	31
日本語研究概論	浅山佳郎	32
スペイン・ラテンアメリカ文化論	野々山 ミチコ	33
現代中国論	辻 康吾	34
【専攻科目】		
「日本研究」部門		
日本思想史	川村 肇	35
日本文化・芸能論	飯島 一彦	36
日本近現代史	丸浜 昭	37
日本経済論	波形 昭一	39
日本政治外交史	福永 文夫	40
日本研究特殊講義A(能楽における中世武士の諸像)	瀬尾 菊次	41
「日本語教育研究」部門		
日本語文法論	浅山 佳郎	42
日本語音声学	伊豆山敦子	43
日本語史	遠藤 和夫	44
対照言語学	中西 家栄子	45
日本語教授法Ⅰ	中西 家栄子	46
日本語教授法Ⅱ	各担当教員	47

科目名	担当教員	ページ
「情報・コミュニケーション研究」部門		
現代思想	松丸 壽雄	51
自然言語処理	呉 浩東	52
異文化間コミュニケーション論	岡村 圭子	57
カウンセリング論	瀧本 孝雄	59
情報・コミュニケーション研究特殊講義A(プログラミング論・自然言語処理入門)	呉 浩東	53
情報・コミュニケーション研究特殊講義A(コンピュータ・プログラミング論)	高柳 敏子	54
情報・コミュニケーション研究特殊講義A(コンピュータ・プログラミング論)	立田 ルミ	55
情報・コミュニケーション研究特殊講義A(人間行動論)	青柳 多恵子	60
情報・コミュニケーション研究特殊講義B(コーパス言語学入門)	浅山 佳郎	61
情報・コミュニケーション研究特殊講義B(CAEL)	安井 美代子	62
「地域研究」部門		
地域文化論 i(ラテンアメリカ)	佐藤 勘治	63
地域文化論 ii(スペイン)	野々山 ミチコ	64
地域文化論 iii(中国)	易 友人	65
地域文化論 iv(中東)	高橋 正男	66
地域経済論 i(ラテンアメリカ)	今井 圭子	67
地域経済論 ii(アジア)	森 健	68
地域経済論 iii(中国)	全 載旭／駒形 哲哉	69
比較社会論	井上 兼行	70
地域研究特殊講義A(森林地域における風土と生活)	犬井 正	71
地域研究特殊講義A(カリブ海域の民族と文化)	井上 兼行	72
地域研究特殊講義A(英語圏のエスニックヒストリー)	佐藤 唯行	73
地域研究特殊講義A(アラブ文化・芸術)	藤原 和彦	74
地域研究特殊講義A(東西文化を結ぶもの)	熊谷 哲也	75
地域研究特殊講義A(ラテンアメリカの歴史)	G. T. ヨシカワ	76
地域研究特殊講義B(地中海世界の歴史)	古川 堅治	77
比較文化論特殊講義A(英国人と日本人の生き方の比較)	有吉 広介	78
比較文化論特殊講義A(日中文化比較論)	易 友人	79
比較文化論特殊講義A(グローバル化と文化変容)	岡村 圭子	80
【関連科目】		
「国際交流」部門		
国際関係概論	金子 芳樹／永野 隆行	81
国際関係概論	永野 隆行／八丁 由比	82
国際関係概論	八丁 由比／金子 芳樹	83
国際機構論	松田 幹夫	84
地球環境論(地理学)	犬井 正	85
地球環境論(太陽系)	福井 尚生	87
都市・地域計画論	鈴木 隆	88
国際経済論	千代浦 昌道	89
国際政治論	阿部 松盛	90
【卒業論文】		
卒業論文	各担当教員	91

02 年度以前	英語 V (Advanced)	担当者	J. J. Duggan
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>As first- and second-year students, you worked with communicating in English in many styles (individual work, pair work, group work, and class work), as well as in various ways (writing and sharing opinions and experiences, task-based group discussion, self-researched themed presentations, pair conversation Q&A, project work and activities, etc.) You also worked with organization (preparing and giving speech presentations, working with paragraph writing) to help make you a more confident and coherent communicator.</p> <p>The aim of this course is to give those students with the above background the opportunity to further develop these skills. In the first semester, we will work on a two-week cycle reading, researching, discussing, and informally presenting content-based material of a topical nature from various media sources.</p> <p>I will be selecting the articles and preparing the tasks and activities. It is the students' responsibility to read and further research into the topic as well as to complete the assigned tasks outside of class so as to be ready to participate in discussing and sharing your ideas in class. As this class is centered around participation, attendance is a must. If you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>◆ 評価方法</p> <p>Students will be evaluated based on preparation (assigned reading, homework, research), class participation (class discussion, informal presentations), and a final assessment.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Handouts of articles from various selected sources.</p> <p>◆授業計画</p> <p>Week 1: Course description & explanation Week 2: Selection A assignments & comprehension study Week 3: Selection A activities & discussion study Week 4: Selection B assignments & comprehension study Week 5: Selection B activities & discussion study Week 6: Selection C assignments & comprehension study Week 7: Selection C activities & discussion study Week 8: Selection D assignments & comprehension study Week 9: Selection D activities & discussion study Week 10: Selection E assignments & comprehension study Week 11: Selection E activities & discussion study Week 12: Setup for second semester presentations</p>	

02 年度以前	英語 V (Advanced)	担当者	J. J. Duggan
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>As first- and second-year students, you worked with communicating in English in many styles as well as in various ways. You also worked with organization to help make you a more confident and coherent communicator.</p> <p>The aim of this course is to give those students with the above background in working with English communication skills the opportunity to further develop these skills. In the second semester, we will work on a one-week cycle reading, researching, discussing, and formally presenting content-based material of a topical nature from newspapers and news magazines.</p> <p>Students, working in pairs or small groups, making use of the resources provided by the teacher, will be selecting articles of their own choosing and of interest not just to them but to the class as a whole. You will then be expected to further research into your chosen material, and to give a formal presentation to the class as well as lead the discussion following.</p> <p>As this class is centered around participation, attendance is a must. If you miss or are very late for more than 1/3 of the lessons, you will automatically fail.</p>		<p>◆ 評価方法</p> <p>Students will be evaluated based on preparation (assigned reading, homework, research), class participation (class discussion, a formal presentation), and a final assessment.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>Student-chosen handouts and articles.</p> <p>◆授業計画</p> <p>Second semester class preparation Selection F presentation & discussion Selection G presentation & discussion Selection H presentation & discussion Selection I presentation & discussion Selection J presentation & discussion Selection K presentation & discussion Selection L presentation & discussion Selection M presentation & discussion Selection N presentation & discussion Selection O presentation & discussion Second semester consolidation & review</p>	

02 年度以前	English V (Advanced)	担当者	Horness, P. M.
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This is a general English course. The course's emphasis is on speaking and listening although there will be some short writing assignments. Although I will introduce some topics, most of the discussion topics will be mainly from students. I will provide students with activities to help them improve their techniques in English communication.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Participation in conjunction with attendance, written summaries, and test</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>To be announced</p>		<p>◆授業計画</p> <p>W1: Course introductions W2: Topic #1: palatalization W3: Topic #2: palatalization W3: Topic #3: intonation W4: Topic #4: intonation W5: Topic #5: suprasegmentals W6: Topic #6: suprasegmentals W7: Topic #7: phrases W8: Topic #8: phrases W9: Topic #9: phrases W10: Topic #10: phrases W:11: Test review W12: Test</p>	

02 年度以前	English V (Advanced)	担当者	Horness, P. M.
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This is a general English course. The course's emphasis is on speaking and listening although there will be some short writing assignments. Although I will introduce some topics, most of the discussion topics will be mainly from students. I will provide students with activities to help them improve their techniques in English communication.</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Participation in conjunction with attendance, written summaries, and test</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>To be announced</p>		<p>◆授業計画</p> <p>W1: Course introductions W2: Topic #1: palatalization W3: Topic #2: palatalization W3: Topic #3: intonation W4: Topic #4: intonation W5: Topic #5: suprasegmentals W6: Topic #6: suprasegmentals W7: Topic #7: phrases W8: Topic #8: phrases W9: Topic #9: phrases W10: Topic #10: phrases W:11: Test review W12: Test</p>	

02 年度以前	English Five	担当者	P. Apps
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This is a higher-level conversation/writing course class with students taking part in discussions and using an advanced text books. The discussions will a high level and about interesting topics. There will be projects and assignments throughout the semester.</p>		<p>◆授業計画</p> <p>The schedule for this semester will be based on the chapters of the book and in what order the students would like to do them.</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>1) Written Test 2) Attendance and class participation 3) Evaluation of assignments. 4) Oral test</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>The New Advanced Headway” by Liz and John Soars Published by Oxford Press</p>			

02 年度以前	English Five	担当者	P. Apps
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This is a higher-level conversation class with students taking part in discussions and using an advanced text. The discussions will a high level and about interesting topics. There will be projects and assignments throughout the semester.</p>		<p>◆授業計画</p> <p>The schedule for this semester will be based on the chapters of the book and in what order the students would like to do them.</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>1) Written Test 2) Attendance and class participation 3) Evaluation of assignments. 4) Oral test</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>The New Advanced Headway” by Liz and John Soars Published by Oxford Press</p>			

03 年度以降 02 年度以前	英語 V (総合英語) (春学期完結)	担当者	J. ウォールドマン
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course will focus on oral skills to communicate effectively in English. Goals will be to improve students' cultural understanding and to be able to function in practical everyday situations. Other facets will include listening, pronunciation, vocabulary and learner strategies that will enable students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>Impact Values</i>, R. Day, J. Yamanaka, J Shaules. Longman</p>		<p>◆授業計画</p> <p>Weeks 1-3 Classes will focus on introductions, explanation of the class, teacher's expectations of students and the first unit of the main textbook.</p> <p>Weeks 4-6 Classes will involve expanding vocabulary, and discussing topics from the textbook.</p> <p>Weeks 7-9 Summer plans, travel experiences and issues from the text will be the focus of the classes.</p> <p>Weeks 10-12 Review of previous units covered and examination</p>	

03 年度以降 02 年度以前	英語 V (総合英語) (春学期完結)	担当者	J. ウォールドマン
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course will focus on oral skills to communicate effectively in English. Goals will be to improve students' cultural understanding and to be able to function in practical everyday situations. Other facets will include listening, pronunciation, vocabulary and learner strategies that will enable students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>Impact Values</i>, R. Day, J. Yamanaka, J Shaules. Longman</p>		<p>◆授業計画</p> <p>Weeks 1-3 The classes will focus on work and family life along with topics from the main text.</p> <p>Weeks 4-6 Health topics affecting university students will be the focus of these classes with selections from the textbook.</p> <p>Weeks 7-9 The value of computers in society along with topics from the text will be the subject of the classes.</p> <p>Weeks 10-12 Reading and understanding English newspapers and topics from the text will be discussed in the classes.</p>	

03年度以降 02年度以前	英語Ⅴ（総合英語）（秋学期完結）	担当者	J. ウォールドマン
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course will focus on oral skills to communicate effectively in English. Goals will be to improve students' cultural understanding and to be able to function in practical everyday situations. Other facets will include listening, pronunciation, vocabulary and learner strategies that will enable students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>Impact Values</i>, R. Day, J. Yamanaka, J Shaules. Longman</p>		<p>◆授業計画</p> <p>Weeks 13-15 A comparison between high school life and college life will be discussed in the classes.</p> <p>Weeks 16-18 Dating and marriage patterns will be the focus of the classes along with topics from the main text.</p> <p>Weeks 19-21 The Confucian and Socratic methods of education will be discussed along with topics from the text.</p> <p>Weeks 22-24 The last three classes of the semester will focus on a review of learned material for the final examination.</p>	

03年度以降 02年度以前	英語Ⅴ（総合英語）（秋学期完結）	担当者	J. ウォールドマン
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>This course will focus on oral skills to communicate effectively in English. Goals will be to improve students' cultural understanding and to be able to function in practical everyday situations. Other facets will include listening, pronunciation, vocabulary and learner strategies that will enable students to take more responsibility and initiative to improve their English ability.</p> <p>◆評価方法</p> <p>Students will be graded on attendance, classroom participation, homework and tests.</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p><i>Impact Values</i>, R. Day, J. Yamanaka, J Shaules. Longman</p>		<p>◆授業計画</p> <p>Weeks 13-15 The changing roles of men and women in the United States and Japan will be the topic of the classes.</p> <p>Weeks 16-18 Problems of non-Japanese people living in Japan will be the focus in these classes.</p> <p>Weeks 19-21 Environmental problems and topics from the textbook will be discussed in these classes.</p> <p>Weeks 22-24 Review of previous material in preparation for the final exam will be the focus of the classes.</p>	

02 年度以前	Eigo V (Sogo Eigo) (Spring Semester)	担当者	W. J. Benfield
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>1. To develop overall communication ability by focusing on integrated practice of the four skills -- listening, speaking, reading and writing.</p> <p>2. To consolidate and extend the knowledge and command of English grammar.</p> <p>3. To consolidate and build vocabulary for use in general contexts.</p> <p>4. To use material that is varied, interesting and relevant to adult learners of English.</p> <p>The course book provides a wide range of activities for practice of listening, speaking, reading and writing. The course book will be supplemented by articles from newspapers and magazines and video material for further practice.</p> <p>◆ 評価方法 Test at end of each semester; written assignments; attendance; active participation in class.</p> <p>◆テキスト、参考文献 Test at end of each semester; written assignments; attendance; active participation in class.</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1. Course explanation. Course book unit 1: The modern world</p> <p>2. Course book unit 1 continued</p> <p>3. Course book unit 2: Sport and leisure</p> <p>4. Course book unit 2 continued/related activities</p> <p>5. Course book unit 3: Writing, painting and music</p> <p>6. Course book unit 3 continued/related activities</p> <p>7. Course book unit 4: Cultural comparison</p> <p>8. Course book unit 4 continued/related activities</p> <p>9. Course book unit 5: Travel</p> <p>10. Course book unit 5 continued/related activities</p> <p>11. Course book unit 6: Food</p> <p>12. Course book unit 6 continued/related activities</p>	

02 年度以前	Eigo V (Sogo Eigo) (Spring Semester)	担当者	W. J. Benfield
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>1. To develop overall communication ability by focusing on integrated practice of the four skills -- listening, speaking, reading and writing.</p> <p>2. To consolidate and extend the knowledge and command of English grammar.</p> <p>3. To consolidate and build vocabulary for use in general contexts.</p> <p>4. To use material that is varied, interesting and relevant to adult learners of English.</p> <p>The course book provides a wide range of activities for practice of listening, speaking, reading and writing. The course book will be supplemented by articles from newspapers and magazines and video material for further practice.</p> <p>◆ 評価方法 Test at end of each semester; written assignments; attendance; active participation in class.</p> <p>◆テキスト、参考文献 Test at end of each semester; written assignments; attendance; active participation in class.</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1. Course book unit 1: The modern world</p> <p>2. Course book unit 1 continued/related activities</p> <p>3. Course book unit 2: Sport and leisure</p> <p>4. Course book unit 2 continued/related activities</p> <p>5. Course book unit 3: Writing, painting and music</p> <p>6. Course book unit 3 continued/related activities</p> <p>7. Course book unit 4: Cultural comparison</p> <p>8. Course book unit 4 continued/related activities</p> <p>9. Course book unit 5: Travel</p> <p>10. Course book unit 5 continued/related activities</p> <p>11. Course book unit 6: Food</p> <p>12. Course book unit 6 continued/related activities</p>	

02 年度以前	Eigo V (Sogo Eigo) (Autumn Semester)	担当者	W. J. Benfield
<p>◆講義目的、講義概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To develop overall communication ability by focusing on integrated practice of the four skills -- listening, speaking, reading and writing. 2. To consolidate and extend the knowledge and command of English grammar. 3. To consolidate and build vocabulary for use in general contexts. 4. To use material that is varied, interesting and relevant to adult learners of English. <p>The course book provides a wide range of activities for practice of listening, speaking, reading and writing. The course book will be supplemented by articles from newspapers and magazines and video material for further practice.</p> <p>◆ 評価方法 Test at end of each semester; written assignments; attendance; active participation in class.</p> <p>◆テキスト、参考文献 Test at end of each semester; written assignments; attendance; active participation in class.</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course book unit 7: Work 2. Course book unit 7 continued/related activities 3. Course book unit 8: Money 4. Course book unit 8 continued/related activities 5. Course book unit 9: Families and relationships 6. Course book unit 9 continued/related activities 7. Course book unit 10: Habits and hobbies 8. Course book unit 10 continued/related activities 9. Course book unit 11: Questions and answers 10. Course book unit 11 continued/related activities 11. Course book unit 12: Birth, marriage and death 12. Course book unit 12 continued/related activities 	

02 年度以前	Eigo V (Sogo Eigo) (Autumn Semester)	担当者	W. J. Benfield
<p>◆講義目的、講義概要</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To develop overall communication ability by focusing on integrated practice of the four skills -- listening, speaking, reading and writing. 2. To consolidate and extend the knowledge and command of English grammar. 3. To consolidate and build vocabulary for use in general contexts. 4. To use material that is varied, interesting and relevant to adult learners of English. <p>The course book provides a wide range of activities for practice of listening, speaking, reading and writing. The course book will be supplemented by articles from newspapers and magazines and video material for further practice.</p> <p>◆ 評価方法 Test at end of each semester; written assignments; attendance; active participation in class.</p> <p>◆テキスト、参考文献 Test at end of each semester; written assignments; attendance; active participation in class.</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Course book unit 7: Work 2. Course book unit 7 continued/related activities 3. Course book unit 8: Money 4. Course book unit 8 continued/related activities 5. Course book unit 9: Families and relationships 6. Course book unit 9 continued/related activities 7. Course book unit 10: Habits and hobbies 8. Course book unit 10 continued/related activities 9. Course book unit 11: Questions and answers 10. Course book unit 11 continued/related activities 11. Course book unit 12: Birth, marriage and death 12. Course book unit 12 continued/related activities 	

03年度以降 02年度以前	スペイン語 I(総合 1) スペイン語 I(総合)	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要 スペイン語 I(総合 1) は、スペイン語初習者向け入門の授業である。点過去までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。 (総合) は、スペイン語 I の中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、あいさつや自己紹介ができ、習慣、希望・情報、一日の出来事、予定などを伝え、聞き取ることができる総合的初級スペイン語の習得を目的とする。 なお、この授業はスペイン語 I (総合2) とのペア授業である。		◆授業計画 1 発音・アクセント 2 名詞の性・数、冠詞 3 形容詞 4 動詞の活用 --- 直説法現在規則活用 5 動詞の活用 --- 直説法現在不規則規則活用 6 ser, estar 動詞の使い方 7 代名詞の用法 8 動詞の活用 --- 直説法点過去規則活用 9 動詞の活用 --- 直説法点過去不規則活用 基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。	
◆ 評価方法 出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。			
◆テキスト、参考文献 担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)また、スペイン語-日本語辞書を用意してもらう。辞書については、最初の授業で説明するので、その後に購入していただきたい。			

03年度以降 02年度以前	スペイン語 I(総合 2) スペイン語 I(総合)	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要 スペイン語 I(総合 2) は上記のスペイン語 I(総合 1) とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語 I(総合 1) と同(総合 2) のふたつを同時に履修することになる。 02年度以前に関してもスペイン語 I(総合)は週2コマの授業で構成されている。		◆授業計画 スペイン語 I(総合 1)(総合)に同じ。	
◆ 評価方法 03年度以降のスペイン語 I(総合 1) と同じ評価基準であり、同じ成績がつく。 02年度以前に関しては従来どおり週2コマでひとつの成績が出る。			
◆テキスト、参考文献 スペイン語 I(総合 1)(総合)に同じ。			

03年度以降 02年度以前	スペイン語 I(入門) スペイン語 I(入門・会話)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>スペイン語 I は、スペイン語初習者向け入門の授業である。点過去までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>(入門) では、英語以外の言語としてあらたに学ぶことになるスペイン語はどのような言語か、どんな地域で使われているのか、学ぶ意味がどこにあるのかなどについて考え、スペイン語学習の動機付けにする。また、スペイン語 I (総合1, 2) (総合) の補いとしてスペイン語を学ぶ大学生が知っておくべき用語・基礎単語、日常会話でよく使われる簡単な構文をつかって作文の練習をする。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。 02年度以前に関しては入門・会話2コマでひとつの成績が出る。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 I (総合1, 2) (総合) の項目と同じであるが、(入門) ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語 I (総合1, 2) (総合) の「授業計画」を参照のこと。</p>	

03年度以降 02年度以前	スペイン語 I(会話) スペイン語 I(入門・会話)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>スペイン語 I は、スペイン語初習者向け入門の授業である。点過去までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>(会話) では、スペイン語 I (総合1, 2) (総合) の文法項目の進展にあわせて、基本的な日常会話ができるようにすることを目的にする。(会話) の担当者は、スペイン語を母語としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。 02年度以前に関しては入門・会話2コマでひとつの成績が出る。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 I (総合1, 2) (総合) の項目と同じであるが、(会話) ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語 I (総合1, 2) (総合) の「授業計画」を参照のこと。</p>	

03 年度以降 02 年度以前	スペイン語 II (総合 1) スペイン語 II (総合)	担当者	各担当教員										
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>スペイン語 II (総合 1) は、スペイン語 I (総合 1, 2) (総合)の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>(総合) は、スペイン語 II の中心となる授業である。文法項目をおいながら基礎的な単語を使った短文を学ぶことで、動詞のすべての活用とその使いかた、および複文を使った多様な表現について、書き、話し、聞き取ることができる総合的初級スペイン語能力の完成を目的とする。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)</p>		<p>◆授業計画</p> <table border="1" data-bbox="767 226 1453 1064"> <tr><td>1 動詞の活用 --- 直説法点過去</td></tr> <tr><td>2 動詞の活用 --- 直説法線過去</td></tr> <tr><td>3 点過去と線過去の違い</td></tr> <tr><td>4 比較表現</td></tr> <tr><td>5 過去分詞と現在分詞</td></tr> <tr><td>6 動詞の活用 --- 直説法現在完了形</td></tr> <tr><td>7 動詞の活用 --- 現在進行形</td></tr> <tr><td>8 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形</td></tr> <tr><td>9 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形</td></tr> <tr><td>10 命令表現</td></tr> </table> <p>基本的に採用教科書に沿って上記の文法項目を学習するが、学習状況を考慮しつつ、多く時間を割く項目と、そうでない項目ができる。</p>		1 動詞の活用 --- 直説法点過去	2 動詞の活用 --- 直説法線過去	3 点過去と線過去の違い	4 比較表現	5 過去分詞と現在分詞	6 動詞の活用 --- 直説法現在完了形	7 動詞の活用 --- 現在進行形	8 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形	9 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形	10 命令表現
1 動詞の活用 --- 直説法点過去													
2 動詞の活用 --- 直説法線過去													
3 点過去と線過去の違い													
4 比較表現													
5 過去分詞と現在分詞													
6 動詞の活用 --- 直説法現在完了形													
7 動詞の活用 --- 現在進行形													
8 動詞の活用 --- 接続法現在形規則形													
9 動詞の活用 --- 接続法現在形不規則形													
10 命令表現													

03 年度以降 02 年度以前	スペイン語 II (総合 2) スペイン語 II (総合)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>スペイン語 II (総合 2) は上記のスペイン語 II (総合 1) とのペア授業である。つまり、受講生は週にスペイン語 II (総合 1) と同(総合 2) のふたつを同時に履修することになる。</p> <p>02 年度以前に関してもスペイン語 II (総合)は週 2 コマの授業で構成されている。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>03 年度以降のスペイン語 II (総合 1) と同じ評価基準であり、同じ成績がつく。</p> <p>02 年度以前に関しては従来どおり週 2 コマでひとつの成績が出る。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>スペイン語 II (総合 1) に同じ。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>スペイン語 II (総合 1) に同じ。</p>	

03年度以降 02年度以前	スペイン語 II (基礎表現) スペイン語 II (基礎表現・会話)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>スペイン語 I (入門) (会話) の継続の授業である。接続法現在および過去までの基礎的文法事項をまなび、日常生活に支障のない文を作る能力、簡単な文の読解力、自ら積極的に話し、聞き取る能力の一層の獲得を目指す。初級スペイン語文法を終える。</p> <p>(基礎表現) では、(総合1, 2) の文法項目と語彙を補いながら、基礎的構文を使った表現法をまなぶ。また、簡単な文の読解力の養成を目的とする。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。 02年度以前に関しては基礎表現・会話2コマでひとつの成績が出る。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 II (総合1, 2) (総合) の項目と同じであるが、(基礎表現) ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語 II (総合1, 2) (総合) の「授業計画」を参照のこと。</p>	

03年度以降 02年度以前	スペイン語 II (会話) スペイン語 II (基礎表現・会話)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>スペイン語 I は、スペイン語初習者向け入門の授業である。点過去までの基礎的文法事項をまなび、また簡単な文を作り、自ら積極的に話し、聞き取る能力の獲得を目指す。</p> <p>(会話) では、スペイン語 II (総合1, 2) (総合) での文法項目の進展にあわせて、語彙を補いながら基本的な日常会話ができるよう練習を行うことを目的にする。(会話) の担当者は、スペイン語を母国としている。スペイン語で積極的に意思疎通する姿勢も同時にやしなう。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。 02年度以前に関しては基礎表現・会話2コマでひとつの成績が出る。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>学習目標となる文法項目は、スペイン語 II (総合1, 2) (総合) の項目と同じであるが、(会話) ではそれを用いた練習・運用に重きが置かれる。 学習項目に関してはスペイン語 II (総合1, 2) (総合) の「授業計画」を参照のこと。</p>	

03年度以降 02年度以前	スペイン語 III (総合) スペイン語 III (総合・講読)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>総合の授業では、初級文法のうち、一年目で不十分だった接続法を中心に扱い、中級用の教材を用いて、未来・過去未来・大過去・関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を目的とする。そのため、作文には力を入れる。 この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>各担当者が4月の最初の授業で説明する。</p>	
<p>◆評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。 02年度以前に関しては総合・講読の2コマでひとつの成績となる。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>			

03年度以降 02年度以前	スペイン語 III (講読) スペイン語 III (総合・講読)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講読の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなうとともに、総合の授業でおこなう新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使うことで語彙の増強も意図する。 この授業では特に予習が不可欠である。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>各担当者が4月の最初の授業で説明する。</p>	
<p>◆評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。 02年度以前に関しては総合・講読の2コマでひとつの成績となる。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>			

03年度以降 02年度以前	スペイン語 III (会話1) スペイン語 III (会話)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(会話1)(会話2)のいずれの担当教員がLLの授業を担当する。</p> <p>(会話)の授業では、総合の文法事項の進度に合わせて、基本的な会話文を使いながら練習するとともに、より高度な聞き取り能力と表現力を身につけることを目的とする。中級用の教材を用いてその文法項目にそって口答練習を中心に授業を進める。</p> <p>(LL)の授業では、総合的オーディオビジュアル教材を用いて、基本文法事項に沿った聞き取り能力の定着と、場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。 02年度以前に関しては2コマでひとつの成績となる。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>各担当者が4月の最初の授業で説明する。</p>	

03年度以降 02年度以前	スペイン語 III (会話2) スペイン語 III (会話)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>上記、スペイン語 III (会話1)(会話)を参照。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。 02年度以前に関しては2コマでひとつの成績となる。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>各担当者が4月の最初の授業で説明する。</p>	

03年度以降 02年度以前	スペイン語 IV (総合) スペイン語 IV (総合・講読)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>スペイン語 III (総合) の継続である。 総合の授業では、初級文法のうち、一年目で不十分だった接続法を中心に扱い、中級用の教材を用いて、未来・過去未来・大過去・関係詞、前置詞などについて補い、より高度な表現方法を学ぶことで、表現力の増強を目的とする。そのため、作文には力を入れる。 この授業では特に予習が不可欠である。</p> <p>◆評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。 02年度以前に関しては総合・講読の2コマでひとつの成績となる。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>◆授業計画</p> <p>各担当者が秋学期の最初の授業で説明する。</p>	

03年度以降 02年度以前	スペイン語 IV(講読) スペイン語 IV (総合・講読)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>スペイン語 III (講読) の継続である。 講読の授業では、比較的平易な物語・小説・評論などを用いて、読解力の養成をおこなうとともに、総合の授業でおこなう新たな文法項目について講読を通じて定着させることを目的とする。多様な教材を使うことで語彙の増強も意図する。 この授業では特に予習が不可欠である。</p> <p>◆評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。 02年度以前に関しては総合・講読の2コマでひとつの成績となる。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>		<p>◆授業計画</p> <p>各担当者が秋学期の最初の授業で説明する。</p>	

03年度以降 02年度以前	スペイン語 IV (会話1) スペイン語 IV (会話)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>(会話1)(会話2)のいずれの担当教員がLLの授業を担当する。</p> <p>(会話)の授業では、総合での文法項目に沿った口答練習とともに、自らの意見を述べる力、他の意見を聞き取る力を養成する。中級用の教材を用いて文法項目にそって口答練習を中心に授業を進めるとともに、論議を定めて意見発表を行う練習およびニュースや映画などの聞き取り練習をおこなう。</p> <p>(LL)の授業では、総合的オーディオビジュアル教材を用いて、Ⅲに引き続いて、聞き取り能力の定着と、場面設定にあわせた受け答えができるように練習する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p> <p>02年度以前に関しては2コマでひとつの成績となる。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>各担当者が秋学期の最初の授業で説明する。</p>	

03年度以降 02年度以前	スペイン語 IV (会話2) スペイン語 IV (会話)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>上記、スペイン語 IV (会話1) (会話) を参照。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p> <p>02年度以前に関しては2コマでひとつの成績となる。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>担当者が指定する教科書(授業開始時に指示する)</p>		<p>◆授業計画</p> <p>各担当者が秋学期の最初の授業で説明する。</p>	

02年度以前	スペイン語 V	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>新聞記事、雑誌記事・論文、評論、小説などスペイン語圏で通常流通している書かれた文章の内容把握およびテレビニュースなどの聞き取りをおこない、内容を日本語とスペイン語で要約する力を養成することが第一の目的である。さらに内容に関して、自分の意見をスペイン語で表現できる能力の養成にもつとめたい。</p> <p>日本人担当者は、主に講読を担当する。内容把握は、その背景を知ることが不可欠である。正しい内容把握ができるよう、語彙、構文に関する説明だけではなく、その背景についても受講生自ら調べるよう指導したい。なるべく多様な分野に関する教材を用意し、精読するだけでなく、長文の概要把握にも挑戦させる。外国人担当者は、できるだけスペイン語のみで授業をおこなう。担当講師の用意する教材に基づいて、内容把握だけでなく、内容に関する意見表明、論議をスペイン語で行わせたい。</p> <p>スペイン語Vは、クラス指定をはずし受講者によるクラス選択を可能としている。スペイン語学習に関する各人の目的にあわせて授業を選択してもらいたい。各クラスには、それぞれ特徴をもうけた。</p>		<p>春学期3クラス：外国人教員（ヨシカワ、週二回）の表現・作文、外国人教員2人（ドメネク、ヨシカワ）による会話クラス、日本人教員（兒島）と外国人教員（ウエチ）による購読と会話の組み合わせクラス</p> <p>秋学期3クラス：日本人教員（佐藤、週二回）による講読クラス、外国人教員2人（ドメネク、ヨシカワ）による会話クラス、日本人教員（兒島）と外国人教員（ウエチ）による購読と会話の組み合わせクラス</p> <p>◆ 授業計画</p> <p>各担当者が 4月の最初の授業で説明する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>担当者が指定する教科書（授業開始時に指示する）</p>	

		担当者	
<p>◆講義目的、講義概要</p> <div data-bbox="113 1285 751 1659" style="border: 1px solid black; height: 167px;"></div> <p>◆ 評価方法</p> <div data-bbox="113 1733 751 1861" style="border: 1px solid black; height: 57px;"></div> <p>◆テキスト、参考文献</p> <div data-bbox="113 1964 751 2047" style="border: 1px solid black; height: 37px;"></div>		<p>◆授業計画</p> <div data-bbox="783 1263 1469 2101" style="border: 1px solid black; height: 374px;"></div>	

03年度以降 02年度以前	中国語Ⅰ（総合1）（総合2） 中国語Ⅰ（総合）	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>入門基礎のクラスです。必須基礎文法事項をおさえ、それを応用して簡単な文を作り、やさしい文章を読み、常套句を覚え、中国語がどのような言語であるかを身をもって学び取ることを目指します。</p> <p>中国語Ⅰ（総合1）・中国語Ⅰ（総合2）は同じ日本人教員が週1回、2時限連続で担当します。</p> <p>まず「ピンイン字母（中国語表音ローマ字）」のつづりの規則と中国語の発音を同時進行で学び、かつ簡略化された漢字（簡体字）にも慣れながら、必須基礎文法事項を逐次学んでいく。課文によって文章読解力を、練習によって作文力を養成する。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1 ガイダンス・“拼音字母”（中国語表音ローマ字）と発音練習</p> <p>2 “拼音字母”（中国語表音ローマ字）と発音練習</p> <p>3 第1課 ～</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6 ～ 第2課</p> <p>7 中間テスト・第3課 ～</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>12 ～ 第6課</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>教科書：『教養初級中国語』郁文堂（春学期・秋学期共通）</p>			

03年度以降 02年度以前	中国語Ⅱ（総合1）（総合2） 中国語Ⅱ（総合）	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>春学期の中国語Ⅰ（総合1）・中国語Ⅰ（総合2）に続く入門基礎のクラスです。必須基礎文法事項をおさえます。</p> <p>中国語Ⅱ（総合1）・中国語Ⅱ（総合2）は同じ日本人教員が週1回、2時限連続で担当します。</p> <p>必須基礎文法事項を逐次学んでいきながら、課文によって文章読解力を、練習によって作文力を養成し、初修外国語としての中国語学習の基盤を作る。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1 第7課 ～</p> <p>2</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>5</p> <p>6</p> <p>7 中間テスト・第12課 ～</p> <p>8</p> <p>9</p> <p>10</p> <p>11</p> <p>12 ～ 第15課</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>授業への出席、授業への積極的参加、授業へ積極的参加した成果（定期試験）を総合して評価する。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>中国語Ⅰ（総合1）・中国語Ⅰ（総合2）に同じ。</p>			

03年度以降 02年度以前	中国語Ⅰ（入門），（会話） 中国語Ⅰ（入門・会話）	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要 <p>実用的な短い対話を通して離す力と聞く力を身につけるクラスです。発音の徹底指導と聞き取り訓練を中心に、ペアワークなどを通じて音声言語の運用能力を身につけることを目指します。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 授業ガイダンス 第一課 2 第二課 3 第三課 4 第四課 5 第五課 6 第六課 7 第七課 中間テストと復習 8 第八課 9 第九課 10 第十課 11 第十一課 12 第十二課 	
◆ 評価方法 出席、積極性、中間テスト、期末テストにより評価する。			
◆テキスト、参考文献 『12回で学ぶ中国語（1）』白帝社			

03年度以降 02年度以前	中国語Ⅱ（基礎表現），（会話） 中国語Ⅱ（基礎表現・会話）	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要 <p>春学期に引き続き発音指導と聞き取り訓練を行うとともに、発話訓練を取り入れ、基礎的な会話の完成を目指します。 授業には積極的に参加し、大きな声を出すようにしてください。教員はすべて標準的な中国語を話すネイティブ・スピーカーですので、正確な発音、めりはりのある話し方、適切な速度、豊かな表現力などを吸収するよう努めてください。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 春学期の復習 第一課 2 第二課 3 第三課 4 第四課 5 第五課 6 第六課 7 第七課 中間テストと復習 8 第八課 9 第九課 10 第十課 11 第十一課 12 第十二課 	
◆ 評価方法 出席、積極性、中間テスト、期末テストにより評価する。			
◆テキスト、参考文献 『12回で学ぶ中国語（2）』白帝社			

03年度以降 02年度以前	中国語Ⅲ（総合）、（講読） 中国語Ⅲ（総合・講読）	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>読解を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに、それに肉付けをするかたちで、また中国語学的なセンスを磨くことにより、将来的に中国語の勉強を続けるために必要な、豊かな基礎力の養成を目指します。</p> <p>読解は、もちろん「読む」ことだけを意味するわけではなく、同時に自分から「発信する」力にフィード・バックする学習でもあるので、語句や文型を自分のものとするべく繰り返し練習することが必要です。</p>		<p>教科書（第1課～第8課）を各クラスの進度に合わせて学習します。</p>	
◆評価方法			
出席、発表、試験による。			
◆テキスト、参考文献			
『中国語見たり聞いたり 15章』光生館			

03年度以降 02年度以前	中国語Ⅳ（総合）、（講読） 中国語Ⅳ（総合・講読）	担当者	各担当教員
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>読解を通して中国語Ⅰ・Ⅱで学んだ語彙・文法事項の定着・発展を図るとともに、それに肉付けをするかたちで、また中国語学的なセンスを磨くことにより、将来的に中国語の勉強を続けるために必要な、豊かな基礎力の養成を目指します。</p> <p>読解は、もちろん「読む」ことだけを意味するわけではなく、同時に自分から「発信する」力にフィード・バックする学習でもあるので、語句や文型を自分のものとするべく繰り返し練習することが必要です。</p>		<p>教科書（第9課～第15課）を各クラスの進度に合わせて学習します。</p> <p>クラスの進度によっては、補充教材として、生の中国語の文章を用意して、さらなる読解訓練を行います。</p>	
◆評価方法			
出席、発表、試験による。			
◆テキスト、参考文献			
『中国語見たり聞いたり 15章』光生館			

03年度以降 02年度以前	中国語Ⅲ（会話 1,2） 中国語Ⅲ（会話）	担当者	易 友人
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>この授業は（会話・LL教室）と共通の教科書を用いるが、使用する部分は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成語の用法 ・ 語句の活用 ・ 自由会話 <p>授業の前半で成語と新出表現（語句）を用いた作文を行う。 学生は授業に臨む前にそれぞれにつき文を作り、教員から添削指導を受ける。</p> <p>授業の後半で自由会話の練習を行う。それぞれ自分の状況に応じた、適切な説明ができるようになることを目的とするが、最初のうちは、教科書巻末の「参考答案」を参照しながら回答してもよい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業方法に関するガイダンス 2. 第一課 3. 第二課 4. 第三課 5. 第四課 6. 第五課 7. 第六課 8. 予備日（小テストまたは補助教材） 9. 第七課 10. 第八課 11. 第九課 12. 第十課 	
◆ 評価方法			
出席率と試験成績により評価する。 三回欠席で不合格にする。			
◆テキスト、参考文献			
『中国語実習コース』			

03年度以降 02年度以前	中国語Ⅳ（会話 1,2） 中国語Ⅳ（会話）	担当者	易 友人
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>授業の方法等は全て中国語Ⅲ（会話）に準じる。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 第十一課 2. 第十二課 3. 第十三課 4. 第十四課 5. 第十五課 6. 予備日（小テストまたは補助教材） 7. 第十六課 8. 第十七課 9. 第十八課 10. 第十九課 11. 第二十課 12. 予備日（小テストまたは補助教材） 	
◆ 評価方法			
出席率と試験成績により評価する。 三回欠席で不合格にする。			
◆テキスト、参考文献			
『中国語実習コース』			

03年度以降 02年度以前	中国語Ⅲ（会話 1,2） 中国語Ⅲ（会話）	担当者	永田小絵
◆講義目的、講義概要 授業は以下の方法で行う。 予習：単語プリント＋音読3回以上 授業：①単語のクイック・レスポンス ②本文のチャンキング&リピート ③本文の逐次通訳 ④本文のシャドーイング ⑤会話文のペアワーク ⑥参考文の音読リピート ⑦参考文のディクテーション 復習：本文・参考文の音読3回以上 以上の訓練は全て耳と口を鍛えることが目的なので、授業中はインストラクターからの指示がない限り、原則として教科書を見ることはできない。非常に集中力を要する授業になるが、明らかな効果が期待できるので、がんばってついてくるように。 なお、試験は全て口頭により行い、筆記試験はない。		◆授業計画 1. 授業方法に関するガイダンス 2. 第一課 3. 第二課 4. 第三課 5. 第四課 6. 第五課 7. 第六課 8. 予備日（小テストまたは補助教材） 9. 第七課 10. 第八課 11. 第九課 12. 第十課	
◆評価方法 出席率と試験成績により評価する。 三回欠席で不合格にする。			
◆テキスト、参考文献 『中国語実習コース』			

03年度以降 02年度以前	中国語Ⅳ（会話 1,2） 中国語Ⅳ（会話）	担当者	永田小絵
◆講義目的、講義概要 授業の方法等は全て中国語Ⅲ（会話・LL教室）に準じる。		◆授業計画 1. 第十一課 2. 第十二課 3. 第十三課 4. 第十四課 5. 第十五課 6. 予備日（小テストまたは補助教材） 7. 第十六課 8. 第十七課 9. 第十八課 10. 第十九課 11. 第二十課 12. 予備日（小テストまたは補助教材）	
◆評価方法 出席率と試験成績により評価する。 三回欠席で不合格にする。			
◆テキスト、参考文献 『中国語実習コース』			

02 年度以前	中国語 V (総合)	担当者	易 友人
◆講義目的、講義概要 <p>中国語 V (総合) は辻康吾教授と二人で、毎週各 1 コマを開講する。同科目の目的は長文の読解と同じく長文の朗読にある。辻教授のシラバスを参照のこと。とくに易教授担当部分では朗読を重視する。</p> <p>中国語学習において発音、基本文型の習得が重要であることは言うまでもない。だがこの段階の教材は発音あるいは基本文型学習のためのものであり、現実には使用されている中国語とは質的に異なる場合が多い。教材では比較的明快、あるいは短文であったものが、実際に使われている中国語は、その語彙、文体など実に多様である。このレベルになると長文の読解と、内容の理解を前提とした朗読によって生きた中国語を学ぶ必要がある。本科目では中国人が通常使用する文章を大量に読むことによって、多数の語彙、文型に慣れ親しむことを目的としている。また内容のある中国語長文を読むことによって中国文化、中国的発想、表現法に対する理解を深めたい。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 教材配布・学習方法指導 2 从《火》说起 3 同 4 “屡战屡败”与“屡败屡战” 5 同 6 从“吃食堂”谈起 7 同 8 “德才兼备”为什么不说“才德兼备” 9 同 10 民以食为天 11 同 12 男大当婚，女大当嫁 	
◆ 評価方法 出席点、期末テスト			
◆テキスト、参考文献 教材は第 1 回授業で配布 日中辞典、各種中中辞典、各種事典などを利用			

02 年度以前	中国語 V (総合)	担当者	易 友人
◆講義目的、講義概要 <p style="text-align: center; font-size: 1.2em;">春学期と同一</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 冠, 冕, 巾, 幘, 帽 2 同 3 “吃饭了吗?”和“你去哪儿?” 4 同 5 “哪里, 哪里”说起 6 同 7 从“同志”, “师傅”到“先生”, “小姐” 8 同 9 摇头不算, 点头算 10 同 11 从“汉委奴国王”印说起 12 和字 13 “切符”与“切手” 	
◆ 評価方法 春学期と同一			
◆テキスト、参考文献 春学期と同一			

02年度以前	中国語Ⅴ（総合）	担当者	辻 康吾
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>中国語Ⅴ（総合）は易友人教授と二人で、毎週各1コマを開講する。同科目の目的は長文の読解と同じく長文の朗読にある。次頁の易教授のシラバスを参照のこと。</p> <p>中国語学習において発音、基本文型の習得が重要であることは言うまでもない。だがこの段階の教材は発音あるいは基本文型学習のためのものであり、現実に使用されている中国語とは質的に異なる場合が多い。教材では比較的明快、あるいは短文であったものが、実際に使われている中国語は、その語彙、文体など実に多様である。このレベルになると長文の読解と、内容の理解を前提とした朗読によって生きた中国語を学ぶ必要がある。本科目では中国人が通常使用する文章を大量に読むことによって、多数の語彙、文型に慣れ親しむことを目的としている。また内容のある中国語長文を読むことによって中国文化、中国的発想、表現法に対する理解を深めたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 教材配布・学習方法指導 2 从《施氏食狮史》谈起 3 同 4 “年年有鱼(余)”与“碎碎(岁岁)平安” 5 同 6 “向前看”与“向钱看” 7 同 8 道是无情(情)却有情(晴) 9 同 10 苍颉造字、夜有鬼哭 11 同 12 敬惜字纸与测字算命 	
◆ 評価方法			
出席点、期末テスト			
◆テキスト、参考文献			
教材は第1回授業で配布 日中辞典、各種中中辞典、各種事典などを利用			

02年度以前	中国語Ⅴ（総合）	担当者	辻 康吾
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p style="text-align: center;">春学期と同一</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 性別歧视与“女”字旁 2 同 3 贝币, 铜钱与金银 4 同 5 丝绸与丝绸之路 6 同 7 状元,举人,秀才 8 同 9 说“气” 10 同 11 応用文 12 同 13 同 	
◆ 評価方法			
春学期と同一			
◆テキスト、参考文献			
春学期と同一			

02 年度以前	中国語 V (総合)	担当者	武信 彰
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>世界に類を見ないほど長きにわたって連綿と「書き記す」歴史をもつ中国語の世界にあつては、書面語と口語の並存、蓄積される膨大な常套表現、紛れ込む地域差等々、その読解にあたって必要とされる準備的知識と障碍となるノイズが想像を越えるほどに大きい。</p> <p>さらに、日本語を母語とする者にとって、日中同形語をはじめとして日中で様々に交叉する要素を通して、ややもすると組み易しと誤解して種々に読み誤りを繰り返し、結果としていわば一つの虚構を描いてしまう危険すらある。</p> <p>中国語を学ぶ者にとって、学校文法にとどまらぬ文法研究に併せ多方面の文化コードに通じて読み解いていく、という本来的な文献読解の姿勢が強く望まれる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、発表、試験による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリント配布。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>中国の通俗的な小説を 12 章に要約改編し、受講生の発表を通して読み進めていく。</p> <p>各章に現れる注意すべき語彙・文法事項、心得ておくべき文化背景を取り上げ、かつ各章テーマを絞って工具書（辞典類・事典類等参考にする補助的書物・資料）を紹介し、以って受講生の読解力を養成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 第 1 章 2 第 2 章 3 第 3 章 4 第 4 章 5 第 5 章 6 第 6 章 7 第 7 章 8 第 8 章 9 第 9 章 10 第 10 章 11 第 11 章 12 第 12 章 	

02 年度以前	中国語 V (総合)	担当者	武信 彰
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>世界に類を見ないほど長きにわたって連綿と「書き記す」歴史をもつ中国語の世界にあつては、書面語と口語の並存、蓄積される膨大な常套表現、紛れ込む地域差等々、その読解にあたって必要とされる準備的知識と障碍となるノイズが想像を越えるほどに大きい。</p> <p>さらに、日本語を母語とする者にとって、日中同形語をはじめとして日中で様々に交叉する要素を通して、ややもすると組み易しと誤解して種々に読み誤りを繰り返し、結果としていわば一つの虚構を描いてしまう危険すらある。</p> <p>中国語を学ぶ者にとって、学校文法にとどまらぬ文法研究に併せ多方面の文化コードに通じて読み解いていく、という本来的な文献読解の姿勢が強く望まれる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、発表、試験による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリント配布。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>中国の通俗的な小説を 12 章に要約改編し、受講生の発表を通して読み進めていく。</p> <p>各章に現れる注意すべき語彙・文法事項、心得ておくべき文化背景を取り上げ、かつ各章テーマを絞って工具書（辞典類・事典類等参考にする補助的書物・資料）を紹介し、以って受講生の読解力を養成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 第 1 章 2 第 2 章 3 第 3 章 4 第 4 章 5 第 5 章 6 第 6 章 7 第 7 章 8 第 8 章 9 第 9 章 10 第 10 章 11 第 11 章 12 第 12 章 	

02年度以前	中国語V（総合）	担当者	永田 小絵
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>この授業では中国語から日本語への翻訳の実践を行います。単なる解釈ではない、仕事にも生かせる翻訳の方法を学ぶクラスです。</p> <p>講師からの指導に加え、翻訳の課題を毎週こなすことで実践的な翻訳の力をつけていくことを目的とします。</p> <p>なお、課題には全てパソコンでダウンロードできる音声ファイルを用意しますので、リスニングとスピーキングの練習もあわせて行えるようになっています。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 翻訳の方法 2. 「北京のPHS」 3. 「ジャイアント・パンダ絶滅の危機」(1) 4. 「ジャイアント・パンダ絶滅の危機」(2) 5. 「国力の充実と留学生」(1) 6. 「国力の充実と留学生」(2) 7. 「現代日本女性の美の基準」(1) 8. 「現代日本女性の美の基準」(2) 9. 「高収入の会議通訳者」 10. 「ホワイトカラーと「入社恐怖症」(1) 11. 「ホワイトカラーと「入社恐怖症」(2) 12. 「頭脳労働者の選ぶ食品」 	
◆ 評価方法			
翻訳の質と出席率によって評価します。 出席率 60%以下で不合格となります。			
◆テキスト、参考文献			
インターネット上にダウンロードサイトを設ける。URLは最初の授業で通知する。			

02年度以前	中国語V（総合）	担当者	永田 小絵
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>この授業では基本的な会話文による日本語から中国語への作文と通訳の実践を行います。</p> <p>毎週、中国語作文の課題を出しますので、中国語に翻訳してから授業に出席してください。</p> <p>授業の前半で、音声による宿題の答えあわせと解説を行い、さらに同じ題材で通訳の練習をしていきます。</p> <p>以上のように作文・聞き取り・訳出を組み合わせた授業になります。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス：通訳・翻訳とはいかなる作業か？ 2. 課題 1 3. 課題 2 4. 課題 3 5. 課題 4 6. 課題 5 7. 課題 6 8. 課題 7 9. 課題 8 10. 課題 9 11. 課題 10 12. 学期のまとめ <p>* 課題は全て日本の社会や文化にかかわる日常的内容です。基本的に、同じテーマ（インターネット、買い物、教育などなど）について、書き言葉と話し言葉（会話）の両方で学んでいきます。</p>	
◆ 評価方法			
毎回、宿題を提出してもらいます。 出席率 60%以下で不合格となります。			
◆テキスト、参考文献			
インターネット上にダウンロードサイトを設ける。URLは最初の授業で通知する。			

02年度以前	中国語Ⅴ（総合）	担当者	吉田 桂子
◆講義目的、講義概要 <p>2003年度日本から中国圏への輸出額は、初めてアメリカ向けを上回り過去最高の13兆7千億円を記録しました。今世紀に入り急成長を続ける中国圏経済とのこうした活発なビジネス往來を背景に、現在、中国語を自由に操れるビジネスマン（ビジネスウーマン）の育成が急速に求められています。</p> <p>本講では、日中間のビジネス分野で使われる基本的なビジネス会話を修得すると共に、ビジネス業務をスムーズに遂行するための正確且つ的確な「契約書」や「仕様書」等の「ビジネス文書」の書き方を学習します。併せて、実際の日中貿易業務の一端に触れることにより、ビジネス業務全般の基礎知識を理解することを目指します。</p> <p>実際の授業では、毎回「ビジネス文書」を作成すると同時に、全員にビジネス会話のチャンスを配分しながらゼミ形式で授業を進めていきます。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 日中貿易概説/商談の基礎 中国語のビジネスレター アポイントメントの取得（一） 2 業務取引の申し込み アポイントメントの取得（二） 3 引き合いに関する商談（一） 見積書の送付依頼 4 引き合いに関する商談（二） サンプル送付に対する返事 5 オファーを巡る話し合い（一） 製品紹介のレター（一） 6 オファーを巡る話し合い（二） 製品紹介のレター（二） 7 商品の紹介（一） オファーシート（一） 8 商品の紹介（二） オファーシート（二） 9 カウンタービット（一） 契約書の送付 10 カウンタービット（二） 契約書（一） 契約内容 11 コミッションについての取り決め（一） 契約書（二） 支払方法 12 コミッションについての取り決め（二） 実習とまとめ 	
◆ 評価方法 <p>出席率、及び定期試験の成績を総合して評価します。総合成績が60点以上で単位取得。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>毎回配布するプリント 『実習ビジネス中国語—商談編』白水社</p>			

02年度以前	中国語Ⅴ（総合）	担当者	吉田 桂子
◆講義目的、講義概要 <p>2003年度日本から中国圏への輸出額は、初めてアメリカ向けを上回り過去最高の13兆7千億円を記録しました。今世紀に入り急成長を続ける中国圏経済とのこうした活発なビジネス往來を背景に、現在、中国語を自由に操れるビジネスマン（ビジネスウーマン）の育成が急速に求められています。</p> <p>本講では、日中間のビジネス分野で使われる基本的なビジネス会話を修得すると共に、ビジネス業務をスムーズに遂行するための正確且つ的確な「契約書」や「仕様書」等の「ビジネス文書」の書き方を学習します。併せて、実際の日中貿易業務の一端に触れることにより、ビジネス全般の基礎知識を理解することを目指します。</p> <p>実際の授業では、毎回「ビジネス文書」を作成すると同時に、全員にビジネス会話のチャンスを配分しながらゼミ形式で授業を進めていきます。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 貿易業務の仕組みと業務の流れについて 2 オーダーに関する商談（一） 契約書の付属文書について 3 オーダーに関する商談（二） 契約書の変更について 4 支払条件をめぐる話し合い（一） 信用状開設の督促 5 支払条件をめぐる話し合い（二） 信用状の期限延期の要請（一） 6 船積み期日について（一） 信用状の期限延期の要請（二） 7 船積み期日について（二） 船積通知とドキュメントの送付 8 パッキング事項の取り決め（一） 保険料の問い合わせ 9 パッキング事項の取り決め（二） 品質に対するクレームの申し立て 10 インシュランス（保険）の取り扱い（一） クレームへの返事 11 インシュランス（保険）の取り扱い（二） 12 実習とまとめ 	
◆ 評価方法 <p>出席率、及び定期試験の成績を総合して評価します。総合成績が60点以上で単位取得。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>毎回配布するプリント 『実習ビジネス中国語—商談編』白水社</p>			

03年度以降 02年度以前	ボランティア論 ボランティア論	担当者	青柳 多恵子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>目的 ボランティアの歴史の変遷を把握し、現代の変化してきた実態を捉え、その原義である自主性・無償性・社会性の歴史的・構造的・思想的変化と活動の意義を学び、現代文化・科学の発展と同様に行動文化としてボランティアの動向と意義を解明していく。またフィールドワークの一つとして自ら体験・実践する。行動文化である。</p> <p>概要 歴史的・社会的変遷と関連事項（宗教・医学）の検索と解明。 産業社会と人間生活の方向性の接点を解明し、本来人間が保持している感情（優しさ・介護心・いたわり）の表現と活用の意義を理解し、社会的位置（小地域的・組織的・国際的）の研究と組織的な協力関係や団体のマネジメント能力の確保について領域とする。 オムニバス講座</p> <p>◆ 評価方法 出席重視と体験レポート</p> <p>◆テキスト、参考文献 適宜プリント配布</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1：4/15 ガイダンス</p> <p>2： /22 歴史の変遷と21世紀の現状</p> <p>3：5/6 [外来講師]世界的活動組織（NPO/NGO）</p> <p>4： /13 社会的必要性和認識</p> <p>5： /20 世界的認識と日本的意識</p> <p>6： /27 [外来講師]養護施設と活動</p> <p>7：6/3 行動文化としての動向とその意義</p> <p>8： /10 自発性（自主性）無償性（無給性）公益性</p> <p>9： /17 [外来講師]救急法の実践</p> <p>10：/24 フィールドワーク（1草加市防災マップ作成</p> <p>11：7/1 フィールドワーク（2）</p> <p>12： /8 [外来講師]手話</p>	

03年度以降 02年度以前	現代世界論(秋学期) 現代世界論(秋学期)	担当者	飯島 一彦
<p>◆講義目標</p> <p>21世紀の国際化時代に必要なグローバルな見方を養い、そして異文化理解への関心を高めることを目標にする。この講義では、経済学部の千代浦昌道教授と益山光央助教授、法学部の一之瀬孝博教授、および外国語学部言語文化学科の有吉広介・辻康吾・佐藤勘治の3教授の計6名が、オムニバス形式で、それぞれ異なる視点から現代世界の重要な諸現象について講義し、現代世界の多面的な理解をはかる。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際経済と為替 ゲスト・スピーカー 益山経済学部助教授 2. 日本経済と外国為替市場 ゲスト・スピーカー 益山助教授 3. 先進国アメリカ合衆国と発展途上国メキシコとの文化交流の歴史 ゲスト・スピーカー 佐藤外国語学部教授 4. メキシコ北部地帯にみられるメキシコ人の生活 ゲスト・スピーカー 佐藤教授 5. 現代アフリカの経済と社会 ゲスト・スピーカー 千代浦経済学部教授 6. 現代アフリカの経済と社会 ゲスト・スピーカー 千代浦教授 7. 国際的な環境問題 ゲスト・スピーカー 一之瀬法学部教授 8. 世界の環境問題への国際法的アプローチ ゲスト・スピーカー 一之瀬教授 9. 現代中国にみられる伝統と社会主義の遺産 ゲスト・スピーカー 辻外国語学部教授 10. 現代中国にみられる農業問題と社会問題 ゲスト・スピーカー 辻教授 11. 高齢者の生活と意識の国際比較 ゲスト・スピーカー 有吉広介本学名誉教授 12. 高齢者の生活と意識への文化の影響 ゲスト・スピーカー 有吉名誉教授 	
<p>◆講義概要</p> <p>まず、益山教授が、外国為替に焦点を合わせて国際経済についての理解をはかり、併せて「バブル経済」と日本の変化にも言及する。次に、佐藤教授が、観光、組立産業、麻薬密輸、不法移民など様々な側面をもつメキシコに焦点をあてて、古くて新しい問題である「南北問題」をみる。次いで、千代浦教授が、奴隷貿易、植民地支配、そして第2次世界大戦後は内戦や紛争に苦しむアフリカ人の歴史、そしてアフリカの政治・経済・社会の諸様相について論じる。さらに、一之瀬教授から、世界の環境問題について国際法的観点を含めて具体的な講義が行われる。続いて、辻教授が、現代中国にみられる経済発展を、その背後にある中国の歴史的・社会的諸比較文化特殊講義（英国人と日本人の生き方の比較 a）条件と関連させて考察し、そしてまた現在の中国にある農業問題と社会諸問題とを全体的にとらえたうえで、中国の将来を予測する。最後に、有吉教授によって、近代化・産業化に伴ってすべての国に人口の高齢化が起こるが、各国の高齢者の生活と意識は、各国の文化との関係でいかに大きく違ってくるかが、説明される。</p>			
<p>◆受講生への要望</p> <p>講義に注意を集中して、常に自分の考え・意見をまとめる努力をすること。各回の終わりに質問・意見を求める。</p>			
<p>◆評価方法</p> <p>各先生の講義の終了後、レポートが求められたり、テストが行われたりするが、それらが総合的に評価される。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>講義の資料は適時配布される。</p>			

		担当者	
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 200px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 200px;"></div>	
◆評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

03年度以降 02年度以前	言語文化概論 言語文化概論	担当者	下川 浩
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>目的：外国語学部共通の教育目標は、特定の外国語の学習を通じて、そ（れら）の外国語の話される共同体の文化と社会構造を、日本語および日本の文化・社会構造と対照しつつ、知ることである。その際、言語と、文化すなわち生活・行動・思考の様式とは、相互に密接な関係にあるということが、自明のこととして前提されている。本講義の目的は、この前提、すなわち言語と文化の相互関係を概括的に論じることである。</p> <p>概要：言語と文化の相互関係を見るにあたり、当然それらの担い手・主体である民族を中心に述べる必要がある。けれども、同じ（ような）言語を話し、同じような生活を営み、同じよう行動し、思考する人々を民族と言うことについては、今日事実と理論の両面から疑問が生じている。人々が出会い、ふれ合い、共同の生活を営む中で、共通の言語と文化が形成される。しかし、生活環境の変化による移動や、生活領域と手段の奪い合いによって、今日のように民族・言語・文化が多様化したのである。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 人と人が出会うとき、人はおたがいにはたらきかけ合い、伝え合う。伝え合い（コミュニケーション）とはどういうものか？ 2. コトバによる伝え合いとコトバによらない伝え合いとはどのように異なるのか？ 3. コトバによる伝え合いの手段であるとともに産物である言語とはどういうものか？ 4. 世界には、どんな言語がどのように分布しているか？ 5. 人種・語族・民族という概念の共通点と相違は？ 6. 民族は歴史的にどのように形成されてきたか？ 7. 文化はどのように形成されてきたか？日本文化とは？ 8. 思想・宗教はどのように人々の生活・行動様式と関係しあうのか？ 9. 「民族紛争」と「少数民族」の問題をどのように考えるべきか？ 10. はたらきかけ合い（社会的相互行為）と伝え合いの原則とは？ 11. コトバはことながらをありのままに表現することができない。ウソとコトバの魔術の違いは？ 12. 平和で豊かな国際社会を築くための伝え合いと関わり合いは、どうあるべきか？ 	
◆評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>随時レポートを課し、各自の実績に基づく自己評価を基本にして、最終評価をする。</p> </div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>高崎通浩『改訂版世界の民族地図』（作品社） コムリー他編『世界言語文化地図』ほか</p> </div>			

03年度以降 02年度以前	比較思想概論 比較思想概論	担当者	松丸 壽雄
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>日本を含めた諸文化を支えてきた宗教思想・哲学・思想の比較を通して、諸地域文化の成立根拠の理解を得て、それをもとにして現代における諸文化の思想傾向を把握する力を育てることを目的とする。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>レポートと授業貢献度</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>適宜指示</p>		<p>◆授業計画</p> <p>1 講義の概要説明と受講についての諸注意。</p> <p>2 レポートの書き方</p> <p>3 東洋の宗教と思想</p> <p>4 東洋の宗教と思想</p> <p>5 東洋の宗教と思想</p> <p>6 東洋の宗教と思想</p> <p>7 東洋の宗教と思想</p> <p>8 西洋の宗教と思想</p> <p>9 西洋の宗教と思想</p> <p>10 西洋の宗教と思想</p> <p>11 西洋の宗教と思想</p> <p>12 東洋思想と西洋思想の比較・検討</p>	

		担当者	
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

03年度以降 02年度以前	日本文化論 a 日本文化論	担当者	小島 幸枝
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>大航海時代の日本学は、ヨーロッパ人は第三者の視点で、当時（室町時代後期から江戸時代初期）の日本の政治状況、文化、思想、宗教、生活状況、風俗に関して、客観的かつ具体的に記述したものである。これを紹介しつつ、現代と（時には古代日本にも目を向けながら）比較して日本文化の特質を確認していきたい。ビデオテープ（45分もの）を援用する。</p> <p>◆評価方法</p> <p>筆記試験</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>日本史小百科『キリシタン』（東京堂出版）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本人はなぜ宗教を信じないか 2 日本人の性癖（ヨーロッパ人から見た日本人） 3 大航海時代はどのようにして始まったか 4 大航海時代の日本の実情 5～11 イエズス会の日本研究と日本の文化（建築、絵画、楽器、衣服、経済、天文学、医学など） 12 まとめ 	

03年度以降 02年度以前	日本文化論 b 日本文化論	担当者	小島 幸枝
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>大航海時代（16～17世紀ごろ）の日本文化の中でとくに精神文化面をとりあげる。生活習慣、価値観、死生観、宗教行事、音楽、礼法、女性の生き方、など。と同時に、日本の中世末の社会情勢、戦国時代の日本人の行動を学ぶ。</p> <p>◆評価方法</p> <p>筆記試験</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>春学期に同じ</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日本の風土 2 「する文化」と「なる文化」 3 永平寺の雲水の修行 4 比叡山千日回峰 5 キリスト教の修道生活 6 日本の礼法（ヴァリニャーノの『日本巡察記』から） 7 日本の国宝絵巻（日本人の描く浄土の世界） 8 安土城復元と信長の世界 9～10 「忠臣蔵」の魅力 11 華道と茶道の発祥（町衆の文化） 12 まとめ 	

03 年度以降 02 年度以前	日本語研究概論 a 日本語研究概論	担当者	浅山佳郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>日本語教育を視野にいれて、ひろく日本語にかかわるさまざまな分野を概観することを目的とする。それぞれの分野についてほりさげることにはできないが、ここから専攻科目としての各日本語学および日本語教育学関係の授業へつながるものであることをこころがけたい。</p> <p>前期の a では、日本語それ自体にかんする各研究分野および社会言語学とかかわる日本語の研究分野から、基礎的かつ典型的ないくつかのトピックをとりあげる。とくに前者は日本語教育のための基礎的な日本語学の入門となる。また後者は最近の日本語教育のあらたな方法を理解するための、やはり基礎的な知識となる。</p> <p>テキストとしてはプリントをもちいるが、履修者には、必ず授業前にそれを読み、また関連する参考図書を読んでくることをもとめる。授業は、教師からの発問にたいして、学習者が予習をもとに解答すること、またそれにたいして教師がコメントをくわえること、という形式ですすめる予定である。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>試験の結果によって評価する。出席をくわえるばあいもある。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリントをもちいる。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の音声 (1) 2. 日本語の音声 (2) 3. 日本語の文字 4. 日本語の構造 (1) 5. 日本語の構造 (2) 6. 日本語の構造 (3) 7. 日本語の類型 8. 日本語の語彙 9. 日本語の名前 10. 日本語の方言 11. 日本語の敬語 12. まとめ 	

03 年度以降 02 年度以前	日本語研究概論 b 日本語研究概論	担当者	浅山佳郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>日本語教育を視野にいれて、ひろく日本語にかかわるさまざまな分野を概観することを目的とする。それぞれの分野についてほりさげることにはできないが、ここから専攻科目としての各日本語学および日本語教育学関係の授業へつながるものであることをこころがけたい。</p> <p>後期の b では、日本語をとりまく時間的空間的環境の問題および言語教育学とかかわる日本語の研究分野から、基礎的かつ典型的ないくつかのトピックをとりあげる。前者は近年しばしば問題としてとりあげられる言語政策とかかわるものであり、後者は、日本語教育をまなぶための基礎的な知識となるものである。</p> <p>前期同様、テキストとしてはプリントをもちいるが、履修者には、必ず授業前にそれを読み、また関連する参考図書を読んでくることをもとめる。授業は、教師からの発問にたいして、学習者が予習をもとに解答すること、またそれにたいして教師がコメントをくわえること、という形式ですすめる予定である。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>試験の結果によって評価する。出席をくわえるばあいもある。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリントをもちいる。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語の歴史 (1) 2. 日本語の歴史 (2) 3. 日本語の位置 4. 日本語教育の歴史 (1) 5. 日本語教育の歴史 (2) 6. 日本語の学習者 (1) 7. 日本語の学習者 (2) 8. 日本語教育の方法 9. 日本語教室の活動 10. 日本語の教師 11. 第 2 言語としての日本語 12. まとめ 	

03年度以降 02年度以前	スペイン・ラテンアメリカ文化論 a スペイン・ラテンアメリカ文化論	担当者	野々山 ミチコ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>コロンブスの新大陸発見から 植民地の独立までの歴史を 述べる。特に人種の構成 に焦点をあてる。</p>		<p>ラテンアメリカからスペインへ入った 食物 ネグリッハ (スペイン語文法を12の 作った人。これにF22 ラテンアメリカのスペイン語圏と する)</p>	
◆評価方法		大航海時代の 征服者	
出席、レポート、試験による。		インディオ	
◆テキスト、参考文献		黒人	
ラテンアメリカ史関係の本を図書館で 探ししてほしい。		メスチン	
		ムラート	
		18世紀のメンタリテ	

03年度以降 02年度以前	スペイン・ラテンアメリカ文化論 b スペイン・ラテンアメリカ文化論	担当者	野々山 ミチコ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>スペイン語の表現にはいろいろな 文化性を見出す。風俗習慣にも 関心。授業には必ずしも 知識が必要ではない。スペイン語を 復習してほしい。</p>		冠婚葬祭	
◆評価方法		夏	
出席、レポート、試験による。		ピロロ	
◆テキスト、参考文献		時間感覚	
野々山 真輝州著「アミーゴとついでに」 昭文社		丁寧な表現	
		名詞の活用	
		simpatíaの意味	
		海唇語	
		リスマス祝いの方	
		(流水に522 順序は変えて 573)	

03年度以降 02年度以前	現代中国論 a 現代中国論	担当者	辻 康吾
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>中国の経済発展には目を見張るものがある。また中国は国際政治、軍事面においても世界の大国の仲間入りをしようとしている。また1972年の国交正常化以来、日中関係は気密化を深め、とくに経済面で中国は日本にとって最大の貿易相手国、大規模援助国となった。しかし冷戦後の国際情勢の変動の中で両国の政治、軍事関係はなお安定せず、相互に新たな関係が摸索されている。</p> <p>本科目は我々の日常生活の中でも次第に比重を高めつつある現代中国への理解を深めようとするものであり、とくにその歴史的な位置付けを試みるものである。最後の王朝が崩壊して約100年、中華人民共和国が成立して約50年、そして現在の近代化路線への転換が行なわれてから約20年—激動を続ける中国、とくに日本とのかかわりについて考え、また中国が直面している諸矛盾・課題について検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 中華帝国 大一統世界とその崩壊 2 帝国の危機 ウェスタン・イマパクト 3 救国への試行錯誤 日本の登場 4 革命未だならず 内戦と侵略 5 惨勝と社会主義へ 冷戦期の中国 6 反右派闘争と独裁化への道 7 大躍進・餓死事件 ユートピアの悲劇 8 緊張する中ソ関係と社会主義圏の崩壊 9 文化大革命 毛沢東の幻想 10 文化大革命 流血の悲劇 11 日中国交正常化と国際関係 12 前期まとめ 中国基礎データ 	
◆ 評価方法			
出席点、期間中小リポート、期末試験			
◆テキスト、参考文献			
<p>【教材】 岩波新書『中国近現代史』 岩波新書『中華人民共和国史』</p> <p>【参考図書】 岩波書店『現代中国事典』 岩波書店『原典中国現代史』</p>			

03年度以降 02年度以前	現代中国論 b 現代中国論	担当者	辻 康吾
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
春学期と同じ		<ol style="list-style-type: none"> 1 鄧小平登場 3中全会 四つの現代化 2 農業生産責任制 経済特区 人民公社解体 4 改革迷走 天安門事件 南巡講話 5 白猫黒猫 先富論の功罪 向銭看 6 課題1 人口問題—民以食为天— 7 課題2 環境問題—環境を犠牲に— 8 課題3 三農問題 失業問題 9 課題4 政治体制改革 10 課題5 日中関係 隣のドラゴン？ 11 課題6 21世紀の中国 LA化問題 12 前後期まとめ 	
◆ 評価方法			
春学期と同じ			
◆テキスト、参考文献			
春学期と同じ			

03年度以降 02年度以前	日本思想史 a 日本思想史	担当者	川村 肇
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>1. 思想に触れることの意味と、歴史を理解することの意味をつかむ。 2. 古代から中世に至る日本思想史の概略的な流れを理解する (a)。近世の思想についての概略を理解する (b)。 3. 現代の私たちを奥深く規定している日本の諸思想について考察する。 4. 「日本」と「日本文化」について、様々な角度から客観的に考える。</p> <p>かなりの分量と数量の文献を読み、学期途中のレポート作成もあるので、意欲的に参加されたい。日本語を母語としない学生は、少なくとも「<u>上級日本語Ⅱ</u>」の単位を取得していること。かなり難解と思われるので、相当量の準備と復習を必要とすることをあらかじめ承知しておいてほしい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>最終レポートおよび、適宜課すレポート、感想文など。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>配布プリント類による／参考文献は、適宜紹介する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の進め方の説明 2 思想史の考え方について(丸山眞男を手掛かりに) 3 思想と経済的社会構成体について 4 日本の近代化について(竹内好を手掛かりに) 5 ヨーロッパから見た日本の伝統(加藤周一を手掛かりに)／レポート(日本の近代化について) 6 古代の思想(古事記の世界／仏教の伝来) 7 古代の思想(平安仏教) 8 中世の思想(鎌倉仏教1) 9 中世の思想(鎌倉仏教2) 10 中世から近世へ(キリスト教の伝来) 11 歴史意識の「古層」について(丸山眞男を読む) 12 歴史意識の「古層」について(子安宣邦を読む) 	

03年度以降 02年度以前	日本思想史 b 日本思想史	担当者	川村 肇
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>春学期の「日本思想史 a」を履修していることを条件とする。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>最終レポートおよび、適宜課すレポート、感想文など。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>配布プリント類による／参考文献は、適宜紹介する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 儒学について 2 朱子学について 3 近世思想史概観／見取り図作成 4 近世の思想(貝原益軒『大疑録』を読む1) 5 近世の思想(貝原益軒『大疑録』を読む2)／気 の思想についてレポート 6 近世の思想(本居宣長と『古事記』) 7 近世の思想(武士道について1) 8 近世の思想(武士道について2) 9 幕末維新期の思想(水戸学について) 10 幕末維新期の思想(民衆の思想) 11 近世から近代へ 12 近代思想史概観 	

03年度以降 02年度以降	日本文化・芸能論 a 日本文化・芸能論	担当者	飯島一彦
◆講義目的、講義概要 文化とは、ある特定の間人集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたものの総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。無意識の行動である日常の振る舞いや、暗黙の了解の裡に存在する価値観もすべて文化である。 日本という文化単位は、主にその歴史的・地理的要因から種々様々な文化を持ち、その中には他国の文化と共通するものもあれば、他に見られない独特なものもある。それらを一望するのは難しいことであるが、本講義は映像資料を多用しながら、芸能という側面から日本文化全体を貫く価値観・ものの考え方を見ていく。なぜなら、芸能は物の形としては残らないが、その振る舞いは文化の根底に潜む無意識や、行動の構造をよく示しているからである。 春学期は日本という文化の中で人々が「目に見えない存在」とどう対峙してきたかを、「神」と「米」を手掛かりに探るのがテーマである。 なお、6～7月に歌舞伎の鑑賞を行う。		◆授業計画 1 オリエンテーション・導入 日本とは？文化とは？ 2 日本文化の根底にあるもの 「見えないもの」に対する意識 3 神の出現と芸能① 春日若宮のおん祭 4 神の出現と芸能② 八重山の祭と芸能Ⅰ 5 神の出現と芸能③ 八重山の祭と芸能Ⅱ 6 神の出現と芸能④ 岩手県の鹿踊・剣舞 7 神の出現と芸能⑤ 「自然」と「神」、「魂」と「力」の問題 8 田植の習俗と芸能① 中国地方の花田植 9 田植の習俗と芸能② 東北の田植踊り 10 田植の習俗と芸能③ 能登のアエノコト 11 田植の習俗と芸能④ 四国の豊年踊り 12 まとめ	
◆ 評価方法 数回実施する小レポート、学期末試験の成績			
◆テキスト、参考文献 教室でその都度指示する			

03年度以降 02年度以降	日本文化・芸能論 b 日本文化・芸能論	担当者	飯島一彦
◆講義目的、講義概要 文化とは、ある特定の間人集団が生活をし、それを維持するために必要と考える心の動きが形として表れたものの総体を指す。決して優れた美術作品や代表的な建築のみを言うのではない。無意識の行動である日常の振る舞いや、暗黙の了解の裡に存在する価値観もすべて文化である。 日本という文化単位は、主にその歴史的・地理的要因から種々様々な文化を持ち、その中には他国の文化と共通するものもあれば、他に見られない独特なものもある。それらを一望するのは難しいことであるが、本講義は映像資料を多用しながら、芸能という側面から日本文化全体を貫く価値観・ものの考え方を見ていく。なぜなら、芸能は物の形としては残らないが、その振る舞いは文化の根底に潜む無意識や、行動の構造をよく示しているからである。 秋学期は日本という文化の中で人間同士が互いの関わりをどう捕らえてきたか、「恋」と「歴史」を題材に考えていくのがテーマである。 なお11～12月に能または文楽の鑑賞を行う。		◆授業計画 1 オリエンテーション・導入 日本とは？文化とは？ 2 日本文化における人間関係 対峙する「恋」、振り返る「歴史」 3 日本文化における「恋」の諸相 「弧悲」・性愛・恋愛・愛執・男色 4 芸能における「恋」の表現① 民俗芸能 5 芸能における「恋」の表現② 歌舞伎Ⅰ 6 芸能における「恋」の表現③ 歌舞伎Ⅱ 7 芸能における「恋」の表現④ 文楽 8 芸能における「歴史」の表現① 狂言 9 芸能における「歴史」の表現② 能 10 芸能における「歴史」の表現③ 歌舞伎 11 日本文化における人間関係 個人の対峙・集団の対峙・過去と現在の対峙 12 まとめ	
◆ 評価方法 数回実施する小レポート、学期末試験の成績			
◆テキスト、参考文献 教室でその都度指示する			

03 年度以降 02 年度以前	日本近現代史 a 日本近現代史	担当者	丸浜 昭
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>1945 年 8 月 15 日に終わった戦争のことを、日本人は普通なんと呼ぶだろうか。ここでは「15 年戦争」と表現したが、他に「太平洋戦争」「アジア・太平洋戦争」「第二次世界大戦」そして「大東亜戦争」などがあがるだろう。戦争の呼称は、その戦争を基本的にどういう性格のものにとらえているかということと結びついている。いくつかの呼称は、この戦争が多様に認識されていることを示す。そこにどういう問題があるだろうか。</p> <p>戦後 60 年になろうとしているが、この戦争をどうとらえるかは現代日本社会の中で一つの争点であり、底流で日本社会のあり方を規定しているように思える。この戦争をさまざまな角度からとらえなおし、それを通して日本人の戦争認識のあり方を考えてみたい。</p> <p>なお、適宜、ビデオを使用する予定である。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>論述試験を実施</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>講義の中で紹介</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「15 年戦争」の全体像をめぐって① 2 「15 年戦争」の全体像をめぐって② 3 被害の認識①—空襲 4 被害の認識②—原爆 5 沖縄戦の体験から学ぶ 6 事実をどう認識するか①—731 部隊 7 事実をどう認識するか②—南京事件 8 事実をどう認識するか③—強制連行と従軍慰安婦 9 兵士と民衆①—日本の軍隊 10 兵士と民衆②—満州・太平洋の島々で 11 兵士と民衆③—総動員体制下で 12 再び「15 年戦争」の全体像をめぐって 	

03 年度以降 02 年度以前	日本近現代史 b 日本近現代史	担当者	丸浜 昭
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>「15 年戦争」は、戦後 60 年に近づいた今日にでも、日本の社会に大きな影響を与えている。そして、そこには戦争そのものの問題だけでなく、戦後史のさまざまな局面の中で 15 年戦争がどうとらえられ、どう処理されてきたか、という問題がある。たとえば、戦後の日米関係が、この戦争の処理や日本人の戦争認識に大きな影響を与えてきた事実がある。今日でも中国や韓国の人々から戦後補償の要求が噴出している背景には、この戦後の歴史がある。日本の民衆の戦争認識がどのように形成され、どのような課題をもっているかも考えてみたい。</p> <p>こうした「戦後史の中の 15 年戦争」を取りあげていくことで、現在の日本と「15 年戦争」との関わりを考えたい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>論述試験を実施</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>講義の中で紹介する</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 戦争の終わり方と一億総ざんげ論 2 民主化と戦争責任論議 3 東京裁判をめぐって 4 サンフランシスコ講和のもった問題 5 軍人恩給と日本遺族会 6 東南アジア諸国への賠償をめぐって 7 高度経済成長と日韓条約 8 ベトナム戦争の中で 9 日中国交回復への道のり 10 アジア民衆からの戦後補償要求 11 戦後 50 年の国会決議をめぐって 12 現代の戦争と過去の戦争 	

03年度以降	日本文学	担当者	飯島一彦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>文学（言語芸術作品）とは、本来読んであるいは聴いて楽しめればそれでいいものである。むしろ楽しみ方には色々な道があるが、文学が表現される時、その楽しみ方があらかじめ指示されているわけではない。</p> <p>むしろ、時代や社会の状況に応じて表現の意図には制約があったはずだが、我々がそれを受け止める時に、個人で楽しむ分にはなんら気にする必要はない。であるならば、なぜ大学の講義で文学を取り上げなければならないのか？</p> <p>その目的の一つは、様々な文学を受け止めることによって言語表現を豊かにするために、その方法を獲得することである。もう一つは文学がどう表現されたかを理解することで、文化の生成の有り様を理解することである。そのために古典から近現代の作品まで、短い期間にかなりの分量を毎週必ず読むことになるので、心して受講されたい。</p> <p>必要に応じて薄目の文庫本の購入を指示し、諸君に読破を要求することになる。</p> <p>毎回の小レポート</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>教室でプリントを配布、または購入を指示</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション・導入 日本文学とは何か？日本文学のジャンル 2 ウタの世界① 古典和歌 3 ウタの世界② 近現代和歌 4 ウタの世界③ 声に出して歌うウタ（歌謡） 5 カタリの世界① 古典Ⅰ（モノガタリ・随筆） 6 カタリの世界② 古典Ⅱ（作り物語・戯作） 7 カタリの世界③ 古典Ⅲ（説話・落咄） 8 カタリの世界④ 古典Ⅳ（歴史をカタル） 9 近代短詞形文学 新体詩・詩・キャッチコピー 10 近代散文① 文語体から言文一致へ 11 近代散文② 知的文体の確立（近代小説の誕生） 12 近現代小説 大正・昭和・平成 	

		担当者	
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

03 年度以降 02 年度以前	日本経済論 a 日本経済論	担当者	波形 昭一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>現在の日本経済を理解するには、その生い立ちを知っておくことが重要である。とりわけ高度成長期についての知識が不可欠である。そのため「日本経済論 a」では、高度成長期における日本経済の問題を中心に講義する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末試験の結果（通年講義は春期・秋期の合計）で評価する。相対評価方法を採用。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>主に統計表などのプリントを配布。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 戦後民主化政策と経済改革 3. 戦後経済復興対策 4. ドッジ・ラインとシャープ勧告 5. 朝鮮戦争と日本経済 6. 高度成長時代の到来 7. 高度成長の構造 8. 高度成長の精神的土台 9. 高度成長の時代背景 10. 高度成長の終焉(1) ドル・ショック 11. 高度成長の終焉(2) オイル・ショック 12. スタグフレーションと日本経済の構造転換 	

03 年度以降 02 年度以前	日本経済論 b 日本経済論	担当者	波形 昭一
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>1980年代から日本経済をめぐる内外の諸環境は大きく構造転換し、その結果として現在の日本経済がある。したがって「日本経済論 b」では、春学期の講義をふまえて、80年代における日本経済の構造変化とその結果としての「失われた10年」について論述し、そのうえで最近における日本経済の再建論議の当否を議論してみたい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末試験の結果（通年講義は春期・秋期の合計）で評価する。相対評価方法を採用。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>主に統計表などのプリントを配布。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. スタグフレーションとトリレンマ 2. レーガノミクス 3. グローバル化の波 4. 日本経済のバブル化 5. バブル経済の発生原因 6. バブル崩壊と複合不況 7. 「失われた10年」(1) 8. 「失われた10年」(2) 9. 景気対策か構造改革か(1) 10. 景気対策か構造改革か(2) 11. 「第三の道」論 12. まとめ 日本経済の現状 	

03 年度以降 02 年度以降	日本政治外交史 a 日本政治外交史	担当者	福 永 文 夫
◆講義目的、講義概要 <p>21 世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると言えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。</p> <p>本講義では、戦後日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考えてみたい。敗戦を経て、どのようにして戦後日本がつけられたかを、アメリカの日本占領政策をたどり、それに日本の諸政治勢力とくに諸政党がどう対応していったかを考えてみたい。その際、日本国憲法によって生み出された体制がどのようなものであったか、占領期に行われた改革がどのような影響を日本に与えたかを見してみる。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに―戦後日本と国際環境― 2. 日米戦争への道 3. 米国の占領政策 (1) ―ローズベルト 4. 米国の占領政策 (2) ―国務省知日派の闘い 5. 米国の占領政策 (3) ―ヤルタからポツダムへ 6. 敗戦と占領の開始 7. 政党の復活―戦前と戦後 8. 新憲法の誕生 9. 占領改革 10. 戦後日本の出発―政党政治の復活 11. 中道政権の形成と崩壊―改革から復興へ― 12. おわりに 	
講義中に行う平常試験 (50 点) と年度末の定期試験 (50 点) によって判定する。			
◆テキスト、参考文献 未定			

03 年度以降 02 年度以降	日本政治外交史 b 日本政治外交史	担当者	福 永 文 夫
◆講義目的、講義概要 <p>21 世紀に入っても、日本政治は混迷の淵から抜け出せないでいる。私たちは、出口を求めてさまよっていると言えよう。いずれにせよ、未来の選択は、過去の経験と現在の選択においてしか開かれない。</p> <p>本講義では、戦後日本の政治と外交を論ずることで、この国の来し方を考えてみたい。まず新憲法体制によって再生した戦後日本が、サンフランシスコ講和条約によって独立を達成した跡を歴史的にたどる。ついで、それが日本の政治と外交にどのような影響を及ぼし、それに即応して生まれた「55 年体制」とはどのような内実をもつものであったかを明らかにし、およそ 1970 年までをめぐりにその変化を見てみたい。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに―国際社会と戦後日本― 2. 吉田茂の再登場 3. 講和への胎動 4. 「全面講和論」の展開 5. 講和をめぐる国際関係 6. サンフランシスコ講和 7. 保守勢力の混迷 8. 「55 年体制」の成立―保守合同と社会党の統一 9. 鳩山・岸内閣 10. 60 年安保騒動と政党政治 11. 池田・佐藤政権 12. おわりに 	
◆ 評価方法 講義中に行う平常試験 (50 点) と年度末の定期試験 (50 点) によって判定する。			
◆テキスト、参考文献 未定			

03年度以降 02年度以前	日本研究特殊講義（能楽における中世武士の諸 a） 日本研究特殊講義 A(能楽における中世武士の諸像)	担当者	瀬尾 菊次
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>中世に誕生した「能楽」は、21世紀世界遺産に指定され世界の文化と認められましたが、遺産として遺されたものではなく、舞台芸術として現代に生きております。しかしながらとかく古典芸能と難しく捉えられがちです。この能楽の全体像を、現役の能楽師の視点から平易に解明し、また他の芸能にどのような影響を与えていったかを考察します。</p> <p>平安時代末期に現れ、悲劇のヒーローとして膾炙されている源義経の、生涯・時代背景を読み解き、その義経を主人公とした能「安宅」を題材にして、作品の鑑賞、さらに能が他の芸能(歌舞伎・映画)にどのように取り入れられドラマ化されたか、ビデオで鑑賞しながら比較します。</p> <p>前期は能楽の知識が主となり、後期は作品鑑賞が中心となるが、単なる能の紹介、作品鑑賞にとどまらず、「能楽」への理解度を深める目的のため、通年受講を希望します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> ①能楽の紹介 ②能楽の概説 ③能楽の流れ ④能楽を演じる各役 ⑤能舞台について ⑥能の演目の種類 ⑦夢幻能と現在能 ⑧夢幻能「井筒」の解釈と鑑賞Ⅰ ⑨夢幻能「井筒」の解釈と鑑賞Ⅱ ⑩能と現代演劇のかかわり ⑪能の作品と誕生ゆかりの地 ⑫まとめ 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>課題レポート・能楽鑑賞レポート</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>関連資料をコピー配布</p>			

03年度以降 02年度以前	日本研究特殊講義(能楽における中世武士の諸像 b) 日本研究特殊講義 A(能楽における中世武士の諸像)	担当者	瀬尾 菊次
<p>◆講義目的、講義概要</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> ①源義経の生涯と時代背景Ⅰ ②源義経の生涯と時代背景Ⅱ ③義経の能 ④能「安宅」の解釈と鑑賞Ⅰ ⑤能「安宅」の解釈と鑑賞Ⅱ ⑥能「安宅」の解釈と鑑賞Ⅲ ⑦歌舞伎「勸進帳」の鑑賞Ⅰ ⑧歌舞伎「勸進帳」の鑑賞Ⅱ ⑨黒澤明監督作品における「安宅」 ⑩「安宅」と「勸進帳」の比較Ⅰ ⑪「安宅」と「勸進帳」の比較Ⅱ ⑫まとめ 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>課題レポート・能楽鑑賞レポート</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>関連資料をコピー配布</p>			

03年度以降 02年度以前	日本語文法論 a 日本語文法論	担当者	浅山佳郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>日本語教育のための日本語文法をまなぶ。目標は2つある。1つは、基礎的かつ体系的な日本語文法の知識を獲得することである。もう1つは、日本語教育のなかでであろうであろう個別の文法的な問題を解決するための技術、つまり言語を規則としてかんがえることのできる能力を養成することである。</p> <p>外国語として日本語を学習するひとびとへの教育のためには、われわれが小中学校で学習してきた「国文法」では不足する。日本語教育のための文法は、他の言語の文法システムをもつ人にとっても理解可能な汎用性のたかいものでなければならない。また文を産出することのできる規則でなければならない。こうしたことを前提としてふまえたうえで、日本語教育のための文法体系をまなぶ。</p> <p>前期のaでは、活用を中心とする形態論、および単文の命題レベルの統語論、および述語の複合語尾の文法をあつかう。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>試験の結果で評価する。なお出席も評価にふくめるばあいがある。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリントをもちいる。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 形態論 (1) 単語 2. 形態論 (2) 動詞 3. 形態論 (3) 形容詞 4. 形態論 (4) 名詞 5. 命題の構造 (1) 命題と述語 6. 命題の構造 (2) 格 7. 命題の構造 (3) 格のパターンと構文 8. 命題の構造 (4) その他の格助詞表現 9. 複合語尾 (1) 恩恵と可能 10. 複合語尾 (2) ボイス 11. 複合語尾 (3) アスペクト 12. 複合語尾 (4) 否定 	

03年度以降 02年度以前	日本語文法論 b 日本語文法論	担当者	浅山佳郎
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>日本語教育のための日本語文法をまなぶ。目標は2つある。1つは、基礎的かつ体系的な日本語文法の知識を獲得することである。もう1つは、日本語教育のなかでであろうであろう個別の文法的な問題を解決するための技術、つまり言語を規則としてかんがえることのできる能力を養成することである。</p> <p>外国語として日本語を学習するひとびとへの教育のためには、われわれが小中学校で学習してきた「国文法」では不足する。日本語教育のための文法は、他の言語の文法システムをもつ人にとっても理解可能な汎用性のたかいものでなければならない。また文を産出することのできる規則でなければならない。こうしたことを前提としてふまえたうえで、日本語教育のための文法体系をまなぶ。</p> <p>後期のbでは、修飾ととりたて、およびモダリティにかんする文法と、複文の文法をあつかう。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>試験の結果で評価する。なお出席も評価にふくめるばあいがある。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>プリントをもちいる。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 修飾 (1) 連用修飾 2. 修飾 (2) 連体修飾 3. とりたて 4. テンス 5. モダリティ (1) 現実制御 6. モダリティ (2) 認識表示 7. モダリティ (3) 終助詞 8. 複文 (1) 並列節 9. 複文 (2) 従属節 10. 複文 (3) 連体節 11. 複文 (4) 補足節 12. 主題と指示 	

03年度以降 02年度以前	日本語音声学 a 日本語音声学	担当者	伊豆山 敦子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>人は自分の第一言語を無意識に習得する。無意識のうちに習得した日本語音声面の考察をする。それは、日本語研究および日本語教育の基本である。</p> <p>そのためには、言語音声は、一般的にどのように考察されるかを知らなければならない。そこで、日本語の音声を調音音声学的に考察しながら、国際音声字母表による音声表記を学ぶ。さらに、初歩的な音韻論的考察も行う。</p> <p>一般的な基礎の上で、日本語が第一言語の人は、自己の音声面の認識を持つことが必要であり、第二言語の人は、第一言語との差異を認識することが望ましい。それは、言語教育の基本である。</p> <p>受講生の人数にもよるが、できるだけ音声学的訓練を行いたい。そのため、積極性をもって受講していただきたい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>授業への積極的参加。授業中随時行う聴取テスト。期末筆記テスト。これらの総合による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>川上泰『日本語音声概説』(1977)おうふう。 城田俊『日本語の音』(1993)ひつじ書房</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 仮名と単音。国際音声字母について。 2. 母音と子音。母音の始め方と終わり方。有声・無声ということ。 3. パ行音とバ行音。 4. マ行音。鼻音について。 5. 「へ」と「フ」。 6. [t] と[d]。 7. [s] と[z]。 8. [ʃ] と[ʒ]。 9. 破擦音。 10. ナ行音。 11. [c] 。 12. 復習。 	

03年度以降 02年度以前	日本語音声学 b 日本語音声学	担当者	伊豆山敦子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>前期と同じ。</p> <p>特別の事情が無い限り、前期「日本語音声学 a」を履修しておくことが望ましい。</p> <p>後期では、単音の考察を終え、音節、拍などの単位を考察し、音韻論の初歩及び時間が許せばアクセント体系にも触れたい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>授業内容への積極的参加。随時行う聴取テスト。期末筆記テスト。これらの総合による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>川上泰『日本語音声概説』(1977)おうふう。 城田俊『日本語の音』(1993)ひつじ書房</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 前期講義内容の概要。 2. カ行音とガ行音。 3. ラ行音。 4. 半母音。 5. ンと撥音。 6. 無声音節。 7. 長母音音節。 8. 促音について。 9. 音節の種類。 10. 音声学と音韻論。 11. 音調とアクセント 12. 復習 	

03年度以降 02年度以前	日本語史 a 日本語史	担当者	遠藤 和夫
◆講義目的、講義概要 日本のことばがどのようにして現在の状態に到ったのかを、日本人の教養として身につけてもらうことを講義の目的とする。 春季講座では、年代順位どのように変遷してきたかを取り上げる。		◆授業計画 1. 序説：日本語とは 2. 時代区分 3. 資料概説 4. 上代の音韻・音声 5. 中古の音韻・音声 6. 中世の音韻・音声 7. 近世の音韻・音声 8. 近代の音韻・音声 9. 古代の語法 10. 中古の語法 11. 近世・近代の語法 12. まとめ	
◆ 評価方法 出席，レポート，テストなどを総合して評価する。			
◆テキスト、参考文献 沖森 卓也編「日本語史」（おうふう）'89			

03年度以降 02年度以前	日本語史 b 日本語史	担当者	遠藤 和夫
◆講義目的、講義概要 教養としての日本語沿革史を、部門別に講義する。春季講座で、説き足りなかったところや知識の不足している部門を確認して、十全のものにしてもらう。		◆授業計画 1. 日本語の研究分野 2. 音韻史① 3. 音韻史② 4. 文法史① 5. 文法史② 6. 文法史③ 7. 文法史④ 8. 文法史⑤ 9. 語彙史① 10. 語彙史② 11. 文字・表記史① 12. 文字・表記史②	
◆ 評価方法 出席・レポート・テストを総合して評価する。			
◆テキスト、参考文献 沖森 卓也編「日本語史」（おうふう）'89			

03年度以降 02年度以前	対照言語学 a 対照言語学	担当者	中西家栄子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>① 第二言語習得の理論を概観したのち、日本語と他の言語の共時的な比較対照及び誤用分析の方法を学ぶ。対照によって得られた知見を日本語教育にどのように応用するかも、あわせて検討する。また、日本語教育への応用という観点から、日本語学習者にとって特に習得困難とされる項目を取り上げ、習得を困難にさせるさまざまな要因について検討したい。</p> <p>具体的なクラス運営 ① クラスの形態は講義と演習(学生による誤用分析)を中心とする。 ② 対照研究の論文を通じて、対照研究の方法を学ぶ。 ③ 後期には学生による課題発表を中心とする。その課題は、最終的にはレポートとして完成させ提出する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>① 前期 a、後期 b のテスト ② 課題発表 ③ 出席率 ④ クラス態度</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>参考文献はクラスで紹介する。テキストは特に指定しない。基本的にはクラスでのプリント配布を中心とする。欠席した場合はは自分の責任で他の学生にコピーをさせともうらうこと。</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション – 対照研究とは？ 誤用分析とは？ 言語類型論と対照研究 2. 音のしくみ 3. 語順 4. 形容詞 5. 指示代名詞 6. 人称代名詞 7. 動詞 8. テンスとアスペクト 9. 日本語の構造(主題・解説 vs 主語・述部) 10. ヴォイス 11. 授受表現 12. モダリティ 13. その他、「原因」「理由」(推量)等さまざまな表現 14. 論文研究 <p>上記の項目は授業で取り上げる予定の項目であり、学生の興味、希望によっては変更される。</p>	

03年度以降 02年度以前	対照言語学 b 対照言語学	担当者	中西家栄子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>前期に同じ</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>前期に同じ</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>前期に同じ</p>		<p>◆ 授業計画</p> <p>引き続き、上記の項目について講義+演習の形で進めるが、後期は学生の人数にもよるが、課題発表が中心となる。</p>	

03年度以降 02年度以前	日本語教授法 Ia 日本語教授法 I	担当者	中西家栄子
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>将来、日本語教育に従事してみたい、海外で、或は、ボランティアで日本語を教えてみたいと考える学生を対象にしたコースである（但し、言語教育という観点からは、他言語の教育に応用される）。言語学習及び習得理論の紹介。外国語教授法の概観。発話場面や文脈にあった言語運用能力を育成する指導法を考える。具体的な教材の紹介、教室活動の展開、文型・文法項目等の指導法を紹介したのち、実際に教案・教材を作成してもらう。基本的には極めて実践的な授業である。課題研究の報告についてはグループワークで行なうが、基本的には講義が中心となる。日本語教育の理論と実践の全般にわたるかなり広範囲な内容になる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>①課題提出 ②前期・後期テスト ③出席率</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>①『実践日本語教授法』 中西家栄子・茅野直子 バベル出版 ②クラスでのプリント配布 欠席の場合は学生個人の責任で他の学生からコピーをさせてもらうこと</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションとコースデザイン 2. コースデザイン（レディネス分析とニーズ分析 3. 学習理論・言語習得理論 4. 外国教授法の流れ 5. オーディオリンガル vs コミュニカティブ・アプローチ 6. 教材・教具論 <課題：教科書評価> グループ内での報告 7. 技能別指導法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 日本語の音声教育 (2) 聴解指導 (3) 文字指導 (4) 読解指導<課題：読解教材の作成> (5) 作文指導 (6) 文法/文型の指導（例：初級・中級文型、 (7) 会話指導 <ドリルの作成> コミュニケーション活動の紹介 (8) 文法（文型）の指導 導入方法 コミュニケーション活動の作成 <課題：上記活動の作成> 8. クラス活動全体の展開 教案の書き方 - 導入からまとめまで クラスマネジメント（例：誤用の訂正方法） 9. <課題：教案の作成>とクラス内でのグループ発表 10. テスト作成法 評価 <p>上記のクラス数配分は、その時点での進行状況に合わせる。</p>	

03年度以降 02年度以前	日本語教授法 Ib 日本語教授法 I	担当者	中西家栄子
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>前期に同じ</p> <p>評価方法</p> <p>前期に同じ</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>前期に同じ</p>		<p>◆授業計画</p> <p>前期の上記の授業計画にあることを引き続き進める</p>	

02年度以前	日本語教授法 II	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>外国語として日本語を教える具体的な方法を学ぶ。日本語教育機関での実習を行なうための完全に演習中心の授業である。毎回、学生による模擬授業がある。日本語教師として教壇に立つ以外の学生は、外国人学生になり、その授業を受けながら、客観的に模擬授業を観察する。各人は教室活動、指導法について具体的に評価・検討する。模擬授業は少なくとも2、5回程度ある。模擬授業を行うだけでなく、模擬授業を的確に観察すること。観察を通して実践を学ぶという態度で履修して欲しい。毎回、模擬授業のビデオ撮影がある。ビデオテープを準備すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>①模擬授業 ②教案の提出 ③レポート (授業観察のまとめと自己分析) ④出席</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『みんなの日本語』</p>		<p>◆授業計画</p> <p>オリエンテーションと分担の取り決め。教案の書き方の復習後、2回目より模擬授業にはいる。</p> <p>2回目から12回目まで模擬 グループによる模擬+個人の模擬</p>	

		担当者	
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

03年度以降	日本語学 a	担当者	金田一 秀穂
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>私たちの考えは、多く、日本語に依っている。 日本語の形を知ることで、思想の形にせまりたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語句の領域 2. 音声から見た日本語 3. 音声から見た日本語 4. 音声と語彙 5. 語彙論の方法 6. 語彙の分類 7. 借用語 8. 語彙の構成 9. 語彙の生成 10. 語彙と文法 11. 文の形 12. 文の分類 	
◆評価方法			
試験			
◆テキスト、参考文献			

03年度以降	日本語学 b	担当者	金田一 秀穂
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>思想を伝えるときの言葉は、どのようなものがあるのか。意味は、どのように伝えられているのか。 言葉から考えを作るとして、その限界と可能性を探りたい。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 意味の種類 2. 音声と意味 3. 表記と意味 4. 文体的意味 5. 状況的意味 6. 辞書的意味 7. 認知的意味.分類 8. 認知的意味.比喩 9. 発話の意味 10. 思考と言葉 11. 言語行動へ 12. まとめ 	
◆評価方法			
試験			
◆テキスト、参考文献			

		担当者	
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 250px; width: 100%;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 350px; width: 100%;"></div>	
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>			

03年度以降	日本語教育論	担当者	中西家栄子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>日本語教師になることを目的とした学生のみを対象としたコースではない。日本語、日本語教育、そして語学教育全般にわたって広く興味を持っている学生に受講してもらいたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本語教育と国語教育の違いを知る。 2. 外国人に日本語を教えるとは？ 3. 日本語を外国語として概観する。 4. 日本語の基本的な仕組みを知る。 5. 世界の中における日本語教育の現状を知る。 		<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーションー日本語教育の現場を見る (ビデオ) 2. 日本語教育とは？ 日本語教育と国語教育の違いについて 3. 日本語教育の歴史 4. 『やさしい日本語のしくみ』日本語の音と形 5. 同じ 6. 『やさしい日本語のしくみ』日本語の文法 7. 同じ 8. 同じ 9. 『やさしい日本語のしくみ』日本語らしい表現 10. 同じ 11. 同じ 12. 同じ 	
◆ 評価方法			
<ol style="list-style-type: none"> 1. テスト 2. 宿題提出 3. 出席率 (欠席4回以上はFとする)			
◆テキスト、参考文献			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 庵功雄、他『やさしい日本語のしくみ』くろしお出版 2. プリント配布 			

03年度以降	日本語教育特殊講義（英文文献で読む日本語論 a）	担当者	中西家栄子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>1. この特殊講義は講義の部分もあるが、大部分は全員が参加する演習の形式で進められる。</p> <p>2. 日本語解説書の一つであるテキスト及び日本語習得に関する論文を正確に読解できるよう習練をつむのも目的の一つである。</p> <p>3. 担当部分の英文を担当者があらかじめ達意の日本語に訳し、その要約をつくり、それを参加者に配布できるように準備する。</p> <p>4. 日本語を学ぶ英語話者が陥りがちな誤用を研究し、そこから浮かび出る日本語特徴を考察する。</p> <p>5. その考察を日本語の文法組織の全体像の中に位置づけ、知識の体系化をはかる。</p> <p>6. シラバスに記したものと実際の授業とでは多少前後することがある。また、新たなテーマを加えることがある。</p> <p>授業への積極的な参加が望まれる。</p>		<p>◆ 授業計画</p> <p>初回はオリエンテーションを行う。 発表担当の分担。いかなる方法で勉強をすすめるか説明。 以下の項目を春・秋学期にわたり扱う。 “Situation vs. Person Focus” by John Hinds</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Ellipsis in conversation 2. Referential triggers 3. Situation Focus 4. Blending existential and possessive expressions 5. Avoiding possession marking 6. Transitives, intransitives, and incoatives 7. States rather than actions. 8. Required absence of subjects 9. Responsibility and situation focus 10. Ellipsis in situation focus <p>“An Invitation to Second Language Acquisition Research in Japanese”</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. The Role of Input and Interaction in the Acquisition of Japanese as a Second/Foreign Language 2. Sociolinguistic / interaction-analytic perspectives on AJSL research 3. Contentions of Second Language Acquisition Research 4. Vocabulary Acquisition in Japanese 3. Recent Research in Reading Japanese as a Foreign Language 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>① 課題（まとめ） ②試験の得点 ③出席率（欠席4回以上はF評価とする）</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>① “Situation vs. Person on Focus” by John Hinds, くろしお出版 ②プリント</p>			

03年度以降	日本語教育特殊講義（英文文献で読む日本語論 b）	担当者	中西家栄子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>前期に同じ</p>		<p>◆授業計画</p> <p>6. Recent Research in Reading Japanese as a Foreign Language 7. Studies on L2 writing Instruction in the past and present</p>	
<p>◆ 評価方法</p> <p>前期に同じ</p>		<p>後期にあつては、前記に引き続き、論文を読みその内容を検討していく。</p>	
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>前期に同じ</p>			

02 年度以前	現代思想(春学期完結)	担当者	松丸 壽雄
◆講義目的、講義概要 他者理解の可能性と成立根拠を究明すべく、日本の思想のみならず、理解対象である相手の文化的基盤としての思想を広く理解できる幅広く柔軟な受容能力を高めることを目的とする。 日本の現代諸思想、東洋の諸思想そして西洋の現代諸思想の科学思想の理解と比較を通じて、諸文化の基礎である思想的基盤を理解する。これを基にして、我々の置かれている現代の危機的諸状況を的確に把握し、人類の選択すべき方向を考察する手がかりを得る。 今年は他者理解の問題と同時に無限性の問題にも触れる。本講義は、学生参加型であり、グループを作り、選び取る課題を各グループが発表してゆくことにより成り立つ授業形態であるので、やる気のない学生、単位を取りたいだけの学生には不向きである。		◆授業計画 1. 概要説明 2. 大まかな思想的状況の把握 3. ビデオを見て、課題を決定し、グループ形成 4. グループの調査作業 5. グループの調査作業の報告 6. 第一班と第二班の発表 7. 第一、二班の発表に対する質疑応答 8. グループ作業のとその報告 9. 第三、四班の発表 10. 第三、四班の発表に対する質疑応答 11. 第五、六班の発表 12. 第五、六班の発表に対する質疑応答	
◆ 評価方法 レポートと授業貢献度。			
◆テキスト、参考文献 適宜指示。			

02 年度以前	現代思想 (春学期完結)	担当者	松丸 壽雄
◆講義目的、講義概要 他者理解の可能性と成立根拠を究明すべく、日本の思想のみならず、理解対象である相手の文化的基盤としての思想を広く理解できる幅広く柔軟な受容能力を高めることを目的とする。 日本の現代諸思想、東洋の諸思想そして西洋の現代諸思想の科学思想の理解と比較を通じて、諸文化の基礎である思想的基盤を理解する。これを基にして、我々の置かれている現代の危機的諸状況を的確に把握し、人類の選択すべき方向を考察する手がかりを得る。 今年は他者理解の問題と同時に無限性の問題にも触れる。本講義は、学生参加型であり、グループを作り、選び取る課題を各グループが発表してゆくことにより成り立つ授業形態であるので、やる気のない学生、単位を取りたいだけの学生には不向きである。		◆授業計画 13. 第七、八班の発表 14. 第七、八班の発表に対する質疑応答 15. 第九、十班の発表 16. 第九、十班の発表に対する質疑応答 17. 第十一、十二班の発表 18. 第十一、十二班の発表に対する質疑応答 19. 第十三、十四班の発表 20. 第十三、十四班の発表に対する質疑応答 21. 発表を振り返って、問題点の整理 22. 問題点の現代における意味と解決の方向模索 23. 現代における他者理解の可能性と意味 24. 全体を振り返って	
◆ 評価方法 レポートと授業貢献度。			
◆テキスト、参考文献 適宜指示。			

03年度以降 02年度以前	自然言語処理 a 自然言語処理	担当者	呉 浩東
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>自然言語は日常生活で話したり書いたりする言葉のことで、コンピュータ用の人工言語と区別するために「自然」言語とっている。「処理」は自然言語をコンピュータで扱うための操作で、コンピュータが自然言語を理解したり生成したりするためのものである。本講義は、コンピュータを利用した自然言語の処理に関する方法、そして応用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身に付くことを目標とする。</p> <p>本講義は、自然言語処理の基礎技術について解説する。ここでは、自然言語の形態素・構文解析、意味解析の基礎理論を説明する。さらに、言語処理の知識ソースとしての電子辞書やシソーラスなどの構成と応用方法について概説と実験を行う。コンピュータを使って言語データやソフトのオンライン収集、言語データを用いて演習も行う。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>(1) 最初の講義で指示する。 (2) 必要な資料を配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 言葉とコンピュータ 人工言語、自然言語、自然言語処理の諸方面 2 自然言語処理の問題点 各種の曖昧性現象 3 自然言語処理の予備知識 自然言語処理の諸段階について 4 形態素解析(1) 形態素解析の方法 5 形態素解析(2) 品詞のタグ付け日本語と英語の形態素解析実験 6 単語処理 単語の同定、誤綴の検出と訂正、単語の統計処理、Zipfの法則 7 構文解析(1) 構文構造、構文解析の原理 8 構文解析(2) 構文解析の実験 9 言語処理の知識源(1) 電子辞書、シソーラスの構造と情報抽出 10 言語処理の知識源(2) コーパス、言語データベースの種類と使い方 11 言語の統計処理 コーパスからさまざまな知識の抽出技術 12 オンライン言語資源の使用 インターネットから言語資源の使用方法 	

03年度以降 02年度以前	自然言語処理 b 自然言語処理	担当者	呉 浩東
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は、コンピュータを利用した自然言語の処理に関する方法、そして応用実態について解説し、演習を通じて自然言語処理のノウハウを身に付くことを目標とする。</p> <p>コンピュータを利用して資料やソフトの収集、言語データを用いて演習も同時に行う。さらに、自然言語処理の応用技術を解説し、いくつかの応用例を紹介する。特に、校正支援システムや要約システム、機械翻訳システム、情報検索、自然言語理解システムなどの基本技術・基本アーキテクチャを説明する。そして、実際のシステムを評価し、問題点を検討しながら、これから解決すべき課題を明らかにする。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>(1) 最初の講義で指示する。 (2) 必要な資料を配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 意味解析 意味構造、意味解析に用いる知識 2 知識表現の手法 3 語彙的曖昧性 語彙的曖昧性の解消、訳語選択 4 構文的曖昧性の解消 前置詞句の係り先、等位構造、複雑名詞句構造の解析 5 文書処理(1) 文章の校正支援 6 文書処理(2) 文章の要約自動生成システムの構成、使用及び評価 7 機械翻訳(1) 機械翻訳の処理方式、機械翻訳システムの種類 8 機械翻訳(2) 機械翻訳システムの使用と評価 9 文脈解析 談話構造、照応問題の解決 10 情報検索(1) 情報検索における言語処理技術 11 情報検索(2) 索引語の選定、語の頻度情報の利用、情報の抽出と要約 12 まとめ 	

03 年度以降 02 年度以前	プログラミング論 a (プログラミング論・自然言語処理入門) 情報コミュニケーション研究特殊講義 A (プログラミング論・自然言語処理入門)	担当者	呉 浩東
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼びます。本講義では、プログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにします。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指します。</p> <p>初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつかのプログラムの設計について講義および実習を行います。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2 プログラミング言語の発展史 3 開発ツールとしての Visual Basic の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ 4 Visual Basic の基本操作 コントロール配置、プロパティ設定、コーディング 5 簡単なプログラムの作成 プログラム開発の流れ、プログラムの動作を確認する 6 基本的コントロール 7 オブジェクトと変数 8 選択構造をもつプログラム (1) 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 9 選択構造をもつプログラム (2) 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 10 繰り返しあるプログラムの作成 (1) 11 繰り返しあるプログラムの作成 (2) 12 総合練習 アプリケーションの試作 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>(1) 最初の講義で指示する。 (2) 必要な資料をファイルで配布する。</p>			

03 年度以降 02 年度以前	プログラミング論 b (プログラミング論・自然言語処理入門) 情報コミュニケーション研究特殊講義 A (プログラミング論・自然言語処理入門)	担当者	呉 浩東
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>春学期参照</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前期の復習 2 配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方 3 ファイル操作 (1) シーケンシャルアクセス：データの読み書き 4 ファイル操作 (2) ランダムファイルとランダムアクセス 5 個人情報データベースの設計 6 コントロールの活用 7 応用的なテクニック 8 探索 二分探索、併合、逐次探索 9 ソート 選択ソート、挿入ソート 10 文字列の処理 文字列の照合と置き換え 11 再帰というプログラミング手法 12 さまざまなグラフィックスの処理 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>レポートの提出および出席状況を加味して評価する。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>必要な資料をファイルで配布する。</p>			

03年度以降 02年度以前	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング論) 情報・コミュニケーション研究特殊講義 A (コンピュータ・プログラミング論)	担当者	高柳敏子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>はじめに、コンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から概観する。続いて、シミュラタを利用して、仮想のコンピュータとその上で動くアセンブラ言語(COMET II および CASL II)のプログラミングおよび実習を通じて、ライマン型コンピュータの動作や制御の仕組み、およびコンピュータ内部における情報の表現、さらに基本的なプログラムの仕組み等コンピュータの原理を学ぶ。</p> <p>ライマン型コンピュータは 1945 年に von Neumann によって提案され、実現されたプログラム内蔵方式の電子計算機であるが、現在大型機からパソコンに至るまで身の周りで稼動しているもののほとんどがライマン型であり、見かけの進化に対してコンピュータの内部構造は 50 年前とほとんどかわらない。基本原理は相変わらずプログラム内蔵方式、二進法、逐次制御であり、その基本およびプログラミングの原理を理解するには、上述のような素朴で原始的なコンピュータと言語がむしる向いている。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験、2 回ほどのレポートおよび出席を加味して評価する。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>随時必要な資料を提示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンス、コンピュータの歴史(1) ハードウェア、ライマン型および世代論と記憶素子 2 コンピュータの歴史(2) ソフトウェア、プログラミング言語、オペレーティングシステム 3 ライマン型コンピュータの構成と COMET II 五大装置、語・ビット構成、アドレスリング、命令語、レジスタ 4 情報の表現(1) 整数と 2 の補数表記、2 進法、16 進法 5 CASL II プログラミング (1) CASL II の命令(アセンブラ、マクロ、機械)、プログラム形式 6 CASL II プログラミング (2) ロード・ストア命令、加減算命令、定数定義と領域の確保 7 CASL II シミュラタとその実行 実習(1) プログラムの入力、編集、アセンブル、実行、記憶 8 CASL II プログラミング (3) 実習(2) 乗除算処理、シフト演算 9 CASL II プログラミング (4) 実習(3) 比較演算、分岐処理 10 CASL II プログラミング (5) 実習(4) 繰り返し処理 11 CASL II プログラミング (6) 情報の表現(2) 文字の内部表現とその扱い 12 CASL II プログラミング (7) 実習(5) 総合問題、まとめ 	

03年度以降 02年度以前	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング論) 情報・コミュニケーション研究特殊講義 A (コンピュータ・プログラミング論)	担当者	高柳敏子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>ここでは、上記「プログラミング論 a」の既習すなわちライマン型のコンピュータの基礎を理解していることが前提になる。</p> <p>その上で主にコンパイル言語 C++ をプログラミング言語として使用し、プログラミングの基礎から、問題解決のためのアルゴリズムの実現へと、講義内容意を加速的に広げていくことにより、プログラミングによりどのようなことが可能か、どのような手法が実際に使われているのか等が理解される。</p> <p>Windows マシンの応用ソフトを使用している限り、中でのような手法が使われているか等をほとんど意識することもなく、一般には便利さのみに頼って利用するが、改めてソフトの内部にも思いを寄せてみることができよう。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>定期試験、2 回ほどのレポートおよび出席を加味して評価する。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>随時必要な資料を提示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 アセンブラとコンパイル 実習(1) 例題プログラムの翻訳、関係編集、実行 2 C++言語とは 基本事項、文、ブロック、コメント、整数の四則演算 3 C++プログラミング (1) 情報の表現(1) 実数 4 C++プログラミング (2) 実習(2) 判断・分岐、関係式、関係演算子、論理演算子 5 C++プログラミング (3) 実習(3) 繰り返し処理、配列 6 C++プログラミング (4) 情報の表現(2) 文字と文字列 7 C++プログラミング (5) 関数、メインプログラムとサブプログラム 8 C++プログラミング (6) 実習(4) 関数の作成と利用 9 プログラミングの応用(1) 基本的な整理 10 プログラミングの応用(2) 探索処理 11 プログラミングの応用(3) ファイル処理 12 プログラミングの応用(4) 実習(5) 総合問題、まとめ 	

03 年度以降 02 年度以前	プログラミング論 a(コンピュータ・プログラミング 論) 情報・コミュニケーション研究特殊講義 A (コンピュータ・プログラミング 論)	担当者	立田ルミ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>Visual Basic.NET をプログラミング言語として採りあげ、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能をフルに活用できるベントドリブン型言語である Visual Basic.NET で実際にプログラミングを行うことにより、プログラミングとはどういうことかを体得してもらうことを目的とする。基本的な命令から始め、それらを組み合わせてどのようにプログラミングすればよいかを、例を挙げて講義し、それらの1つ1つの命令に対して解説と演習を行う。演習の課題として、1週間に1度の課題提出をネットワーク上で行ってもらう。最後に自分でテーマを決めて、ソフトウェアの製作を行う。授業の中で、先輩たちの作成したプログラムを紹介する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンスとコンピュータ概説:講義 ソフトウェアの概略とコンピュータの構成 2 Visual Basic.NET の概略:講義と実習 イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ 3 簡単なプログラム作成 (1):講義と実習 アプリケーション開発手順、文字の入出力 4 簡単なプログラム作成 (2):講義と実習 四則演算 5 簡単なプログラム作成 (3):講義と実習 キャッシュレジスター 6 選択のあるプログラム作成 (1):講義と実習 アプリケーションの設計、コントロールの扱い方 7 選択のあるプログラム作成 (2):実習 多くの選択のあるプログラムの処理 8 選択のあるプログラム作成 (3):実習 オプションボタン、チェックボタンの利用 9 選択のあるプログラム作成 (4):実習 リストボックス、ドラッグアンドドロップの利用 10 繰り返しのあるプログラム作成 (1):講義と実習 If と Go To、For Next を用いた繰り返し 11 繰り返しのあるプログラム作成 (12):講義と実習 Case 文、While 文 12 総合問題作成:実習 いろいろなコントロールを用いて問題を作成する 	
◆ 評価方法			
出席 20%、レポート 40%、試験 40%			
◆テキスト、参考文献			
立田ルミ『教育システム情報と Visual Basic』朝倉書店			

03 年度以降 02 年度以前	プログラミング論 b(コンピュータ・プログラミング 論) 情報・コミュニケーション研究特殊講義 A (コンピュータ・プログラミング 論)	担当者	立田ルミ
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>プログラミング論 a で学んだ基礎的なプログラム作成方法を用いて、より複雑なプログラムを作成できることを目的とする。ここでは、様々なソフトウェアがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、Windows の機能を活用して Visual Basic で実際にプログラミングを行う。また、画像や音声などのマルチメディアがファイルとしてどのように扱われているかも理解することを目的としている。また、ファイルや Windows の他のアプリケーションとの連携についても理解し、さらにネットワーク対応のプログラムを作成するにはどのような命令が必要かを理解することを目的とする。最後に自分でテーマを決めてソフトウェアの製作を行い、最終のレポートとする。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 図形の処理 (1): 講義と実習 直線を描く、曲線を描く 2 図形の処理 (2): 講義と実習 円を描く、色を塗る 3 図形の処理 (3): 講義と実習 Windows の画像処理、タイマーの利用 4 図形の処理 (4): 講義と実習 ドラッグアンドドロップの利用 5 音声・動画の処理: 講義と実習 音声を録音する、音声を再生する 6 配列とコントロール配列: 講義と実習 一次元配列、コントロール配列の利用 7 プルダウンメニュー: 実習 コンボボックス、プルダウンメニューの利用 8 ファイルの利用 (1): 講義と実習 テキストファイルの読み込み 9 ファイルの利用 (1): 講義と実習 画像ファイルの読み込み 10 ファイルの利用 (1): 講義と実習 シーケンスファイルの作成 11 ファイルの利用 (1): 講義と実習 シーケンスファイルの読み込みと利用 12 インターネットの利用: 講義と実習 Visual Basic.NET とホームページとのリンク 	
◆ 評価方法			
出席 20%、レポート 40%、試験 40%			
◆テキスト、参考文献			
立田ルミ『教育システム情報と Visual Basic』朝倉書店			

		担当者	
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 350px;"></div>	
◆評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

03年度以降	通訳翻訳論	担当者	永田小絵
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>通訳・翻訳の理論について理解を深めることを目的とします。 通訳・翻訳に関する研究について、さまざまな角度から概観します。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 翻訳通訳はどのように研究されてきたのか 3. 初期の翻訳論 4. 翻訳者による体験的な翻訳論について 5. 日本における翻訳の歴史とノルムの変遷 6. 現代の翻訳研究とその課題 7. 翻訳は教えられるのか 8. 通訳研究の歩み 9. 通訳を歴史的な角度から研究する 10. 「仕事としての通訳」に関する研究 11. 通訳教育とその方法 12. 応用言語学・認知言語学からの通訳研究 	
◆評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">出席率と期末レポートによって評価します。</div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">インターネット上に講義資料をダウンロードできるサイトを開設します。 URLは最初の授業で知らせます。</div>			

03年度以降 02年度以降	異文化間コミュニケーション論 a 異文化間コミュニケーション論	担当者	岡村圭子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>「あなたにとって異文化とはなにか」と訊ねられたとき、わたしたちはどう答えるだろうか。逆に「あなたの文化は？」と問われたらどうか。</p> <p>異文化間コミュニケーション論では、「遠い国」「違うコトバ」だけを扱うわけではない。もちろんそれらが異文化として私たちの目に映ることはあるが、もっと身近なところにも「異文化」は見つけられる。</p> <p>本講義では、異文化間コミュニケーション研究の歴史の変遷を概観しつつ、さまざまな文化的差異に目をむける。そこから、なぜ身近な異文化に注目することが重要なのかを考えてみたい。それゆえ本講義の最終的目標は、異文化間コミュニケーションのスキルを向上させることではない。文化が「同じ／異なる」ということはどういうことか、また、異文化間コンフリクトがいかにして生じるのかを考えることである。</p> <p>◆評価方法 出席とレポート</p> <p>◆テキスト、参考文献 岡村圭子著『グローバル社会の異文化論』世界思想社</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 異文化と自文化 —あなたにとって「異文化」とは？ 3. 異文化間コミュニケーション研究史（1） —異なるものへの関心 4. 異文化間コミュニケーション研究史（2） —だれのための異文化研究か？ 5. 文化とコミュニケーション（1） —異文化間コミュニケーションの構造 6. 文化とコミュニケーション（2） —ノイズ、メディア、メッセージ 7. 内なる異文化（1）風習 8. 内なる異文化（2）食文化 9. 内なる異文化（3）世代 10. 内なる異文化（4）身体 11. 内なる異文化（5）地方 12. まとめ 	

03年度以降 02年度以前	異文化間コミュニケーション論 b 異文化間コミュニケーション論	担当者	岡村圭子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>自分とは異なるひとびとの習慣や世界観は、とても興味深い。しかしそれは、好奇の目を向ける対象である反面、嫌悪の対象にもなることがある。そして大きな誤解や偏見のもとに、そういった感情が増幅され、些細なことで極端なエキゾチシズムや憎悪が引き起こされることもある。</p> <p>そのような「異文化への（からの）まなざし」について議論しつつ、「真の異文化理解とは何か」という問いを探求することが、本講義の目標である。もちろんこの難問に単純な答えなどない。しかし、異文化関係が抱える問題、その問題についての考え方や、そこで試みられている解決法を知るなかから、異文化共生や異文化理解について考えてみたい。</p> <p>春学期の「異文化間コミュニケーション a」も合わせて履修するのが望ましい。</p> <p>◆評価方法 出席とレポート</p> <p>◆テキスト、参考文献 岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 多文化社会に生きるということ 2. 異文化へのまなざし（1） —自文化中心主義と異文化関係 3. 異文化へのまなざし（2） —西欧から見た日本文化 4. 異文化へのまなざし（3） —日本が見た西欧文化 5. 異文化へのまなざし（4） —変化する異文化関係 6. 多文化共生をめぐるさまざまな主張 7. マルチカルチュラリズムについて（1） —同化主義、統合主義への挑戦 8. マルチカルチュラリズムについて（2） —文化的差異の承認 9. マルチカルチュラリズムについて（3） —マイノリティ文化の保護 10. 多文化主義がかかえるジレンマ 11. 多文化教育のこころみ 12. まとめ 	

03 年度以降	認知科学	担当者	田口 雅徳
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>認知科学は、人間の「知」のしくみやはたらきを明らかにしようとする学際的な学問である。したがって、その研究領域は非常に広範囲におよぶ。本講義では、ヒトの認知機能の諸側面について概説していく。講義を通して多面的に人間の「知」のしくみや機能を理解してほしい。</p> <p>本講義では、まず、認知とはなにかを概説し、次に知覚機能や記憶、思考、言語、脳と認知機能、図形の処理、推論、空間認知などについて概説していく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 前期授業ガイダンス 2. 認知科学の対象と領域 3. 知覚① 4. 知覚② 5. 知覚③ 6. 記憶の種類 7. 記憶のしくみ 8. 記憶と脳 9. 記憶の誤り 10. 思考と言語① 11. 思考と言語② 12. 思考と言語③ 	
◆ 評価方法			
出席と学期末の試験により評価をおこなう。			
◆テキスト、参考文献			
テキストはとくに使用しない。プリントによる。参考文献は授業において指示する。			

03 年度以降	認知科学	担当者	田口 雅徳
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的と講義概要は、春学期のものを参照。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. 後期授業ガイダンス 2. 認知科学の課題 3. 色と形の認知 4. 脳と認知機能 5. 推論と思考 6. 空間認知の発達 <p>などの事項について講義していく。</p>	
◆ 評価方法			
出席と学期末の試験により評価をおこなう。			
◆テキスト、参考文献			
テキストはとくに使用しない。プリントによる。参考文献は授業において指示する。			

03年度以降 02年度以前	人間関係とカウンセリング a カウンセリング論	担当者	瀧本 孝雄
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>カウンセリング全般について、その理論と技法について学習する。</p> <p>前期では、まずカウンセリングの定義、歴史、それぞれの理論の特徴と具体的技法について学ぶ。特に傾聴のカウンセリングにおける重要性を理解する。</p> <p>言語文化学科の専門科目であるので、言語文化学科の学生は受講できる。</p> <p>実習を中心とする授業であるので、他学科の学生は受講生が50名以上の場合抽選による。出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>評価方法は講義、グループ・ワークに関しての小テスト、レポートおよび出席状況による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>『新版カウンセリングと心理テスト』林潔他著、ブレーン出版</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 カウンセリングとは何か（定義・目的） 2 カウンセラーの役割と資格 3 カウンセラーの世界（相談機関） 4 クライアント中心カウンセリング（1） 5 クライアント中心カウンセリング（2） 6 精神分析的カウンセリング 7 認知行動カウンセリング 8 傾聴の理論 9 傾聴の実習 10 ロールプレー実習（1） 11 ロールプレー実習（2） 12 教育、産業、医療とカウンセリング 	

03年度以降 02年度以前	人間関係とカウンセリング b カウンセリング論	担当者	瀧本 孝雄
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>後期ではカウンセリングの関連領域であるパーソナリティ、人間関係、発達心理等について学習する。</p> <p>ここでは、パーソナリティ理論、人間関係と性格との関連、乳幼児期から老年期までの発達の諸問題について理解する。</p> <p>言語文化学科の専門科目であるので、言語文化学科の学生は受講できる。</p> <p>実習を中心とする授業であるので、他学科の学生は受講生が50名以上の場合抽選による。出欠は毎回取る。実習をするので出欠を重視する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>評価方法は講義、グループ・ワークに関しての小テスト、レポートおよび出席状況による。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>コピーを配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 パーソナリティの定義 2 パーソナリティの類型論と特性論 3 パーソナリティの形成と変容 4 文化とパーソナリティ 5 発達とパーソナリティ 6 葛藤の理論 7 欲求不満（フラストレーション） 8 防衛機制 9 ストレス・マネージメント 10 グループ・ワーク（1） 11 グループ・ワーク（2） 12 人間理解とカウンセリング 	

03年度以降 02年度以前	情報・コミュニケーション特講（人間行動論 a） 情報・コミュニケーション特講 A（人間行動論）	担当者	青柳 多恵子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>目的</p> <p>文化・地域・思考の異なる人間が複雑に絡み合い共生を強いられる現代社会において、意思の疎通を図ることは難しい。そこで人間行動にかかわる問題を明確に提示し、人間を解明していくことは時代とともに、必要不可欠のことといえる。人間生活の諸問題を多角的・有機的に結びつけて考えることを研究する。</p> <p>概要</p> <p>能力の発達段階（幼児）・就学前後に現れる様々な問題や課題、家庭・学校・企業といった様々な組織と個人の問題と、固有の課題、大人と子供・健全者と生涯を持つ人・男と女、コーナーと雇用者というその時々の人間の状態とそこに現れる人間行動をテーマにオムニバス方式で講師が担当する</p>		<p>1：ガイダンス・コミュニケーション能力の発達 青柳（1～6）人間関係と言語 組織におけるコミュニケーション 21世紀の抱える問題点 共時性・自己性・理解・誤解 東洋思想におけるコミュニケーション 安井（7～12）（学校教育におけるコミュニケーションの機能とその課題） （民主主義教育の成立自治的活動の発展） （学力重視の教育と教師―生徒関係の変化） （学校教育の荒れと教育改革の課題） （新教育課程下における課題・・・ゆとり）</p>	
◆ 評価方法			
出席状況・レポート 担当者毎の評価の総合による			
◆テキスト、参考文献			
担当教員より提示・配布			

03年度以降 02年度以前	情報・コミュニケーション特講（人間行動論 b） 情報・コミュニケーション特講 A（人間行動論）	担当者	青柳 多恵子
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>春学期参照</p>		<p>（総合的学習と新しい学びの創造） 梶野（13～17）（スポーツ人類学から見たコミュニケーション） （近代スポーツの成立とコミュニケーション） （フットボールの伝播とコミュニケーション） （現代スポーツ現象とコミュニケーション） （競技種目の特性とコミュニケーション） 松原（18～23）（ハンス・シュタイグの映像） （トニ・ザイラーの映像） （日本とオーストリアの指導法の比較） （ワールドカップサッカーの映像） （UEFAカップサッカーの映像） （Jリーグとヨーロッパチャンピオンズリーグの比較） 青柳 1</p>	
◆ 評価方法			
春学期参照			
◆テキスト、参考文献			
春学期参照			

		担当者	
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 250px;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 350px;"></div>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px;"></div>			

03年度以降 02年度以前	情報・コミュニケーション研究特殊講義（コーパス言語学入門） 情報・コミュニケーション研究特殊講義B（コーパス言語学入門）	担当者	浅山佳郎
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>日本語教育のための、コンピュータをもちいた言語分析の方法をまなぶ。 よってコンピュータはあくまで道具であり、それ自体が目的となるものではない。授業の目的は、基本的に日本語教育のためのコーパス言語学にある。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータとDOS（1） 2. コンピュータとDOS（2） 3. テキストファイル（1） 4. テキストファイル（2） 5. データのダウンロード（1） 6. データのダウンロード（2） 7. テキスト処理・検索（1） 8. テキスト処理・検索（2） 9. テキスト処理・一括処理（1） 10. テキスト処理・一括処理（2） 11. 形態素解析（1） 12. 形態素解析（2） 	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">レポートと出席で評価する。</div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">開講後指示する。</div>			

03年度以降 02年度以前	情報コミュニケーション研究特殊講義(CAEL) 情報コミュニケーション研究特殊講義 B(CAEL)	担当者	安井美代子
◆講義目的、講義概要 <p>ネットアカデミーというウェブ教材は(1) 語彙、(2) リーディング、(3) リスニング、(4) ライティングの4つからなる。この授業では主に(1)-(3)を使う。レベル分けテストの結果に基づいて、2ないし3レベルに分け、それぞれのレベルの応じて、週3時間以上の学習内容を課す。一斉授業は行わず、学内のPCを利用して各自の都合の良い時間に学習してもらう。但し、毎週水曜日の昼休み12:30-13:00に指定の教室に集まり、レベル毎の単語テストを受験してもらう。水曜日の予定は右の通り。単語テストの範囲は「講義支援システム」上でテスト前の日曜日までに公開する。 受講対象は全学部2-4年生。3レベルに分ける場合、TOEIC600点以上、450点以上、350点以上の3レベルを設定する予定である。詳しくは myasui@dokkyo.ac.jp に問い合わせること。学期中の学習相談は火曜日5限、水曜日3限、木曜日5限中央棟606にて対応する。</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 レベル診断テスト受験、ネットアカデミーの説明 2 ネットアカデミーの説明補足 3 第1回単語テスト 4 第2回単語テスト 5 第3回単語テスト 6 第4回単語テスト 7 第5回単語テスト 8 第6回単語テスト 9 第7回単語テスト 10 第8回単語テスト 11 第9回単語テスト 12 第10回単語テスト 	
◆評価方法 <p>指定教材の学習修了が単位取得の必須要件である。A-Cの評価は10回の単語テストおよび定期試験による。上位のレベルほどAの割合を多くする。定期試験は、スタンダードコースのリーディング教材に準拠した問題50%、その他の問題50%を予定。 指定教材の学習修了が単位取得の必須要件である。A-Cの評価は10回の単語テストおよび定期試験による。上位のレベルほどAの割合を多くする。</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>なし</p>			

03年度以降 02年度以前	情報コミュニケーション研究特殊講義(CAEL) 情報コミュニケーション研究特殊講義 B(CAEL)	担当者	安井美代子
◆講義目的、講義概要 <p>春学期と同じ</p>		◆授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1 学習指導 2 第11回単語テスト 3 第12回単語テスト 4 第13回単語テスト 5 第14回単語テスト 6 第15回単語テスト 7 第16回単語テスト 8 第17回単語テスト 9 第18回単語テスト 10 第19回単語テスト 11 第20回単語テスト 12 学習指導 	
◆評価方法 <p>春学期と同じ</p>			
◆テキスト、参考文献 <p>なし</p>			

03年度以降 02年度以前	地域文化論 i a(秋学期完結) 地域文化論 i (ラテンアメリカ)(秋学期完結)	担当者	佐藤 勘治
◆講義目的、講義概要 地域文化論 ia では、ラテンアメリカに関する基礎知識を整理しながら、地域としての成立過程を考察したい。また、時間の一部を使って、日本においてラテンアメリカ地域研究を進める際に必要な、先行研究および情報源への接近方法についても扱う。基礎知識の習得も大切ではあるが、自ら調査し、理解する力を重視したい。 われわれのラテンアメリカに関する認識は、残念ながら、一般的に言って、大きく偏っている。ラテンアメリカは、今、大きな変化の只中にあると言える。 この講義をきっかけにして、ラテンアメリカという地域区分が成立している意味を考えてもらいたいと思う。		◆授業計画 1) オリエンテーション:「ラテンアメリカとは？」 2) 「ラテンアメリカは、暑いのか？」 イメージと現実 自然と地理 3) 「だれが先住民か?」: ラテンアメリカにおける人種・エスニシティとラテンアメリカの多様性 4) 「なぜわれわれはラテンアメリカを研究対象にするのか?」 ・日本におけるラテンアメリカ研究の現状 ・図書館・ウェブ探索の方法 5) 「何を描き、何を書き、何を論じているのか?」 (美術・文学・音楽・映画・論評) 6) 「征服はいつ終わったのか?」(歴史) 征服・植民地時代 7) 「魂は征服できたのか?」(宗教と文化史) ・グアダルupesの聖母 ・解放の神学 8) 「ラテンアメリカは米国の支配下にあるのか?」 (近現代の国際関係)・バナナ戦争 ・革命と反革命 9) 「ネオリベリズムはラテンアメリカに繁栄をもたらすのか?」(経済と社会) 一次産品輸出経済、輸入代替工業化、ネオリベリズム 10) 「民主化は達成されたのか?」政治と社会 キューバ革命、権威主義体制、「汚い戦争」 11) 「ボリバルの夢と現実」 ・ラテンアメリカ主義 ・国民国家形成の課題 12) 「米国のラテン化?」 ・Latinos:米国のラテンアメリカ系住民	
◆ 評価方法 毎回の簡単な小テストと感想の提出 期末レポート			
◆テキスト、参考文献 授業の最初に指示する。			

03年度以降 02年度以前	地域文化論 i b(秋学期完結) 地域文化論 i (ラテンアメリカ)(秋学期完結)	担当者	佐藤 勘治
◆講義目的、講義概要 地域文化論 ia では、ラテンアメリカの理解の要になるような基礎知識の習得が主な目的であるが、地域文化論 ib では、それを資料的に跡付ける作業をしたいと思う。作業を重視するのは、一方的授業の限界をこれまでの授業結果で認識しているからで、履修者が自ら授業の実質的構成員となることがぜひとも必要だと考えるからである。ia を履修しない学生でも、資料を読む作業、あるいは調査を通じて総合的基礎的理解に到達できるようにしたい。ia 履修者にとっては、基礎知識を具体的事例で確認する場となり、問題意識を広げることが可能となるだろう。ただし、ia とは独立した授業とするので、必ずしも ia で扱う順番に対応しない。一応、案を左に示したが、順番に変更がありうる。資料の選定に当たっては、日本語の翻訳があるもの、比較的入手が簡単なものを選んだ。毎回、1 から 2 ページ程度のスペイン語あるいは英語、あるいは日本語を読むことにする。資料はこちらで用意する。履修者は、その内容について概要を述べ、問題点を指摘するよう要請される。		1) ラテンアメリカで今何が起きているのか 新聞記事などを読む ①ボリビア、ベネズエラ、コロンビア 2) 新聞記事などを読む ②メキシコ、アルゼンチン、ブラジル 3) 漫画からラテンアメリカを考える ・ドルフマン他『ドナルドダックを読む』 ・Mafalda (アルゼンチンの漫画) 4) キューバ ・マルティ、ゲバラ、カストロに関する著作 5) 小説からラテンアメリカの歴史を知る ・『百年の孤独』 ・『アレテミオクルスの死』 ・『精霊の家』 6) サパティスタ蜂起の衝撃 EZLN 関連文献 7) ラテンアメリカ先住民問題を考える・リゴベルタ・メンチュウ ・リカルド・ポサス ・アルゲダス 8) 理論からの接近 ・ウオラースティン、オドンネルなど 9) 歴史の描き方 ・ガレーノ ・征服期の記録 10) 国民国家形成の諸問題 メキシコ ・フリーダ・カーロ・オクタビオ・パス・バスコンセロス・Canclini 11) 音楽が訴えているもの 12) 米国の中のラテンアメリカ ・サッセン・今福龍太・	
◆ 評価方法 報告回数やその報告内容、授業への積極的参加度(発言など)			
◆テキスト、参考文献 担当者が用意する			

03年度以降 02年度以前	地域文化論 iia 地域文化論 ii (スペイン)	担当者	野々山 ミチコ
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>スเปนといえど アンダルシアというイメージが外国人の間では着ているが、アンダルシアはスเปนでも最も魅力的な地域がある。その魅力を側面からその魅力の源泉を追求する。</p> <p>◆評価方法 出席、試験による</p> <p>◆テキスト、参考文献 野々山真輝州著「オセアニアのスペイン文化史」東洋書店</p>		<p>◆授業計画</p> <p>スเปนの中のアンダルシア アンダルシア地方とは</p> <p>闘牛</p> <p>フラメンコ</p> <p>サン・フェルミン祭</p> <p>イスラム・スเปน</p> <p>パナオ</p> <p>スเปน人の死生観</p> <p>(授業の流しに依り順序は いかにあることもありうる)</p>	

03年度以降 02年度以前	地域文化論 iib 地域文化論 ii (スペイン)	担当者	野々山 ミチコ
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>現代スเปนの社会問題をとりあげ解説する。その象徴的人物像もとりあげ、日本と比較し考へてみる。</p> <p>◆評価方法 出席、試験による</p> <p>◆テキスト、参考文献 野々山真輝州著「スเปนを知るための60章」明石書店</p>		<p>◆授業計画</p> <p>フアン・カルロス国王</p> <p>アルバ女公爵</p> <p>イサベル・ポロスレル</p> <p>フランコ時代の男女交際と現代</p> <p>女性問題 (1)</p> <p>'' (2)</p> <p>'' (3)</p> <p>麻薬問題</p> <p>同性愛</p> <p>外国人移民</p> <p>若者</p> <p>(授業の流しに依り順序は変えることも可能)</p>	

03年度以降 地域文化論iiia 02年度以前 地域文化論iii (中国)	担当者	易 友人
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>中华民族(主要是汉族)在长期的生活和生产活动中形成, 沿袭并不断发展了包括祭礼、婚仪、岁时节日、语言等在内中国独特的习俗文化。</p> <p>传统的中国文化是中国人宝贵的精神财富。本课程的教学目的是让学习者在学习汉语、提高汉语水平的同时, 能够进一步了了解有着5千年文明历史的中国传统文化与习俗。</p> <p>◆ 評 価 方 法: 出席、レポート、試験による。</p> <p>◆テキスト、 参考文献: プリント使用、随時配布する。</p>	<p>◆授業計画</p> <p>第1周 传统的节日——春节</p> <p>第2周 过春节的习俗</p> <p>第3周 爆竹的由来</p> <p>第4周 元旦</p> <p>第5周 元宵节</p> <p>第6周 端午节</p> <p>第8周 中秋节</p> <p>第9周 重阳节</p> <p>第10周 少数民族的年节</p> <p>第11周 见面的礼俗</p> <p>第12周 待客的礼俗</p> <p>(実際により内容が変更する場合もある)</p>	

03年度以降 地域文化論iiib 02年度以前 地域文化論iii (中国)	担当者	易 友人
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>中华民族(主要是汉族)在长期的生活和生产活动中形成, 沿袭并不断发展了包括祭礼、婚仪、岁时节日、语言等在内中国独特的习俗文化。</p> <p>传统的中国文化是中国人宝贵的精神财富。本课程的教学目的是让学习者在学习汉语、提高汉语水平的同时, 能够进一步了了解有着5千年文明历史的中国传统文化与习俗。</p> <p>◆ 評 価 方 法: 出席、レポート、試験による。</p> <p>◆テキスト、 参考文献: プリント使用、随時配布する。</p>	<p>◆ 授業計画</p> <p>第1周 饋贈の礼俗</p> <p>第2周 表示成年的习俗</p> <p>第3周 婚嫁の礼俗</p> <p>第4周 服飾の民俗特征</p> <p>第5周 饮食历史趣谈</p> <p>第6周 南北饮食的特点</p> <p>第8周 饮酒品茶的习俗</p> <p>第9周 中国人的居住民俗文化</p> <p>第10周 中国人的交通民俗文化</p> <p>第11周 服飾、饮食の禁忌</p> <p>第12周 语言、行为的禁忌</p> <p>(実際により内容が変更する場合もある)</p>	

03年度以降 02年度以前	地域文化論 iva 地域文化論 iv(中東)	担当者	高橋 正男
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義の目標</p> <p>中東の国際政治の枠組みは中東諸国とアメリカの中東政策との関係によって規定されている。パレスティナ問題も和平プロセスも例外ではない。歴史・民族・宗教(ユダヤ教・キリスト教・イスラーム)をキーワードとしてオスマン帝国の成立(13世紀末)から第一次世界大戦を経て現在に至るまでの中東諸国の複雑な変遷を講述する。 受講生各自の自作の中東諸国地図必携。</p> <p>講義概要</p> <p>中東の地理的範囲は時代によって広狭の差がある。東はアフガニスタンもしくはイラン、西は大西洋に面した北アフリカのモロッコもしくはモーリタニア、北はトルコの黒海沿岸、南はウガンダと国境を接しているスーダン南部、緯度でいえば北は北緯 42° 我が国の函館あたり、南は北緯 3° の赤道直下。中東諸国はアラブ諸国(22 箇国)と非アラブ諸国(4 箇国)から成っている。同地は宗教と政治は種々のレヴェルで緊張関係にある。殆どの国境は歴史的正当性を持たず、その領域は不透明、これが中東地域研究の出発点である。</p> <p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高橋正男著『旧約聖書の世界』(7刷)時事通信社、2003年。 ・白杵陽著『中東和平への道』(世界史リブレット 52)山川出版社、1999年。 	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中東との出会い 2. 中東概観、中東地域概念 3. 中東の民族と宗教(1) 4. 中東の民族と宗教(2) 5. 中東の民族と宗教(3) 6. 日本の中東外交史 7. 米同時多発テロ事件とアフガニスタン 8. イスラーム原理主義 9. 近代中東とアラブ民族主義 10. オスマン帝国の興亡 11. トルコの内外情勢 12. ベルシア沿岸諸国 <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『イミダス』(200 年版) 集英社。 ・『現代用語の基礎知識』(200 年版) 自由国民社。 ・中岡三益著『アメリカと中東—冷戦期中東国際政治史—』中東調査会、1998年。 ・木村靖二著『二つの世界大戦』(世界史リブレット 47) 山川出版社、1999年。 ・牟田口義郎著『アラビアのロレンスを求めて—アラブ・イスラエル紛争前夜を行く—』(中公新書 1499) 中央公論新社、1999年。 ・高橋和夫著『アラブとイスラエル—パレスティナ問題の構図—』(講談社現代新書 1085) 講談社、2001年。 ・藤原和彦著『イスラーム過激原理主義—なぜテロに走るのか—』(中公新書 1612) 中央公論社、2001年10月。 ・その都度紹介する。 		

03年度以降 02年度以前	地域文化論 ivb 地域文化論 iv(中東)	担当者	高橋 正男
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義の目標</p> <p>中東の国際政治の枠組みは中東諸国とアメリカの中東政策との関係によって規定されている。パレスティナ問題も和平プロセスも例外ではない。歴史・民族・宗教(ユダヤ教・キリスト教・イスラーム)をキーワードとしてオスマン帝国の成立(13世紀末)から第一次世界大戦を経て現在に至るまでの中東諸国の複雑な変遷を講述する。 受講生各自の自作の中東諸国地図必携。</p> <p>講義概要</p> <p>中東の地理的範囲は時代によって広狭の差がある。東はアフガニスタンもしくはイラン、西は大西洋に面した北アフリカのモロッコもしくはモーリタニア、北はトルコの黒海沿岸、南はウガンダと国境を接しているスーダン南部、緯度でいえば北は北緯 42° 我が国の函館あたり、南は北緯 3° の赤道直下。中東諸国はアラブ諸国(22 箇国)と非アラブ諸国(4 箇国)から成っている。同地は宗教と政治は種々のレヴェルで緊張関係にある。殆どの国境は歴史的正当性を持たず、その領域は不透明、これが中東地域研究の出発点である。</p> <p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高橋正男著『旧約聖書の世界』(7刷)時事通信社、2003年。 ・白杵陽著『中東和平への道』(世界史リブレット 52)山川出版社、1999年。 	<p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 13. イラン(1) —近代イランの成立— 14. イラン(2) —イラン・イラク戦争— 15. パレスティナ問題(1) — ツォオニズムの展開 16. パレスティナ問題(2) — 英委任統治の開始 17. パレスティナ問題(3) — イスラエル建国とパレスティナ民族主義 18. パレスティナ問題(4) — 中東戦争 19. パレスティナ問題(5) — パレスティナ暫定自治と今後の課題 20. 国家・民族・アイデンティティ 21. 中東の石油と経済 22. ポスト冷戦期中東と世界 23. 日本の中東政策 <p>評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出席点と学年末のリポートもしくは筆記試験による。 <p>受講者への要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際ニュースの把握に努めてほしい。 ・少人数の場合はゼミナール形式で行なう。 ・講義資料は出席者にもみ配布する。 ・必要に応じてビデオ教材使用する。 		

03 年度以降 02 年度以前	地域経済論 i a 地域経済論 i (ラテンアメリカ)	担当者	今井 圭子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>ラテンアメリカの政治経済社会的低開発性とその特質をアジア・アフリカとの比較において理解し、次いでラテンアメリカ地域の自然・住民・文化を概観する。さらに同地域の政治経済社会の歴史の変遷過程を辿り、まず植民地前の先住民社会について説明する。それを踏まえて植民地期における植民地政策の特質とその下での政治経済社会の変容過程をおさえ、さらに独立後の国家建設、経済開発の実施過程を考察する。そして現在同地域が抱えている主要な政治経済社会問題の根源を探る。講義に加えてディスカッション形式でラテンアメリカの経済について考える。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末にレポート(提出)</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>国本伊代・中川文雄編著『ラテンアメリカ研究への招待』新評論 最新版(参考文献リスト配布)</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 序 ラテンアメリカの概観—ラテンアメリカとアジア、アフリカとの比較 2. 第1章 ラテンアメリカ経済史 <ol style="list-style-type: none"> 第1節 時期区分 世界経済史と対比しながら、ラテンアメリカ経済史の時期区分について述べる。 3. 第2節 植民地以前の時期(～15世紀末) コロンブス一行到来前の先住民社会について概観 4. 第3節 植民地期(15世紀末～19世紀初め) 5. 第4節 独立期(19世紀初め～19世紀半ば) 6. 第5節 第一次産品輸出経済確立期(19世紀半ば～1929年) 7. 同上 8. 同上 9. 第6節 工業化から地域協力に至る時期(1929年～現在) 10. 同上 11. 同上 12. まとめ 	

03 年度以降 02 年度以前	地域経済論 i b 地域経済論 i (ラテンアメリカ)	担当者	今井 圭子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>ラテンアメリカの政治経済社会的低開発性とその特質をアジア・アフリカとの比較において理解する。ラテンアメリカ地域の自然・住民・文化・政治経済社会の歴史の変遷過程を踏まえながら、現在同地域が抱えている主要な政治経済社会問題を分析し、その根源を探る。また、ラテンアメリカにおける開発をめぐる思想、理論、政策について理解を深める。次いでラテンアメリカをめぐる国際関係を分析し、日本と同地域との歴史的關係を辿りながら今後の両者の關係のあり方について考察する。講義に加えて、ディスカッション形式でラテンアメリカの経済について考える。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末にレポート(提出)</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>授業の初めに参考文献リストを配布。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第2章 ラテンアメリカ政治経済社会の現状と問題点 ラテンアメリカ諸国が抱える主要な政治経済社会問題をまとめて解説し、その対策について考える。 2. 同上 3. 同上 4. 第3章 ラテンアメリカの開発をめぐる諸理論 ラテンアメリカの開発をめぐる主要な理論を取り上げて説明し、コメントを加え、その有効性について論じる。 5. 同上 6. 同上 7. 第4章 日本とラテンアメリカの關係 日本とラテンアメリカの關係を、移民、貿易、投資、援助、外交關係に分けて解説し、今後のあり方について考える。 8. 同上 9. 共通のテキストを読み、討論する。 10. 同上 11. 同上 12. 同上 	

03年度以降 02年度以前	地域経済論 ii a 地域経済論 ii (アジア)	担当者	森 健
◆講義目的、講義概要 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(目的、概要)</p> <p>近年、オーストラリアは極めて大胆な政策転換を行った。同国は1989年にAPEC（アジア太平洋経済協力会議）の開催を主唱し、自国およびこの地域の貿易・投資の自由化に熱心な国として、また、アジアの難民、移民、留学生を多数受け入れ、多様な文化の維持、発展に努める国として知られる。しかし、同国は、かつては名だたる保護貿易主義国家であり、有色人種の移民を排除する人種差別国家であった。オーストラリアがこのような政策変換を進めた理由は何か。新政策はどのような変化をこの国に及ぼしているのか。この講義では、上記のような問題を様々な切り口（自然条件、歴史的条件、文化的背景、政治社会体制、国際環境、経済条件など）から解明する。春期ではこの内、自然条件、歴史的条件、および、多文化主義政策を採用する以前の文化的背景をとりあげる。</p> </div>		◆授業計画 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の目的の確認。ビデオ 2 オーストラリア社会経済構造変化の大きな流れ（1）・・・（講義全体を理解する上で特に重要） 3 オーストラリア社会経済構造変化の大きな流れ（2） 4 歴史：流刑労働と羊毛産業の発展 5 歴史：金発見とその影響（1） 6 歴史：金発見とその影響（2） 7 歴史：仲間主義（mateship）の起源と特徴 ：長期経済ブーム 8 歴史：1890年代の恐慌とその影響 9 歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで（1） 10 歴史：連邦結成から第二次大戦終了まで（2） ：経済ナショナリズム 11 文化：エトス、アイデンティティ、ヒーロー 12 文化：アボリジニ </div>	
◆ 評価方法 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>定期試験</p> </div>			
◆テキスト、参考文献 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>プリント配布</p> </div>			

03年度以降 02年度以前	地域経済論 ii b 地域経済論 ii (アジア)	担当者	森 健
◆講義目的、講義概要 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(講義目的および概要は春期「オセアニア経済論 a」に同じ。ただし、秋期では、講義の切り口を、多文化主義政策採用以降の社会文化環境、政治社会体制、国際環境、経済条件などから解明する。)</p> </div>		◆授業計画 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ol style="list-style-type: none"> 1 前期講義の復習をかねた歴史概観（1） 2 前期講義の復習をかねた歴史概観（2） 3 社会構造と問題 4 労働問題 5 70年代中期以降の経済困難と多文化主義社会政策 6 政治構造 7 労働党政権と保守連立政権 8 産業構造 9 対外経済関係 10 社会経済改革と経済パフォーマンス 11 外交と国際関係（1） </div>	
◆ 評価方法 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>定期試験</p> </div>			
◆テキスト、参考文献 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>プリント配布</p> </div>			

03 年度以降 02 年度以前	地域経済論 iii a 地域経済論 iii (中国)	担当者	全 載旭
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>今日の世界経済において東アジアの重みが増していると言われている。なかでも中国経済の動向は21世紀の世界経済の新たな秩序を左右する最大のファクターの一つである。この授業では東アジア全体に目を配りつつ、中国経済を中心に考察する。日本もまた東アジアにあって、この地域の諸国と相互に密接な関係をもっている。本科目の履修を通じて、この地域のあり方に関心を向けてもらいたい。</p> <p>中国経済の歴史、発展可能性などを学ぶ。1970年代末から始まった改革・開放を中心に講義を進めていきたい。</p>		<p>1 中国経済の全般的な動向 (1)</p> <p>2 中国経済の全般的な動向 (2)</p> <p>3 目覚めた巨龍はどこへ? (1)</p> <p>4 目覚めた巨龍はどこへ? (2)</p> <p>5 社会主義市場経済とは何か? (1)</p> <p>6 社会主義市場経済とは何か? (2)</p> <p>7 技術進歩なき成長か? (1)</p> <p>8 技術進歩なき成長か? (2)</p> <p>9 国有企業改革は失敗したか? (1)</p> <p>10 国有企業改革は失敗したか? (2)</p> <p>11 農村はいかに変化したか? (1)</p> <p>12 農村はいかに変化したか? (2)</p>	
◆ 評価方法			
出席状況と筆記試験によって評価する			
◆テキスト、参考文献			
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社、2001年			

03 年度以降 02 年度以前	地域経済論 iii b 地域経済論 iii (中国)	担当者	駒形 哲哉
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>1. 中国経済の発展をめぐる内的な課題と、中国と東アジア経済とのかかわりについて、最新の状況をふまえながら、実証的に論ずる。また、中国にとって日本は最大の貿易パートナーであり、日本企業の中国戦略も変化していることにかんがみ、貿易と投資を通じて急速に緊密化している日中経済関係の現状と今後のあり方についても考察する。</p> <p>2. 講義は下記テキストを基本として進める。</p> <p>3. 東アジア・中国経済論 a を履修し、中国の経済発展メカニズムの基本を把握していることが望ましい。</p>		<p>1 失業率は本当に低いか? - 体制維持の最大課題</p> <p>2 金融は中国経済のアキレス腱か?</p> <p>3 輸出は成長のエンジンか? (1)</p> <p>4 輸出は成長のエンジンか? (2)</p> <p>5 外資は何をもたらしたか? (1)</p> <p>6 外資は何をもたらしたか? (2)</p> <p>7 中国は国際社会にとって脅威か?</p> <p>8 日中関係はいかにあるべきか?</p> <p>9 何か成長を制約するか? (1)</p> <p>10 何が成長を制約するか? (2)</p> <p>11 改革の果実は誰の手に?</p> <p>12 21世紀東アジア経済と中国経済</p>	
◆ 評価方法			
出席状況と筆記試験によって評価する。			
◆テキスト、参考文献			
南亮進・牧野文夫編『中国経済入門』日本評論社、2001年			

03年度以降 02年度以前	比較社会論 a 比較社会論	担当者	井上兼行
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>どの社会もそれぞれ独自の人間関係のあり方、それを基礎にした組織、またそのような関係や組織についての認識の仕方をもっている。これを理解してゆくために、ほぼどの社会にもその存在が認められている、最小単位としての「家族」を取り上げる。この「家族」をさまざまな側面から検討してゆくことによって、その社会の特質を理解しようとする。</p> <p>「家族」は婚姻によって成立する。そこでさまざまな社会の婚姻慣習とその意味を考え、それを基礎に形成された「家族」について、その構成、成員間の関係、単位としての性格などを考えてゆく。そこにそれぞれの社会の特質を理解する鍵が得られる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>試験及びレポートを予定している。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストはない。参考文献は随時紹介する。また必要な文献や資料はコピーして渡す。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>左の目的に沿って、婚姻慣習を取り上げ、そのさまざまな実体と、社会におけるその意味とを考えてゆく。</p>	

03年度以降 02年度以前	比較社会論 b 比較社会論	担当者	井上兼行
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>上に同じ。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>基本的にレポートにしようと考えている。発表も評価の対象にする。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>随時読んでもらう論文をコピーして渡し、発表してもらおうと考えている。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>家族について、その構成、成員間の関係、単位としての性格、あるいは社会の中での位置など、実例を通して考えてゆく。またこのなかで、いくつかの論文については、読んで発表をしてもらおうつもりである。</p>	

03 年度以降 02 年度以前	地域社会文化論特殊講義（森林地域における風土と生活 a） 地域研究特殊講義 A（森林地域における風土と生活）	担当者	犬井 正
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目標 本講義は、日本の森林と対比しながら熱帯雨林の生態や開発態様を参考にして、人間と風土との関わりを明らかにしていく。</p> <p>講義概要 熱帯雨林を取り上げ、熱帯雨林が存在するアジア、アフリカ、中南米など個々の地域を取り上げながら、熱帯雨林の生態と開発問題を検討し、地域的、地球的視点から、環境、文化、経済に及ぼす影響を地理学的視点から考察する。また、熱帯雨林の保全のために、どのようなオプションが有効なのかを検討し、環境NGOなどのこれまでに果たしてきた役割について考察する</p> <p>◆ 評価方法 定期試験等による。</p> <p>◆テキスト、参考文献 テキスト：クリス・C. パーク著『熱帯雨林の社会経済学』1994、農林統計協会</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本講義を受講するにあたっての心構えと、講義方法・講義内容についてのオリエンテーション 2 一次生産者としての森林の重要性 3 世界の森林・日本の森林－温量指数と乾燥指数 4 熱帯林地域の自然環境の特質 5 熱帯林の森林としての構造－熱帯雨林と季節林 6 マングローブ林の生態 7 熱帯林の動植物と食物連鎖－生物学的多様性 8 熱帯雨林の土壌と農業 9 熱帯雨林の生態と環境保全機能 10 熱帯林の開発の過程と破壊の核心地域 11 様々な開発形態と開発速度 12 薪炭材の生産と伝統的な焼畑耕作 	

03 年度以降 02 年度以前	地域社会文化論特殊講義（森林地域における風土と生活 b） 地域研究特殊講義 A（森林地域における風土と生活）	担当者	犬井 正
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目標 本講義は、日本の森林と対比しながら熱帯雨林の生態や開発態様を参考にして、人間と風土との関わりを明らかにしていく。</p> <p>講義概要 熱帯雨林を取り上げ、熱帯雨林が存在するアジア、アフリカ、中南米など個々の地域を取り上げながら、熱帯雨林の生態と開発問題を検討し、地域的、地球的視点から、環境、文化、経済に及ぼす影響を地理学的視点から考察する。また、熱帯雨林の保全のために、どのようなオプションが有効なのかを検討し、環境NGOなどのこれまでに果たしてきた役割について考察する</p> <p>◆ 評価方法 定期試験等による。</p> <p>◆テキスト、参考文献 テキスト：クリス・C. パーク著『熱帯雨林の社会経済学』1994、農林統計協会</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人口爆発と集落再編計画 2 商業的木材生産による森林破壊 3 プランテーション経営と牧畜業の展開 4 ダム・道路建設、鉱産資源開発などの大規模開発による森林破壊 5 熱帯雨林破壊による環境保全機能の低下 6 熱帯雨林破壊による気候変化と地球の温暖化 7 熱帯雨林破壊の経済・環境・文化の損失 8 熱帯雨林における「森林の民」の苦境と森林文化の崩壊 9 熱帯林破壊をくい止める可能な解決策 10 持続可能な森林利用－エコツーリズムの試み 11 森林の民から学ぶべきこと－NGOの架け橋 12 まとめ－再考：人間と自然のかかわり 	

03年度以降	地域社会文化論特殊講義(カリブ海域の民族と文化 a)	担当者	井上兼行
02年度以前	地域研究特殊講義 A (カリブ海域の民族と文化)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>私の研究対象であり、実地調査も行っているカリブ海域社会について、概括的な知識を得ると同時に、その特質を知る。</p> <p>カリブ海域は他に類を見ない独特の歴史をもっており、その上に文化が築かれている。そこでまず、その歴史をある程度時間をかけて明らかにする。そのあと、複雑な民族構成、民族間の関係を述べ、さらにカリブ海域の特徴とされるクレオール語を中心とした複雑な言語および言語構成について明らかにする。その他の文化についても述べるが、「クレオール」という言葉で示される意味について、その特質を考えることができるように話をしていきたい。</p>		<p>カリブ海域の概略、歴史、民族などの話をする。</p>	
◆評価方法			
試験およびレポートの両方を考えている。			
◆テキスト、参考文献			
文献は随時紹介するが、必要な資料(地図、年表など)はコピーして渡す。			

03年度以降	地域社会文化論特殊講義(カリブ海域の民族と文化 b)	担当者	井上兼行
02年度以前	地域研究特殊講義 A (カリブ海域の民族と文化)		
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>上に同じ。</p>		<p>言語について、独特な言語の形成、社会における複雑な言語構成、それらの言語間の関係などを明らかにする。またそれ以外の文化にも触れ、カリブ海域社会の問題点についても言及する。</p>	
◆評価方法			
基本的にレポートにしようと考えている。			
◆テキスト、参考文献			
テキストはない。必要な資料はコピーして渡す。			

03年度以降
02年度以前

地域社会文化論特殊講義（英語圏のエスニックヒストリー-a）
地域研究特殊講義A（英語圏のエスニックヒストリー）

担当者 佐藤 唯行

◆講義目的、講義概要

（前期）ユダヤ人と英国社会との最初の出会から現代に至る英国史の文脈の中で、英国人との共生を目指しつづけたユダヤ人の歩みを辿る。彼等ユダヤ人の足跡に光を照射する事により、これまでの英国史研究（多数派英国人側に視点を置いた英国史研究）の中では、見落とされてきた英国社会の新たな特質を解明する。

1回から12回までの講義は下記テキストを使用し
て行う。13回以後はテキストはありません。尚、
回の三分は講義形式ではなくビデオの合評会
形式で行う。

評価は前後期各1回の筆記試験とビデオの感想文
（枚数不問）によって決定する。課題ビデオの選定
は受講者の顔ぶれをみて決める。尚、出席をとるか
とらないかも受講者の人数をみて決めたい。

◆評価方法

筆記試験により評価を行う

◆テキスト、参考文献

『英国ユダヤ人』佐藤唯行（1995年講談社選書
1500円）

◆授業計画

- 1 儀式殺人告発の神話
- 2 中世英国のユダヤ人社会
- 3 諸侯・騎士・教会・都市とユダヤ人の関係
- 4 中世英国ユダヤ人金両の潜在的機能とユダヤ
道教命令
- 5 隠れユダヤ教徒の足跡、1290～1656年
- 6 千年王国思想とユダヤ人再入国
- 7 17-18世紀英国の外国貿易とユダヤ人
- 8 英国人地主貴族社会への同化現象
- 9 ドイツ系ユダヤ移民の流入による生じた貧民問題
- 10 19世紀末-20世紀初め、移民排斥と反ユダヤ暴動
事件のメカニズム
- 11 英国アパルトヘイトの対決とナチス政権下の亡命ユダヤ
人の受け入れ
- 12 現代英国ユダヤ人社会

03年度以降
02年度以前

地域社会文化論特殊講義（英語圏のエスニックヒストリー-b）
地域研究特殊講義A（英語圏のエスニックヒストリー）

担当者 佐藤 唯行

◆講義目的、講義概要

（後期）英国内にくらす代表的マイノリティーで
黒人、インド・パキスタン系、アイルランド系の
歴史と現状を探索することで、これまで見えて
なかった英国社会の特質を明らかに
する。

尚、3回程、ビデオ作品の合評会形式
の授業を行う。

◆評価方法

筆記試験とビデオ合評会のプレゼンテーション
によって評価を行う

◆テキスト、参考文献

毎回講義レシメを配布

◆授業計画

- 1 映画で学ぶ英国「炎のランナー」を素材として1920年代英国の大学を
ユダヤ人問題 舞台とするユダヤ人・非ユダヤ人の関係を探る。
- 2 映画で学ぶ 「祖国と女王のために」を素材として1980年代英国に
英国黒人問題 おける黒人問題を考える。
- 3 映画で学ぶ 「ナッシング・パーソナル」を素材として1970年代北
アイルランド問題 アイルランド紛争を学ぶ
- 4 現代英国の非白人集団、文化人類学的理解の枠組
- 5 在英黒人史、18世紀黒人サーヴァントと英国下層階級
との交わり・語彙
- 6 絵画史料の中にみえた黒人イメージ 17～19世紀
の1 絵画を中心に
- 7 = =
2 版画を中心に
- 8 在英黒人史、法的地位をめぐる論争
- 9 西インド系黒人の英国定住
- 10 在英アイルランド人史 2の1
- 11 在英アイルランド人史 2の2
- 12 現代英国の「パキスタン系」について

03年度以降 02年度以前	地域社会文化論特殊講義（アラブ文化・芸術 a） 地域研究特殊講義 A（アラブ文化・芸術）	担当者	藤原和彦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>9・11テロを契機に、西側社会ではイスラーム文明、その大要を成すイスラーム教への関心が深まった。本講義では、イスラーム教理解を第一義の目標としながら、アラブ・文化芸術に甚大な影響を与えた同教の「神秘主義（Sufism）」を取り上げる。</p> <p>毎時間の講義は(1)『Atlas of the Islamic World since 1500』（by Francis Robinson0）の購読 (2) 神秘主義の連禱（ズィクル）はじめアラブ社会（アラブ人の生活や芸術）のビデオ紹介の2部構成とする。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席率とレポートによる</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>藤原和彦著『ポスト・タリバン』中公新書 2001年</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 (イントロダクション) イスラーム教預言者ムハンマドの生涯の解説など 2 テキストの購読。Part One 「Revelation and Muslim History」 The spread of Islam 622-1000 3 同上 The spread of Islam 622-1000 続 4 同上 The spread of Islam 622-1000 続 5 同上 The spread of Islam 622-1000 続 6 同上 The spread of Islam 622-1000 続 7 同上 The nomad invasions 8 同上 The nomad invasions 続 9 同上 The nomad invasions 続 10 同上 The nomad invasions 続 11 同上 The shaping of Islamic life :the law 12 同上 The shaping of Islamic life :the law 続 	

03年度以降 02年度以前	地域社会文化論特殊講義（アラブ文化・芸術 b） 地域研究特殊講義 A（アラブ文化・芸術）	担当者	藤原和彦
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>9・11テロを契機に、西側社会ではイスラーム文明、その大要を成すイスラーム教への関心が深まった。本講義では、イスラーム教理解を第一義の目標としながら、アラブ・文化芸術に甚大な影響を与えた同教の「神秘主義（Sufism）」を取り上げる。</p> <p>毎時間の講義は(1)『Atlas of the Islamic World since 1500』（by Francis Robinson0）の購読 (2) 神秘主義の連禱（ズィクル）はじめアラブ社会（アラブ人の生活や芸術）のビデオ紹介の2部構成とする。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席率とレポートによる</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>藤原和彦著『ポスト・タリバン』中公新書 2001年</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 同上 The shaping of Islamic life :the law 続 2 同上 The shaping of Islamic life :the law 続 3 同上 The shaping of Islamic life :the law 続 4 同上 The shaping of Islamic life :the law 続 5 同上 The shaping of Islamic life :mysticism 6 同上 The shaping of Islamic life :mysticism 続 7 同上 The shaping of Islamic life :mysticism 続 8 同上 The shaping of Islamic life :mysticism 続 9 同上 The shaping of Islamic life :mysticism 続 10 同上 The shaping of Islamic life :mysticism 続 11 同上 The shaping of Islamic life :mysticism 続 12 同上 The shaping of Islamic life :mysticism 続 	

03年度以降 02年度以降	地域社会文化論特殊講義（東西の文化を結ぶもの a） 地域研究特殊講義 A（東西文化を結ぶもの）	担当者	熊谷 哲也
◆講義目的、講義概要 （講義の目的） 西アジア地域、とくにイスラーム勃興以降の時代について、歴史と社会を考察しながら、「西洋」と「東洋」のつながりに目を向けたい 今日の「東洋」という概念は、「西洋」の主観が生み出した産物だが、ひとまずそこに気付いていただくことが目的である。 （講義概要） 授業計画に示したように4つのテーマを設定し、ひとつのトピックにほぼ3回づつかけながら進んでゆく。そのなかでは必要に応じて、テーマの背景となる歴史、宗教、文化への説明を加えてゆく。みなさんには、どれかひとつを選んで知識を深め、レポートにして提出していただく。なお、必要に応じて順序を入れ替えることがある。		◆授業計画 1 A；キリスト教の広がりとおアジア世界。その1 2 同 その2 3 同 その3 4 B；イスラーム教の広がり。イスラーム世界におけるさまざまな文化の融合のあり方。その1 5 同 その2 6 同 その3 7 C；十字軍・レコンキスタとその時代。その1 8 同 その2 9 同 その3 10 D；2つの旅行記（マルコ・ポーロとイブン・バトゥータ）と当時の世界。その1 11 同 その2 12 同 その3	
◆ 評価方法 レポートによる			
◆テキスト、参考文献 とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する			

03年以降 02年以降	地域社会文化論特殊講義（東西の文化を結ぶもの b） 地域研究特殊講義 A（東西文化を結ぶもの）	担当者	熊谷 哲也
◆講義目的、講義概要 （講義の目的） 比較文化論 Aと同じ。Bではとくに「西洋化」が「東洋」における近代化である点と、それが生み出すさまざまな問題点を検討していくことが目的である。 （講義概要） 授業計画に示したように4つのテーマを設定し、ひとつのトピックにほぼ3回づつかけながら進んでゆく。そのなかでは必要に応じて、テーマの背景となる歴史、宗教、文化への説明を加えてゆく。みなさんには、どれかひとつを選んで知識を深め、レポートにして提出していただく。なお、必要に応じて順序を入れ替えることがある。		◆授業計画 1 E；大航海時代とその後。アジアと近代ヨーロッパの出会い。その1 2 同 その2 3 同 その3 4 F；西アジアにおけるさまざまな近代化。その1 5 同 その2 6 同 その3 7 G；帝国主義とイスラーム世界。パレスチナ問題。その1 8 同 その2 9 同 その3 10 H；旧ソ連諸国や旧ユーゴスラビア諸国における民族・宗教意識。その1 11 同 その2 12 まとめ	
◆ 評価方法 レポートによる			
◆テキスト、参考文献 とくにさだめない。必要に応じて授業で指示する			

03 年度以降 02 年度以前	地域社会文化論特殊講義 (ラテンアメリカの歴史 a) 地域研究特殊講義A (ラテンアメリカの歴史)	担当者	G. T. ヨシカワ
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>Este curso esta diseñado para los estudiantes interesados en aprender sobre las culturas extranjeras. Especialmente las culturas antes de la llegada de los europeos a América.</p> <p>Los interesados requieren por menos leer bien el español o el inglés, porque no hay muchos libros sobre el tema en japonés. En lo posible debieran también hablar español de nivel intermedio.</p> <p>Los estudiantes deberán:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Investigar sobre los temas a estudiar. 2) Preparar un informe escrito sobre un tema elegido por el entre los presentados por el profesor, y 3) Haran una exposición o lectura oral del reporte escrito. <p>◆ 評価方法</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) La seriedad del contenido que deberá ser original y no plagio., 2) La buena presentación del informe. 3) La corrección lingüística del reporte. 4) La adecuada pronunciación, entonación y fluidez en español durante la presentación oral. 		<p>◆ 授業計画 I Semestre</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Orientación 2) y 3) Introducción al curso: vocabulario especializado 3) y 5) Breve referencia a las grandes culturas del mundo. 6) y 7) El poblamiento de América 8) y 9) Las culruras del norte de América 10) y 11) Las culturas de de Centro y Sur América. 12) al 15) Evaluación final. <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>Materiales de Internet Bibliografía sobre el tema de la biblioteca de Dokkyo Impresos proporcionados por el profesor.</p>	

03 年度以降 02 年度以前	地域社会文化論特殊講義 (ラテンアメリカの歴史 b) 地域研究特殊講義A (ラテンアメリカの歴史)	担当者	G. T. ヨシカワ
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>Idem. Pág. 1</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>Idem. Pág. 1</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>Idem pág. 1</p>		<p>◆ 授業計画 II Semestre</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Orientación 2) Y 3) Vocabulario especializado 3) y 5) Cronología comparada de las principales culturas de Asia y de América 6) al 11) Estudio comparado entre las culturas del norte y del sur de América 12) al 15) Evaluación final: exposiciones orales y debates sobre los temas estudiados. 	

03年度以降 02年度以前	地域社会文化論特殊講義（地中海世界の歴史） 地域研究特殊講義 B（地中海世界の歴史）	担当者	古川堅治
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p><講義目的>本講座は、副題に「地中海世界の歴史」と銘打ち、新しい21世紀以降の人間の文明の歴史の行方とその意味を問うべく、これまで大きな役割を果たしてきた地中海地域世界の歴史を総括し、諸文明の出会いの場、歴史の舞台としての地中海世界の意味を改めて考えることを目的とする。</p> <p><講義概要>本年度は特に、「歴史と神話」に焦点を絞り、両者が密接な関係をもって考えられていたことを具体的な神話をもとに考察する。講義は概説的に進めていくが、関連するテーマのビデオや映画、LDなどもできるだけ使って理解を深めるのに役立てたい。授業では、細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマごとに問題を提起し、それについて考えてもらうことを主眼にしているので、積極的かつ活発な質問、疑問、意見が出ることを期待されている。その意味でも自由な発言が出るようなアトホームな雰囲気でお楽しみと進めていきたい。</p>		<p>1 はじめに 歴史を学ぶ意味、地中海世界への視点を提起する。</p> <p>2 神話と歴史 歴史と神話がどのように実際に関係していたか？</p> <p>3 テーベ伝説圏の神話（1） ディオニュソス信仰とペンテウスの悲劇</p> <p>4 テーベ伝説圏の神話（2） オイディプスの悲劇と「知ること」の意味</p> <p>5 アテナイ伝説圏の神話（1） アテナイの建国神話</p> <p>6 アテナイ伝説圏の神話（2） テセウスとアテナイ民主政</p> <p>7 アルゴス伝説圏の神話（1） ミケーネ世界とアトレウス家の悲劇</p> <p>8 アルゴス伝説圏の神話（2） トロイア戦争とその歴史性</p> <p>9 アルゴス伝説圏の神話（3） ミケーネ王家の末路</p> <p>10 アルゴス伝説圏の神話（4） ローマの建国神話とアイネイアス</p> <p>11 神話と考古学 各地の遺跡と伝承</p> <p>12 おわりに 神話の現代的意味</p>	
◆ 評価方法			
<p>学期末のレポートと1～2回の小報告に、出席点を加味して総合的に評価する。</p>			
◆テキスト、参考文献			
<p>テキストは使用せず、参考文献は初回の授業時に「参考文献一覧表」を配布する。</p>			

		担当者	
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>◆ 評価方法</p>		<p>◆テキスト、参考文献</p>	
<p>◆テキスト、参考文献</p>			

03 年度以降 02 年度以前	比較文化論特殊講義 (英国人と日本人の生き方の比較 a) 比較文化論特殊講義A (英国人と日本人の生き方の比較)	担当者	有吉 広介
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>現代における英国人の生活文化およびライフスタイルと日本人のそれらとを比較研究し、英国の文化・社会の理解を深める。</p> <p>講義概要は次の通りである。まず、現代英国の言語文化の多様化についてふれることから始めて、次いで日本人の場合よりも激しく変化する英国人の結婚および家族生活に関する考え方と行動の特徴を取り上げる。続いて、英国の階級構造を概観する。最後に、これらの諸点に関して日本人の生活との比較を行う。なお、講義内容の理解に役立つようにビデオによる英国人の紹介もする。</p> <p>通年で受講されることを望む。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末に提出するレポートで評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>毎回、講義内容についての概要を記したプリントを配布する。参考文献は適時紹介する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 現代英国社会の特徴 2. 同 (2) 3. 英国文化の多様性 (1) 4. 同 (2) 5. 恋愛・結婚についての英国人の態度と行動 6. 同姓・離婚・再婚への態度とその社会的・文化的背景 7. 上記事項の追加説明と日本人との相違点 8. 家族観の変化と家族類型の多様化 9. 家族生活の変化 10. 日本人の家族生活とその英国との違い 11. 英国の階級構造の見方 12. まとめ 	

03 年度以降 02 年度以前	比較文化論特殊講義 (英国人と日本人の生き方の比較 b) 比較文化論特殊講義A (英国人と日本人の生き方の比較)	担当者	有吉 広介
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的は春学期と同じ。</p> <p>秋学期の講義概要は次の通りである。階級構造に基礎を置く英国の多様な文化とライフスタイルについて説明し、それらと日本のそれらとの違いを確認する。次に、両国の教育制度の構造的な違いが、それぞれの国の独特な学歴社会を生み出し、それらが両国の特殊な社会構造や文化の発達に寄与することを取り上げる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期末に提出するレポートで評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>毎回、講義内容についての概要を記したプリントを配布する。参考文献は適時紹介する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 19 世紀における英国の階級構造 2. 20 世紀における英国の階級構造 3. 英国の貧困層 4. 英国のミドルクラスの構造的多様性 5. ミドルクラスの社会的位置とライフスタイル 6. 英国の上流階級の社会構造と文化 7. 現代日本における階級構造 8. 英国社会における教育制度とその社会的役割 9. 8 の補足 10. 日英間における教育の役割の違い 11. 10 に補足 12. まとめ 	

03 年度以降 比較文化論特殊講義 (日中文化比較論a) 02 年度以前 比較文化論特殊講義A(日中文化比較論)	担当者	易 友人
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>进入 21 世纪, 全球化进一步发展, 人们接近与交往的日益频繁, 日本和中国比已往任何一个时期或时代, 都需要加深了解沟通和增加信任。对这两个民族来说, 排除情绪化因素, 互相沟通了解和增加信任, 恐怕比了解对方的GNP更为重要。</p> <p>对不同文化的比较研究, 能够使人们开阔视野, 更好地理解 and 尊重与自己完全异质的文化, 同时也能够对自身的文化有更深刻的了解。了解不同文化之间的共同性和差异姓, 不仅是解决日中之间存在问题的基本所在, 更是避免冲突以使日中和平友好发展的前提之一。</p> <p>◆ 評価方法: 出席、レポート、試験による。</p> <p>◆ テキスト、参考文献: プリント使用、随時配布する。</p>	<p>◆授業計画</p> <p>第 1-4 周 “四合院”与“榻榻米”</p> <p>第 5-7 周 中日育儿方式的比较</p> <p>第 8-10 周 社会集团与现代化</p> <p>第 11-12 周「红楼梦」与「源氏物语」的情爱主题</p> <p>(実際により内容が変更する場合もある)</p>	

03 年度以降 比較文化論特殊講義 (日中文化比較論b) 02 年度以前 比較文化論特殊講義A (日中文化比較論)	担当者	易 友人
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>进入 21 世纪, 全球化进一步发展, 人们接近与交往的日益频繁, 日本和中国比已往任何一个时期或时代, 都需要, 加深了解沟通和增加信任。对这两个民族来说, 排除情绪化因素, 互相沟通了解和增加信任, 恐怕比了解对方的GNP更为重要。</p> <p>对不同文化的比较研究, 能够使人们开阔视野, 更好地理解 and 尊重与自己完全异质的文化, 同时也能够对自身的文化有更深刻的了解。了解不同文化之间的共同性和差异姓, 不仅是解决日中之间存在问题的基本所在, 更是避免冲突以使日中和平友好发展的前提之一。</p> <p>◆ 評 価 方 法: 出席、レポート、試験による。</p> <p>◆テキスト、参考文献: プリント使用、随時配布する。</p>	<p>◆授業計画</p> <p>第 1 周 「红楼梦」与「源氏物语」的情爱主题</p> <p>第 2-4 周 传统的女性观与妇女的社会地位</p> <p>第 5-7 周 “义理人情”与“人情世故”</p> <p>第 8-10 周 “名”与“耻”</p> <p>第 11-12 周 日中称谓语比较</p> <p>(実際により内容が変更する場合もある)</p>	

03 年度以降 02 年度以降	比較文化論特殊講義(グローバル化とローカル文化) 比較文化論特殊講義A(グローバル化と文化変容)	担当者	岡村圭子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>それぞれ異なった文化を比較することによって、私たちは何が見えてくるのだろうか。異なった文化を「比較する」ということは、どのようなことなのか。そして、異なった文化を比較するとき、それが「誰の視点から」行なわれているのか。</p> <p>本講義では、「グローバル化」をキーワードにして、このような根本的な問題に接近してゆく。</p> <p>1980 年代、グローバル化はローカル文化を破壊する力を持つと思われてきた。しかし近年、民族独立運動や自文化中心主義的な動きの活発化とグローバル化とは、同時に起こる現象であることも注目されるようになってきた。このグローバル化とローカル化の同時性を読み解きながら、「異文化を比較する」ということについて考えてみたい。</p> <p>◆ 評価方法 出席とレポート</p> <p>◆テキスト、参考文献 岡村圭子著『グローバル社会の異文化論』世界思想社</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション ——異文化を比較すること 2. 「われわれ」と「かれら」の境界 3. ローカルなもの生成とグローバル化 4. 異文化を比較する (1) ——時間と空間 5. 異文化を比較する (2) ——フォーマット化とグローバル化 6. 異文化を比較する (3) ——【ローカル】 vs. 《ローカル》 7. 異文化を比較する (4) ——他者性とコミュニケーション 8. 比較可能性と文化相対主義 9. 異文化の翻訳可能性について (1) 10. 異文化の翻訳可能性について (2) 11. 異文化の翻訳可能性について (3) 12. まとめ 	

03 年度以降 02 年度以前	比較文化論特殊講義(グローバル社会における文化変容) 比較文化論特殊講義A(グローバル化と文化変容)	担当者	岡村圭子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義では、グローバル化がもたらした「文化の融合」あるいは「文化変容」という現象に注目したい。具体的な事例に関する資料映像・記事などについて、多角的な視点でディスカッションする。それをとおして、グローバル化とローカルな文化(cultures)との関係を考えてゆく。</p> <p>右の授業計画に挙げた具体例は、あくまで予定であり、履修者の関心・希望によっては、変更あるいは追加もありうるので、授業内のディスカッションには積極的に参加してもらいたい。</p> <p>なお、履修を希望する学生は、できるだけ春学期の比較文化論特殊講義もあわせて履修すること。</p> <p>◆ 評価方法 出席とレポート</p> <p>◆テキスト、参考文献 岡村圭子『グローバル社会の異文化論』世界思想社</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. グローバル社会における文化変容 ——グローバル化が文化にもたらしたもの 3. 異文化を比較する (1) 上方落語と江戸落語 4. 異文化を比較する (2) 世界の温泉 5. 異文化を比較する (3) 未定 6. 異文化を比較する (4) 未定 7. 文化の融合 (1) ——郷土料理の変化 8. 文化の融合 (2) ——テレビ番組の輸出 9. 文化の融合 (3) ——アジアにおけるキリスト教 10. Glocalization (1) ——地域文化の復興 11. Glocalization (2) ——作られた「伝統」 12. まとめ 	

03 年度以降 02 年度以前	国際関係概論 a 国際関係概論	担当者	金子 芳樹
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>変化が激しい現代の国際社会を把握し、自らの視点と判断力を養うために不可欠な国際関係の基礎知識と分析方法を習得する。特に、国際社会の様々な主体（国家、国際機関、NGO など）の関係を、その構造やコミュニケーションのあり方などを中心に多角的に学ぶ。</p> <p>講義は以下の2つのパートから構成される。</p> <p>(1) 冷戦時代の国際関係の構造と歴史的展開を説明し、同時に基本的な国際関係論の理論を解説する。</p> <p>(2) 冷戦崩壊後（ポスト冷戦期）の国際社会で起こっている事象（ヒト・モノ・カネ・情報のボーダレス化・グローバル化にかかわる現象）を取り上げ、歴史的背景、現状分析、国際関係へのインパクトなどを盛り込みながら、国際社会の構造変化について解説する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期後半提出のレポートと学期末試験の成績に基づく。レポートはワープロ指定で2000字以上。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>テキストは使用しない。参考文献は各授業で紹介する。</p>		<p>◆ 授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際関係論とは- 国家と国際社会 2. 冷戦の構造(1) 構造 3. 冷戦の構造(2) 起源 4. 冷戦の構造(3) 特徴 5. 冷戦の展開(1) 戦争(1) 6. 冷戦の展開(2) 戦争(2) 7. 冷戦の展開(3) 崩壊 8. ポスト冷戦期の国際社会(1) ボーダレス化の影響(1) 9. ポスト冷戦期の国際社会(2) ボーダレス化の影響(2) 10. ポスト冷戦期の国際社会(3) グローバル化の影響(1) 11. ポスト冷戦期の国際社会(4) グローバル化の影響(2) 12. まとめ：国際社会を見る眼 (初回の授業時に詳細な授業計画を配布する) <p>* なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。</p>	

03 年度以降 02 年度以前	国際関係概論 b 国際関係概論	担当者	永野隆行													
<p>◆ 講義目的、講義概要</p> <p>半年間の講義を通じて、国際関係研究(study of international relations)とはどのような学問なのかを理解してもらいたい。なお、教員の説明をただ受動的に聞くのではなく、学生一人一人がそれを批判的に受け止め、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持ってもらいたい。</p> <p>本講義は2部構成となっている。本講義の導入として、国際関係とはどのような特徴をもったものなのかを説明した上で本論にはいる。第一部では冷戦時代の国際政治を概観し、続いて第二部ではポスト冷戦期の国際関係、特にアジア地域の国際関係について論じることとする。なお講義の過程で、国際関係研究の上で重要な理論や用語についてもその都度説明を加えていく。また毎回の講義の冒頭約30分では、日々変化する国際関係に関心を持ってもらうために、最近の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を設けたい。</p> <p>なお、本講義を有意義なものとするために、質問・要望などがあるときは遠慮せず伝えること。授業中には、携帯メールを通じた質問を受け付けているので、質問大歓迎、積極的に利用して欲しい。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>ブックレポートと学期末試験（各50点）による評価。</p> <p>◆ テキスト、参考文献</p> <p>小島朋之ほか編『東アジアの安全保障』南窓社、2002年。</p>		<p>◆ 授業計画</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td>①イントロダクション～国際関係論とはどのような学問か？ (その他、勉強の仕方、便利なウェブサイトの紹介など)</td></tr> <tr><td>②国際関係の特質～国際関係論はどのように誕生し、発展していったのか、その特質は何か？</td></tr> <tr><td>③国際政治を見る眼～国際関係論にはどのような視点があるのか？</td></tr> <tr><td>④冷戦～冷戦はどのように始まり、その後どのように展開したのか？</td></tr> <tr><td>⑤相互依存と国際関係～グローバル化は国際関係にどんな変化をもたらしたのか？</td></tr> <tr><td>⑥核兵器～核兵器の存在は国際関係にどのような影響を与えているのか？</td></tr> <tr><td>⑦冷戦後の世界～国際社会は頻発する地域紛争にどのように対応すべきなのか？</td></tr> <tr><td>⑧アジア太平洋の安全保障①～戦後アジア太平洋の国際関係の特徴とは？</td></tr> <tr><td>⑨アジア太平洋の安全保障②～中国</td></tr> <tr><td>⑩アジア太平洋の安全保障③～アメリカ・ロシア</td></tr> <tr><td>⑪アジア太平洋の安全保障④～朝鮮半島情勢</td></tr> <tr><td>⑫アジア太平洋の安全保障⑤～東南アジア</td></tr> <tr><td>⑬アジア太平洋の安全保障⑥～アジアと日本</td></tr> </table>		①イントロダクション～国際関係論とはどのような学問か？ (その他、勉強の仕方、便利なウェブサイトの紹介など)	②国際関係の特質～国際関係論はどのように誕生し、発展していったのか、その特質は何か？	③国際政治を見る眼～国際関係論にはどのような視点があるのか？	④冷戦～冷戦はどのように始まり、その後どのように展開したのか？	⑤相互依存と国際関係～グローバル化は国際関係にどんな変化をもたらしたのか？	⑥核兵器～核兵器の存在は国際関係にどのような影響を与えているのか？	⑦冷戦後の世界～国際社会は頻発する地域紛争にどのように対応すべきなのか？	⑧アジア太平洋の安全保障①～戦後アジア太平洋の国際関係の特徴とは？	⑨アジア太平洋の安全保障②～中国	⑩アジア太平洋の安全保障③～アメリカ・ロシア	⑪アジア太平洋の安全保障④～朝鮮半島情勢	⑫アジア太平洋の安全保障⑤～東南アジア	⑬アジア太平洋の安全保障⑥～アジアと日本
①イントロダクション～国際関係論とはどのような学問か？ (その他、勉強の仕方、便利なウェブサイトの紹介など)																
②国際関係の特質～国際関係論はどのように誕生し、発展していったのか、その特質は何か？																
③国際政治を見る眼～国際関係論にはどのような視点があるのか？																
④冷戦～冷戦はどのように始まり、その後どのように展開したのか？																
⑤相互依存と国際関係～グローバル化は国際関係にどんな変化をもたらしたのか？																
⑥核兵器～核兵器の存在は国際関係にどのような影響を与えているのか？																
⑦冷戦後の世界～国際社会は頻発する地域紛争にどのように対応すべきなのか？																
⑧アジア太平洋の安全保障①～戦後アジア太平洋の国際関係の特徴とは？																
⑨アジア太平洋の安全保障②～中国																
⑩アジア太平洋の安全保障③～アメリカ・ロシア																
⑪アジア太平洋の安全保障④～朝鮮半島情勢																
⑫アジア太平洋の安全保障⑤～東南アジア																
⑬アジア太平洋の安全保障⑥～アジアと日本																

03 年度以降 02 年度以前	国際関係概論 a 国際関係概論	担当者	永野隆行
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>半年間の講義を通じて、国際関係研究(study of international relations)とはどのような学問なのかを理解してもらいたい。なお、教員の説明をただ受動的に聞くのではなく、学生一人一人がそれを批判的に受け止め、常に疑問を持ち、自分なりの「国際関係」のイメージを持ってもらいたい。</p> <p>本講義は2部構成となっている。本講義の導入として、国際関係とはどのような特徴をもったものなのかを説明した上で本論はいる。第一部では冷戦時代の国際政治を概観し、続いて第二部ではポスト冷戦期の国際関係、特にアジア地域の国際関係について論じることとする。なお講義の過程で、国際関係研究の上で重要な理論や用語についてもその都度説明を加えていく。また毎回の講義の冒頭約30分では、日々変化する国際関係に関心を持ってもらうために、最近の新聞記事から面白そうなものを選んで、その記事について一緒に考える時間を設けたい。</p> <p>なお、本講義を有意義なものとするために、質問・要望などがあるときは遠慮せず伝えること。授業中には、携帯メールを通じた質問を受け付けているので、質問大歓迎、積極的に利用して欲しい。</p> <p>ブックレポートと学期末試験（各 50 点）による評価。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>小島朋之ほか編『東アジアの安全保障』南窓社、2002年。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>①イントロダクション～国際関係論とはどのような学問か？ (その他、勉強の仕方、便利なウェブサイトの紹介など)</p> <p>②国際関係の特質～国際関係論はどのように誕生し、発展していったのか、その特質は何か？</p> <p>③国際政治を見る眼～国際関係論にはどのような視点があるのか？</p> <p>④冷戦～冷戦はどのように始まり、その後どのように展開したのか？</p> <p>⑤相互依存と国際関係～グローバル化は国際関係にどんな変化をもたらしたのか？</p> <p>⑥核兵器～核兵器の存在は国際関係にどのような影響を与えているのか？</p> <p>⑦冷戦後の世界～国際社会は頻発する地域紛争にどのように対応すべきなのか？</p> <p>⑧アジア太平洋の安全保障①～戦後アジア太平洋の国際関係の特徴とは？</p> <p>⑨アジア太平洋の安全保障②～中国</p> <p>⑩アジア太平洋の安全保障③～アメリカ・ロシア</p> <p>⑪アジア太平洋の安全保障④～朝鮮半島情勢</p> <p>⑫アジア太平洋の安全保障⑤～東南アジア</p> <p>⑬アジア太平洋の安全保障⑥～アジアと日本</p>	

03 年度以降 02 年度以前	国際関係概論 b 国際関係概論	担当者	八丁 由比
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的</p> <p>国際問題全般に対する関心と理解を深め、自分なりの意見を発表できるようになること。また、英語、日本語を問わず、必要な情報を入手し、利用できるようになること。</p> <p>講義概要</p> <p>右欄に挙げた諸問題などを、ニュース・報道番組、新聞・雑誌記事などから取り上げ、それらについて考察と分析を行う。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、テスト、レポート (詳しくは初回の講義で説明)</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>適宜紹介する</p>		<p>◆授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> * Introduction * Nationalism * Humanitarian intervention and world politics * Environmental issues * Nuclear proliferation * Culture in world affairs * European and regional integration * Global trade and finance * The communications and internet revolution * Poverty, development and hunger * Human rights * Global trade and finance * Conclusion (テーマについては順序など、若干の変更がありうる) 	

03 年度以降 02 年度以前	国際関係概論 a	担当者	八丁 由比
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的</p> <p>国際問題全般に対する関心と理解を深め、自分なりの意見を発表できるようになること。また、英語、日本語を問わず、必要な情報を入手し、利用できるようになること。</p> <p>講義概要</p> <p>右欄に挙げた諸問題などを、ニュース・報道番組、新聞・雑誌記事などから取り上げ、それらについて考察と分析を行う。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席状況、テスト、レポート (詳しくは初回の講義で説明)</p> <p>◆テキスト、参考文献 適宜紹介する</p>		<p>◆授業計画</p> <ul style="list-style-type: none"> * Introduction * Nationalism * Humanitarian intervention and world politics * Environmental issues * Nuclear proliferation * Culture in world affairs * European and regional integration * Global trade and finance * The communications and internet revolution * Poverty, development and hunger * Human rights * Global trade and finance * Conclusion (テーマについては順序など、若干の変更がありうる) 	

03 年度以降 02 年度以前	国際関係概論 b 国際関係概論	担当者	金子 芳樹
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>変化が激しい現代の国際社会を把握し、自らの視点と判断力を養うために不可欠な国際関係の基礎知識と分析方法を習得する。特に、国際社会の様々な主体(国家、国際機関、NGO など)の関係を、その構造やコミュニケーションのあり方などを中心に多角的に学ぶ。</p> <p>講義は以下の2つのパートから構成される。</p> <p>(1) 冷戦時代の国際関係の構造と歴史的展開を説明し、同時に基本的な国際関係論の理論を解説する。</p> <p>(2) 冷戦崩壊後(ポスト冷戦期)の国際社会で起こっている事象(ヒト・モノ・カネ・情報のボーダレス化・グローバル化にかかわる現象)を取り上げ、歴史的背景、現状分析、国際関係へのインパクトなどを盛り込みながら、国際社会の構造変化について解説する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学期後半は提出のレポートと学年末試験の成績に基づく。レポートはワープロ指定で2000字以上。</p> <p>◆テキスト、参考文献 テキストは使用しない。参考文献は各授業で紹介する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際関係論とは- 国家と国際社会 2. 冷戦の構造(1) 構造 3. 冷戦の構造(2) 起源 4. 冷戦の構造(3) 特徴 5. 冷戦の展開(1) 戦争(1) 6. 冷戦の展開(2) 戦争(2) 7. 冷戦の展開(3) 崩壊 8. ポスト冷戦期の国際社会(1)ボーダレス化の影響(1) 9. ポスト冷戦期の国際社会(2)ボーダレス化の影響(2) 10. ポスト冷戦期の国際社会(3)グローバル化の影響(1) 11. ポスト冷戦期の国際社会(4)グローバル化の影響(2) 12. まとめ:国際社会を見る眼 (初回の授業時に詳細な授業計画を配布する) <p>* なお、授業はプレゼンテーション・ソフトを用いて行い、ビデオ資料も適宜使用する。</p>	

03年度以降 02年度以前	国際機構論 a 国際機構論	担当者	松田 幹夫
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的は、国際組織への法的アプローチ。 講義概要は、おもな国際組織のみを重点的にとりあげる。可能な限り日本との関係について言及するのが特色。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 序論 2 国際組織の歴史 3 国際連盟の成立と解散 4 国際連盟の構造と機能 5 委任統治 6 PCIJ 7 国連の成立 8 国連加盟国 9 国連の構造と機能 (1) 10 国連の構造と機能 (2) 11 国連の集団安保体制 12 PKO 	
◆ 評価方法			
定期試験 (論述式) 参照一切不可			
◆テキスト、参考文献			
テキストはなし。参考文献は、毎回配布するレジュメ末尾に掲げる。			

03年度以降 02年度以前	国際機構論 b 国際機構論	担当者	松田 幹夫
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
春学期と同じ		<ol style="list-style-type: none"> 1 信託統治と非自治地域 2 ICJ (1) 3 ICJ (2) 4 世界人権宣言の成立まで 5 国際人権規約の成立以後 6 冷戦期からポスト冷戦期にかけての国連 7 NATO 8 欧州統合への動き 9 欧州統合への始まり 10 EC 11 EU (1) 12 EU (2) 	
◆ 評価方法			
春学期と同じ			
◆テキスト、参考文献			
春学期と同じ			

03年度以降 02年度以前	地球環境論 a (地理学) 地球環境論 (地理学)	担当者	犬井 正
◆講義目的、講義概要 地理学の扱う内容は多岐にわたるが、本講義では、人間の居住環境が人間にとってどのような意義をもっているのかという視点から、日常生活している環境とは大きく異なる地域を概観し、地理的な知識と地理的見方・考え方を身につけることを目的とする。 まず、環境の諸要素を概観し、熱帯地域、沙漠地域、亜寒帯針葉樹林地帯、山地地域を取り上げ、人間の活動の舞台である自然環境と、そこで繰り広げられている人々の生活様式を説明する。		◆授業計画	
◆評価方法 定期試験による。		1 オリエンテーション-地理学とはどのような学問か 2 環境の諸要素(1)地形環境 3 環境の諸要素(2)気候環境 4 熱帯地域(1)熱帯林と伝統的生活様式 5 熱帯地域(2)熱帯林の開発と環境問題 6 沙漠地域(1) 自然的特色と伝統的経済活動、沙漠と世界宗教の起源地 7 沙漠地域(2) 石油資源と近代化、沙漠の開発 8 亜寒帯森林地域、タイガの中の生活 9 ツンドラ地域と冰雪地域 10 山地地域の自然環境 11 山地地域の生活様式 12 自然環境と文化のまとめ	
◆テキスト、参考文献 テキスト：なし 参考文献：山本正三他著『自然環境と文化』(大明堂)			

03年度以降 02年度以前	地球環境論 b (地理学) 地球環境論 (地理学)	担当者	犬井 正
◆講義目的、講義概要 近年、全国で「里山保全運動」が広がっている。里山は高度経済成長期前まで、農業や農村生活の再生産を維持し、人と自然の共生関係を育ててきた。身近な自然である全国の里山に目を注ぎながら、そのかわりの履歴を読み解いていく。各地の里山で展開してきた二次林文化を明らかにし、里山の豊かさが時空を超えて存在してきたことを明らかにし、「身近な自然を守る」ということはどのような意味をもつのか、里山での文化を、持続可能な社会システムを作る原理として現代の人々が何を学び取るべきかなどを考えていく。		◆授業計画	
◆評価方法 定期試験による。		1 里山とは何か 2 里山と雑木林 3 里山の自然史-氷期以降の自然 4 里山と生物の多様性(1) 5 里山と生物の多様性(2) 6 里山と農村生活 7 里山と農業 8 里山の諸相 9 里山と二次林文化-循環型社会の原像 10 里山の開発-東洋のアルカディアの崩壊 11 里山保全-身近な自然を守るとは 12 まとめ-市民による里山保全活動	
◆テキスト、参考文献 テキスト：犬井 正『里山と人の履歴』(新思索社)			

		担当者	
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<div style="border: 1px solid black; height: 200px; width: 100%;"></div>		<div style="border: 1px solid black; height: 200px; width: 100%;"></div>	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div>			

03 年度以降	地球環境論 b (植物学)	担当者	加藤 僖重
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 日本人と日本の文化を考える基礎となるはずの日本の自然環境を理解することを目的とする。</p> <p>講義概要 ヒトの活動が大きく地球環境を改変してきたが、その様子を知るために、主として北半球各地の環境の異同を身近な植物や動物を例に説明する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 宇宙船地球号 最大人口は？ 2 エコシステムとは？ 1 3 エコシステムとは？ 2 4 独立栄養生物と従属栄養生物 5 気候環境 6 夏緑林文化 7 照葉樹林文化 8 自然保護運動 9 ワシントン条約と日本人 10 ラムサール条約と日本人 11 世界遺産条約と日本の自然 12 まとめ 	
◆ 評価方法			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">出欠、レポート、試験結果を総合的に判断する。</div>			
◆テキスト、参考文献			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">適宜、プリントを配布する。</div>			

03 年度以降 02 年度以前	地球環境論 a (太陽系) 地球環境論 (太陽系)	担当者	福井 尚生
<p>◆講義目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆我々は太陽系惑星の一つ地球に住んでいます。他の惑星とは異なり、地球上では諸環境のお蔭で生物が誕生・進化し人類まで奇跡的に辿り着きました。「太陽系」の実状を知れば奇跡の訳が見えてくるかも知れません。 ☆『地球環境論 a』(太陽系)で、このお蔭の内容を知り、地球を率先して愛おしみ慈しむ意識が少しでも湧いて来ればと思います。 ☆視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ☆関連する内容の英文も時折読みます。 ☆主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭で先を考え、且つ実行して下さい。 		<p>◆講義概要</p> <pre> graph TD A[太陽系] --> B[太陽] A --> C[地球] A --> D[太陽系の起源] B --> E["p-p 連鎖反応 Maunder 極小期 太陽エネルギー利用"] C --> F["Kepler の惑星運動の 3 法則 Galilei の落体の法則 Newton の万有引力・運動の 3 法則"] D --> G["星雲モデル 微惑星 Goldilocks Planet"] </pre>	
<p>◆ 評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆主たる評価資料は、毎授業時間中に提出してもらう、課題用紙の中身です。 <p>◆テキスト、参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆テキスト/配布プリント、参考文献/『現代天文学要説』内海和彦、田辺健茲、吉岡一男 著・朝倉書店 			

03 年度以降 02 年度以前	地球環境論 b (太陽系) 地球環境論 (太陽系)	担当者	福井 尚生
<p>◆講義目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ＊『地球環境論 b』は、『地球環境論 a』の単位を修得した学生が履修することを希望します。 ＊我々の地球は宇宙を支配する自然法則のもとに存在しています。宇宙で起こっていることは地球にも起こる可能性があります。月には沢山の Craters があります、小天体衝突の名残です。地球にも Craters が発見されています。地球も宇宙からの訪問を受けているのです。 ＊『地球環境論 b』では宇宙からの訪問の話題を取り上げて、地球を守ることの意味を考えてみます。 ＊視聴覚教材を出来るだけ利用します。 ＊関連する内容の英文も時折読みます。 ＊主体的に勉強して得た知識をもとに、自らの頭で先を考え、且つ実行して下さい。 		<p>◆講義概要</p> <pre> graph TD A[宇宙からの訪問] --> B[天体の衝突] A --> C[衝突の回避] A --> D[宇宙“人”の侵略] B --> E["Tunguska Event Chicxulub Crater 衝突の冬"] C --> F["多重 Barrier Space Guard NEO"] D --> G["宇宙“人”の存在 Little Green Men 魅力ある天体?地球"] </pre>	
<p>◆ 評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ＊主たる評価資料は、毎授業時間中に提出してもらう、課題用紙の中身です。 <p>◆テキスト、参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ＊テキスト/配布プリント、参考文献/『小惑星衝突』日本スペースガード協会 著、Newton Press 			

03 年度以降 02 年度以前	都市・地域計画論 a 都市・地域計画論	担当者	鈴木 隆
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は、人間の生活ならびに諸活動の場である都市および地域に関わる現象、課題ならびに政策について、日本やヨーロッパの事例を取り上げて学び、都市や地域のあり方について考える力をつけることを目的とする。 講義では、都市や地域に関する多様な視点から問題を提起し、それをめぐる議論や研究に言及しながら問題について考えてゆく。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>主に試験およびレポートによって評価するが、出席も考慮する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは用いない、参考文献は授業の中で適宜紹介する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 都市の概念 2 団体としての都市 3 団体としての都市 (続) 4 団体としての都市 (続) 5 都市と人口 6 都市と人口 (続) 7 小括 8 都市および地域の構造 9 都市および地域の構造 (続) 10 都市および地域の構造 (続) 11 都市および地域の構造 (続) 12 小括 	

03 年度以降 02 年度以前	都市・地域計画論 b 都市・地域計画論	担当者	鈴木 隆
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は、人間の生活ならびに諸活動の場である都市および地域に関わる現象、課題ならびに政策について、日本やヨーロッパの事例を取り上げて学び、都市や地域のあり方について考える力をつけることを目的とする。 講義では、都市や地域に関する多様な視点から問題を提起し、それをめぐる議論や研究に言及しながら問題について考えてゆく。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>主に試験およびレポートによって評価するが、出席も考慮する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストは用いない、参考文献は授業の中で適宜紹介する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 都市と地価 2 都市と地価 (続) 3 都市の整備と負担 4 小括 5 都市の賑わいと再生 6 都市の賑わいと再生 (続) 7 都市の賑わいと再生 (続) 8 小括 9 都市の景観とイメージ 10 都市の計画とイメージ (続) 11 都市の景観とイメージ (続) 12 まとめ 	

03年度以降 02年度以前	国際経済論 a 国際経済論	担当者	千代浦昌道
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。</p> <p>講義概要 経済開発論の学問的位置づけ、発展途上国の現状と経済開発に関連する基礎知識の充実を図る。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 経済開発論をなぜ学ぶか、授業の進め方、参考文献／統計資料の紹介 2 経済開発論の基礎的概念（経済開発／発展／成長の意味、経済開発論の経済学上の位置づけ） 3 発展途上国の基本問題（低開発の歴史的背景、産業構造の変化、貧困と所得分配、A. センの思想） 4 発展の非経済的側面Ⅰ（政治的側面、社会文化的要因、社会学的把握） 5 発展の非経済的側面Ⅱ（家族単位、階級構造、民族、人種、宗教） 6 先進工業国経済発展の教訓Ⅰ（工業化とその波及、イギリス／フランスの工業化） 7 先進工業国経済発展の教訓Ⅱ（ドイツ／アメリカ／ロシア／日本の工業化） 8 人口と経済発展（人口爆発、人口増加と経済発展、人口問題論争、人口政策） 9 都市と農村（農村・都市間移住とトダロ理論、都市のスラム化とインフォーマル部門、政治と都市） 10 雇用と失業（失業と低雇用、ヌルクセの偽装失業理論、ルイスの2部門モデル） 11 教育と発展Ⅰ（教育と発展、人的資源、教育機会と貧困） 12 教育と発展Ⅱ（教育と人口問題／国内移住、頭脳流出、知的従属、教育と農村開発） 	
◆ 評価方法			
<p>期末試験による。随時に出欠をとり、成績評価の参考とする。</p>			
◆参考文献			
<p>原洋之介『開発経済論』岩波書店、1996 絵所秀紀『開発の政治経済学』日本評論社、1997</p>			

03年度以降 02年度以前	国際経済論 b 国際経済論	担当者	千代浦昌道
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>講義目的 経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。</p> <p>講義概要 経済発展の理論的解明、国際経済関係における発展途上国問題の位置づけなどを中心に講義する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 経済発展のモデルⅠ（古典派、K. マルクス、ハロッド＝ドマー理論、ロストウ、シュンペーター） 2 経済発展のモデルⅡ（新古典派、チェネリー、従属理論、E.F. シューマッハー、新自由主義） 3 農業と発展（植民地経済とモノカルチャー、人口都市化、農地改革と農村開発） 4 工業化と開発戦略（均整成長論とビッグプッシュ、不均整成長論と連関効果、輸入代替・輸出促進工業化） 5 貿易と発展Ⅰ（重商主義とアダム・スミス、比較生産費の理論） 6 貿易と発展Ⅱ（GATTとWTO、プレビッシュ＝シンガー・テーゼ、従属理論、新国際経済秩序） 7 貿易と発展Ⅲ（アジアNIE Sの発展、関税と為替レート、FTAと地域経済統合） 8 多国籍企業と発展途上国（直接投資理論、多国籍企業の利害得失） 9 国際収支と途上国債務問題（国際収支構造と経済発展、累積債務問題） 10 途上国債務問題への国際的対応（冷戦終結の影響、世銀／IMFへの批判、債務＝環境スワップ） 11 国際援助と経済開発Ⅰ（途上国援助の歴史と現状、基本的ニーズ、構造調整融資） 12 国際援助と経済開発Ⅱ（参加型援助と女性の役割、草の根援助とNGO、国際援助の展望） 	
◆ 評価方法			
<p>期末試験による。随時に出欠をとり、成績評価の参考とする。</p>			
◆参考文献			
<p>西垣、下村『開発援助の経済学』、有斐閣、1997 宮崎他編『世界経済読本[7版]』東洋経済新報、2002</p>			

03年度以降 02年度以前	国際政治論 a 国際政治論	担当者	阿部 松盛
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>我々の住む現代世界は地球的規模の問題群に覆われるようになったため、巨大で、複雑で、流動的な国際関係の構造は危機的なものとなっている。そして、そうした構造の本質、特徴、また変革の可能性などの検討が要求されている。</p> <p>そこで、こうしたグローバル社会システムが形成された歴史的経緯、およびこの構造の現代的変容について二つの視点から分析を加えることが必要となる。</p> <p>一方で、グローバル社会を構成する行為主体（主権国家や脱国家主体など）があり、他方で、それら主体間で構成される国際システムと脱国家間関係システムから成るグローバル・システムがある。こうした二つの視点から国際関係の本質と基本的構造に体系的なアプローチを加えていく。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 国際政治学の基本的課題 グローバル化と国際政治構造の変容 2 近代国際関係の成立と発展 主権国家の形成と西欧国家体系の成立 3 現代国際関係の成立 ナショナリズムと国民国家体系の成立 4 冷戦期の国際関係 冷戦の起源と展開と終結 5 現代国際関係の基本的枠組 国内政治と国際政治 6 国際関係における国家の基本行動 国家の対外的目的と対外的手段 7 国家の対外政策の形成 対外政策の形成過程とアリソン・モデル 8 グローバル社会の新たな国際関係の枠組（1） 国際社会の相互浸透の増大と変容 9 グローバル社会の新たな国際関係の枠組（2） 脱国家的関係の増大と国際政治の変容 10 国際政治システム論 国際政治システムの構造と安定 11 世界システム論（1） 世界システムの構造と変動 12 世界システム論（2） 世界システムにおける長期変動と覇権循環 	
◆ 評価方法			
試験・レポート(書評)、出欠状況による総合評価。			
◆テキスト、参考文献			
星野昭吉『世界政治の原理と変動』（同文館） 同『世界政治における構造主体と構造』（アジア書房）			

03年度以降 02年度以前	国際政治論 b 国際政治論	担当者	阿部 松盛
◆講義目的、講義概要		◆授業計画	
<p>現在の国際関係の諸問題は我々の日常生活と著しく結びつき、我々の生存は国際関係の在り方に大きく依存している。</p> <p>我々は、安全保障や核拡散問題をはじめ、民族・宗教問題の激化、南北問題の深化、人口・食糧問題、人権抑圧、環境破壊の拡大などの地球的規模の問題群に直面している。</p> <p>こうした様々な諸問題を、前期において検討したグローバルな国際社会システム構造の変動と関連づけて検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 現代グローバル社会の諸相 冷戦後における国際社会の諸問題 2 グローバル社会の安全保障問題(1) 国家安全保障と国際安全保障 3 グローバル社会の安全保障問題(2) 集団安全保障と平和維持活動 4 グローバル社会の安全保障問題(3) 軍縮と軍備管理 5 グローバル社会の経済問題 経済のグローバル化と経済摩擦 6 グローバル社会と南北問題(1) 南北問題とその現状 7 グローバル社会と南北問題(2) 南北問題の解決と新たな南北問題 8 グローバル社会と宗教・民族(1) イデオロギーの終焉と宗教・民族問題 9 グローバル社会と宗教・民族(2) 宗教・民族問題と地域紛争 10 グローバリゼーションと環境問題 グローバルな環境破壊とその解決 11 グローバリズムとリージョナリズム 国家機能の衰退と国際統合の進展 12 グローバル・ガバナンス 国際組織と国際制度の発展 	
◆ 評価方法			
試験・レポート(書評)、出欠状況による総合評価。			
◆テキスト、参考文献			
星野昭吉『世界政治の原理と変動』（同文館） 同『世界政治における構造主体と構造』（アジア書房）			

02年度以前	卒業論文(通年)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>言語文化学科では卒業論文は必修科目ではないが、学生諸君にはできるだけ履修し、論文を書き上げて提出することを勧めている。</p> <p>なぜなら、卒業論文に真摯に取り組んで仕上げることは、物事を論理的に考える方法を獲得し、困難なテーマに取り組んでそれを克服する能力と姿勢を養うためには、とても良い方法だからである。単に単位を修得するためだけではなく、また学生時代の思い出としてではなく、諸君の人生にとって必ずや大きな意味を持つ取り組みになるからである。</p> <p>しかし、諸君の中にはこれを大変安易に捕らえている向きも多く見受けられる。卒業論文は1ヶ月や2ヶ月の準備と作業で書き上げられるほど簡単なものではない。担当教員の指導に従い、頻繁に指導を受けて早い時期から取り組み、きちんとしたものを仕上げたい。提出間際になって突然相談を受けても何もできない。就職活動などは言い訳にはならないことを忘れてはいけない。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>学科の申し合わせによる。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>各担当教員の指示による</p>		<p>◆授業計画</p> <p>卒業論文提出予定者に向けて4月と10月にガイダンスを開催する予定なので、必ず参加すること。</p> <p>普段の指導は担当教員の指示に従うこと。</p> <p>なお、執筆にはパーソナルコンピュータでワードプロセッサ・画像ソフトを用い、きちんとしたデジタルデータを提出することが求められる。操作の習熟が求められるので早い内から準備し、取り組んで欲しい。</p> <p>例年、提出当日にコンピュータやプリンタの故障で提出できない学生がいる。早めの提出のために周到な計画を立てることが必要である。</p>	

		担当者	
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>春学期参照</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>◆テキスト、参考文献</p>		<p>◆授業計画</p>	

2004年度

外国語学部共通科目シラバス

獨協大学

外国語学部共通科目 2003年度以降入学者用

目 次

◇ … 春学期開講科目
◆ … 秋学期開講科目

総合講座	◇ 若森榮樹	1
総合講座	◆ 若森榮樹	1
情報科学概論a	◇ 吳浩東	2
情報科学概論b	◆ 吳浩東	2
情報科学各論(入門)	◇ 各担当教員	3
情報科学各論(初級)「表計算入門」	◇ ・ ◆ 各担当教員	4
情報科学各論(初級)「プレゼンテーション」	◇ ・ ◆ 金井満	5
情報科学各論(初級)「HTML入門」	◇ ・ ◆ 各担当教員	6
情報科学各論(中級)「表計算応用1」	◇ ・ ◆ 松山恵美子	7
情報科学各論(中級)「HTML応用1」	◇ 東孝博	8
情報科学各論(中級)「HTML応用1」	◆ 金子憲一	9
情報科学各論(中級)「HTML応用1」	◆ 田中雅英	10
情報科学各論(中級)「HTML応用2」	◆ 東孝博	11
情報科学各論(中級)「データベース1」	◇ 長崎等	12
情報科学各論(中級)「データベース1」	◆ 松山恵美子	13
情報科学各論(中級)「データベース2」	◆ 長崎等	12
情報科学各論(中級)「プログラミング論1」	◇ 吳浩東	14
情報科学各論(中級)「プログラミング論2」	◆ 吳浩東	14
経済原論a	◇ 阿部正浩	15
経済原論b	◆ 阿部正浩	15
社会心理学a	◇ 田口正徳	16
社会心理学b	◆ 田口正徳	16

03 年度以降 02 年度以前	総合講座 総合講座 B	担当者	若森栄樹
<p>◆講義目標</p> <p>日本で「現代思想」と呼ばれている、現代ヨーロッパのもっとも先鋭的な思想への入門的な講座です。特に言語と思想のかかわりを中心に、ソシュールやフロイトから始まり、さまざまな思想家の世界に触れていきます。</p> <p>担当の先生はテーマに従って変わります。その分野の専門の先生が直接授業をされるので、現代思想に興味のある学生諸君にはぜひ聴講いただきたいと思います。</p> <p>◆講義概要</p> <p>いわゆる「現代思想」全体に対して、大まかな展望を与える講座となっています。具体的には、精神分析や言語学、そして構造主義およびポスト構造主義の哲学を解説し、理解していくことが目的です。最近日本では現代思想など「軽薄」で、どうでもよいと考え、そう公言する人が専門家のなかにもいますが、それは間違いで、多くの学ぶべきことがそこにはあります。</p> <p>難解とされる現代思想が実は私たちの現実と深くかかわっていることを理解していただければと思っています。</p> <p>さらに詳しい授業内容および担当者についての説明を用意しています。興味のある方は教務課まで申し出てください。</p> <p>◆受講生への要望</p> <p>単に知識を得るためではなく、自分でものを考え、自分で判断するためにこそ、私たちはものを学ぶのだということを忘れないこと。 本を読むのをいとわないこと。</p> <p>◆評価方法</p> <p>最初の授業の際指示します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>各担当の先生から指示があります。</p>		<p>◆授業計画</p> <p>春学期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス (若森栄樹) 2. 講座全体へのイントロダクション (若森栄樹) 3. ソシュールの言語学 (渡沼英二) 4. フロイトの精神分析学 1. (大原知子) 5. フロイトの精神分析学 2. (大原知子) 6. ジョルジュ・バタイユ (岩野卓司) 7. ワルター・ベンヤミン (工藤達也) 8. ジャック・デリダと脱構築 (若森栄樹) 9. ミシェル・フーコー (桑田禮彰) 10. アドルノと否定の弁証法 (船戸満之) 11. フランクフルト学派の諸相 (船戸満之) 12. 現代における詩人 (吉田文憲) <p>秋学期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 後期ガイダンス (若森栄樹) および現代フェミニズム 1. (井上たか子) 2. 現代フェミニズム 2. (井上たか子) 3. ソシュールの言語理論 (渡沼英二) 4. 精神分析の現在——ジャック・ラカン (大原知子) 5. 精神分析の現在——クライン、クリステヴァ (大原知子) 6. コジェーヴ、ラカンと日本 (若森栄樹) 7. ミシェル・フーコー (桑田禮彰) 8. ワルター・ベンヤミン (工藤達也) 9. アドルノと「ホロコースト」 (船戸満之) 10. フランクフルト学派 (船戸満之) 11. 現代思想の諸問題—まとめ (若森栄樹) 12. 詩とは何か? (吉田文憲) 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学概論 a 情報科学概論	担当者	呉 浩東
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義では、文系学生のための情報科学とコンピュータリテラシーから着目し、コンピュータの歴史と仕組み、情報のデジタル化・マルチメディア化、コンピュータによるデータの表現や、コンピュータの原理を紹介する。本講義はコンピュータのソフトの使い方ではなく、情報に関する知識を身につく方や情報関係資格を目指している方に役を立つように工夫している。</p> <p>本講義はまず、人間とコンピュータとの関わり、情報とコンピュータシステムの関係の概説し、コンピュータのハードウェアとソフトウェア、コンピュータの動作概要などを解説する。次に、情報の符号化、コンピュータ内のデータ表現、プログラム構造、ソフトウェアの開発の手法について述べる。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>(1) 最初の講義で指示する。 (2) 必要な資料を配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 講義の概要と目標 2 情報とは何か 情報の性質、情報の形態、情報の発達 3 コンピュータの歴史と特徴 計算機の変遷とコンピュータの世代論 4 数の体系と基数変換 2進数と16進数、基数変換、2進数の演算 5 コンピュータの論理回路とデータ表現 6 コンピュータの構成要素 (1) 中央処理装置 (CPU) とメインメモリ 7 コンピュータの構成要素 (2) 2次記憶装置と周辺措置 8 コンピュータ・ソフトウェアの概略 ソフトウェアの役割、体系と種類 9 オペレーティングシステム (OS) OSの基礎概念、OSの役割と原理 10 コンピュータ言語 コンピュータ言語の分類と目的 11 基本データ構造 配列構造、木構造、リスト構造、スタック構造 12 ソフトウェア開発手順 システム分析と設計、プログラム開発と保守 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学概論 b 情報科学概論	担当者	呉 浩東
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義では、近年急速に発展しているインターネット、データ通信、データベース技術などに重点を置き、コンピュータ活用技術に関するさまざまな知識を概説する。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>レポート、出席状況と筆記試験の結果を併せて評価する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>(1) 最初の講義で指示する。 (2) 必要な資料を配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ファイルの構造 ファイルの種類と構造 2 データベース データベースの概要、データベースの種類 3 データベース管理システム (DBMS) DBMSの目的と構成 4 データベースの設計 データベース構築の手順、データの正規化 5 コンピュータ・ネットワーク ネットワークの種類、LANの構成とアクセス方式、サーバー・クライアントモデル 6 インターネット インターネットの仕組み、通信規約 TCP/IP、IP アドレス、DNS 7 インターネットサービス World Wide Web、情報検索、電子メールなど 8 インターネットと社会 ネットワークセキュリティ、暗号システム、電子認証 9 マルチメディアの利用 画像処理、音声処理、応用システム 10 情報検索 情報検索の方法と演習 11 オンライン・ソフトウェア オンライン・ソフトウェアの使い方と使用 12 まとめ 	

03年度以降 02年度以前	情報科学各論(入門) コンピュータ入門	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。この科目では、コンピュータの基本操作を中心に、アプリケーションソフトの利用、およびコンピュータネットワークについて学んでいく。とくに大学生活(広くは社会生活)で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p> <p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。内容は、日本語および英文ワープロ、コンピュータネットワーク(通信)、情報倫理についてである。</p> <p>注意</p> <p>第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>◆評価方法</p> <p>授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト</p> <p>『学生のためのコンピュータ活用Ⅰ』</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作 2 ウィンドウズ入門—ウィンドウ操作とアプリケーション 3 日本語入力とタイピング 4 インターネット—ブラウザ・メール・検索 5 情報倫理 6 ワードプロセッサとは 7 文書の作成(1) 8 文書の作成(2) 9 文書の作成(3) 10 文書への画像の挿入 11 レポートの作成 12 総合演習 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(初級－表計算入門) 情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意</p> <p>第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>◆評価方法</p> <p>授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト</p> <p>『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用(1) 7 関数の利用(2) 8 関数の利用(3) 9 プレゼンテーション(1)－作成(MS-Powerpointとは) 10 プレゼンテーション(2)－作成(データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション(3)－発表 12 総合演習 		

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(初級－表計算入門) 情報科学各論(初級－表計算入門)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業では、表計算ソフト(MS-Excel)の基本操作を学ぶ。数値データ・文字データの処理方法およびコンピュータネットワークを利用した情報の収集とそのデータの整理・加工の方法を学習する。さらにそのデータをまとめ効果的に発表する手段を習得する。</p> <p>注意</p> <p>第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>◆評価方法</p> <p>授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト</p> <p>『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 表の作成(文字の入力)、グラフの作成 3 表の編集、グラフの装飾、印刷 4 計算式の利用 5 ネットワークからのデータの収集・整理 6 関数の利用(1) 7 関数の利用(2) 8 関数の利用(3) 9 プレゼンテーション(1)－作成(MS-Powerpointとは) 10 プレゼンテーション(2)－作成(データの活用・まとめ) 11 プレゼンテーション(3)－発表 12 総合演習 		

03年度以降 02年度以前	情報科学各論（初級—プレゼンテーション） 情報科学各論（初級—プレゼンテーション）	担当者	金井満
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目標： この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。</p> <p>ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p> <p>◆ 評価方法 授業内での個人プレゼンテーション。</p> <p>◆テキスト、参考文献 授業で指示します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. Powerpoint の基本操作 4 6. Powerpoint の基本操作 5 7. プレゼンテーションの注意点と個人プレゼンテーションの準備 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	

03年度以降 02年度以前	情報科学各論（初級—プレゼンテーション） 情報科学各論（初級—プレゼンテーション）	担当者	金井満
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目標： この授業は、コンピュータ初心者向け授業「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目です。コンピュータの基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて、一歩踏み出すために設けられているものです。</p> <p>講義概要： この授業では、プレゼンテーション用ソフトウェアである Powerpoint を使って文字情報だけではなく、画像・音声・動画など様々な方法で自分の持っている情報をわかりやすく相手に伝え、理解してもらうための手法を学びます。</p> <p>ソフト自体はワープロが使える人であればそれほど難しいものではないので、実際にプレゼンテーションを行う経験も積んでもらいたいと思います。</p> <p>◆ 評価方法 授業内での個人プレゼンテーション。</p> <p>◆テキスト、参考文献 授業で指示します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2. Powerpoint の基本操作 1 3. Powerpoint の基本操作 2 4. Powerpoint の基本操作 3 5. Powerpoint の基本操作 4 6. Powerpoint の基本操作 5 7. プレゼンテーションの注意点と個人プレゼンテーションの準備 8. 個人プレゼンテーションの準備 9. 個人プレゼンテーション 10. 個人プレゼンテーション 11. 個人プレゼンテーション 12. 総括 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(初級－HTML 入門) 情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意 第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>◆評価方法 授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト 『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW と LAN 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成－テキスト 8 ホームページの作成－イメージ 9 ホームページの作成－リンク 10 ホームページの作成－テーブル・その他 11 ホームページの作成－完成 12 ファイルの転送とページの更新 		

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(初級－HTML 入門) 情報科学各論(初級－HTML 入門)	担当者	各担当教員
<p>◆講義目的、講義概要 この授業は、コンピュータ初心者向け授業「情報科学各論(入門)」「コンピュータ入門」の直上に位置する初級科目である。コンピュータについての基礎知識と基本操作を習得した人たちが、その活用に向けて一歩踏み出すために設けられている。社会生活に必要な情報の活用法を学習し、より幅広いリテラシーを得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、コンピュータとコンピュータネットワークの基本構成、ファイルの種類やフォルダの構造といったコンピュータに関する基礎知識を復習する。その上で、インターネットサービスの一つであるWWW(World Wide Web)における情報の構成単位である「ページ」の構造と、それを記述する「HTML」(Hyper-Text Markup Language)を学ぶ。また、簡単な自分自身のホームページの試作もする。</p> <p>注意 第1回目の授業で受講確認を受けなかった者は、原則としてその後の受講を認めない。その場で使用教材や授業に必要なものを指示する。</p> <p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>◆評価方法 授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト 『学生のためのコンピュータ活用Ⅱ』</p>	<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータの基本操作の復習 2 WWW と LAN 3 情報の単位と情報通信 4 ハイパーテキストと HTML 5 インターネットと情報倫理 6 ページの構造と HTML 7 ホームページの作成－テキスト 8 ホームページの作成－イメージ 9 ホームページの作成－リンク 10 ホームページの作成－テーブル・その他 11 ホームページの作成－完成 12 ファイルの転送とページの更新 		

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級—表計算応用1） 情報科学各論（中級—表計算応用1）	担当者	松山恵美子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel に用意されている機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程で、計算式、関数、書式設定など同じ一連の操作を何度か繰り返す必要が出てくる場合がある。「マクロ」機能とは、そのような一連の操作を登録することで、次回からは登録した「マクロ」を呼び出し実行させるというものである。</p> <p>簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で作成された VBA(Visual Basic for Application) プログラムの基礎を理解することを目標とする。</p> <p>ツールバー上のボタンを利用すると、処理が行われるが、それと同じようなボタンを自分自身で作成できるということを「マクロ」機能を通じて学習する。</p> <p>——（重要）——</p> <p>定員は 30 名とする。希望者が 30 名以上の場合は抽選を行う。必ず第 1 回目の授業に出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席と課題作成。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>第 1 回目の授業で指示する。必ず出席すること。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel の復習 2 マクロ機能とは 3 関数と計算式を使ったマクロの作成（1） 4 関数と計算式を使ったマクロの作成（2） 5 マクロ用ボタンとマクロの連携（1） 6 第 1 回目課題作成 7 Visual Basic Editor の利用（1） 8 Visual Basic Editor の利用（2） 9 第 2 回目課題作成 10 最終課題作成（1） 11 最終課題作成（2） 12 最終課題作成（3） 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級—表計算応用1） 情報科学各論（中級—表計算応用1）	担当者	松山恵美子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものとする。</p> <p>Excel に用意されている機能のひとつに「マクロ」機能がある。Excel でデータを処理する過程で、計算式、関数、書式設定など同じ一連の操作を何度か繰り返す必要が出てくる場合がある。「マクロ」機能とは、そのような一連の操作を登録することで、次回からは登録した「マクロ」を呼び出し実行させるというものである。</p> <p>簡単な「マクロ」を作成しながら、マクロ機能で作成された VBA(Visual Basic for Application) プログラムの基礎を理解することを目標とする。</p> <p>ツールバー上のボタンを利用すると、処理が行われるが、それと同じようなボタンを自分自身で作成できるということを「マクロ」機能を通じて学習する。</p> <p>——（重要）——</p> <p>定員は 30 名とする。希望者が 30 名以上の場合は抽選を行う。必ず第 1 回目の授業に出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席と課題作成。出席は重視する。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>第 1 回目の授業で指示する。必ず出席すること。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスと Excel の復習 2 マクロ機能とは 3 関数と計算式を使ったマクロの作成（1） 4 関数と計算式を使ったマクロの作成（2） 5 マクロ用ボタンとマクロの連携（1） 6 第 1 回目課題作成 7 Visual Basic Editor の利用（1） 8 Visual Basic Editor の利用（2） 9 第 2 回目課題作成 10 最終課題作成（1） 11 最終課題作成（2） 12 最終課題作成（3） 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(中級－HTML 応用 1) 情報科学各論(中級－HTML 応用 1)	担当者	東 孝博
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ることを目指す。</p> <p>最初に、簡単なCGIの利用とJavaスクリプトの埋め込みを通して、HTMLによるWebページ作りの復習をする。次に、Javaアプレットの概要を説明する。そして、プログラムを構成する要素である変数、配列、文などと、イメージの表示やグラフィックスの描画の方法を、プログラミングの経験がないことを前提に説明する。</p> <p>注意</p> <p>情報科学各論(初級)「HTML 入門」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p> <p>◆評価方法</p> <p>日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。</p> <p>◆テキスト</p> <p>プリントを配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業内容説明 2 HTML の復習 (簡単な CGI の利用) 3 HTML の復習 (Java スクリプトの埋め込み) 4 Java アプレットの概要 5 プログラム練習 (グラフィックスイメージの表示) 6 プログラム練習 (定数と変数) 7 プログラム練習 (for 文 1) 8 プログラム練習 (for 文 2) 9 プログラム練習 (if 文) 10 プログラム練習 (配列) 11 プログラム練習 (Math オブジェクト) 12 総合演習 	

03年度以降 02年度以前	情報科学各論（中級－HTML 応用1） 情報科学各論（中級－HTML 応用1）	担当者	金子憲一
◆ 講義目的、講義概要		◆ 授業計画	
<p>この授業は、コンピュータ初級の授業「HTML 入門」の次に位置する中級科目である。コンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及び「HTML を用いたホームページ作成技術を習得した人（FTP の理解を含む）を対象」に、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブなページ作成を通じて、コミュニケーション技術を得ることを目標とする。</p> <p>この授業ではまず、ファイルの種類、フォルダ構造などのコンピュータの基礎知識やネットワーク構成、及びHTML、FTP などの復習を行う。次にJavaScript や CGI プログラムを利用して、メッセージの表示や画像の変化、カウンタ、掲示板の設置等を行う。作成の成果は、受講生相互で批評・検討する。</p>		<ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとイントロダクション 2 HTML と FTP の復習（1） 3 HTML と FTP の復習（2） 4 インタラクティブなページ（HTML と CGI） 5 CUI と GUI 6 JavaScript（1） 7 JavaScript（2） 8 JavaScript（3） 9 JavaScript（4） 10 CGI の利用（1） 11 CGI の利用（2） 12 総合報告会 	
◆ 評価方法			
課題と平常点（宿題含む）で総合評価する。出席は重視する。最低限のルール（禁飲食等）を守れない場合は、即時失格とする。			
◆ テキスト、参考文献			
授業中に指示する。 プリントの配布も行う。			

03年度以降 02年度以前	情報科学各論（中級－HTML 応用 1）	担当者	田中 雅英
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>この授業は情報科学各論(初級)「HTML 入門」に続く中級コースである。HTML 入門を受講済みの学生を対象に、単に HTML 言語の更なる発展を目指すのではなく、CGI や Java Script にまで範囲を広げる。もちろん単にホームページ作成ということを目指とするのではなく、その過程においてコンピュータやネットワークの理解を深め、その積極的な利用方法の理解にまで話を進める。基本的には、一方向の情報発信ではなく、インタラクティブな双方向のコミュニケーションを図ることにより、情報処理としての広範囲な知識の整理を図りたい。</p> <p>なお、この授業計画はあくまで一つの目安であり、途中で更なる発展を目指す変更は当然ありえる。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンスと復習 2. Web ページのネットへのアップロード等 3. Java Script 1 4. Java Script 2 5. Java Script 3 6. Java Script 4 7. CGI 1 8. CGI 2 9. 情報の収集 1 10. 情報の収集 2 11. 応用 12. その他 	
<p>◆ 評価方法</p> <p>授業中に指示する課題と平常点で評価する。</p>			
<p>◆テキスト、参考文献</p> <p>授業中に適宜指示する。</p>			

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論(中級－HTML 応用 2) 情報科学各論(中級－HTML 応用 2)	担当者	東 孝博
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>Javaは1995年にSun Microsystems社が発表し、インターネット時代のコンピュータ言語と言われている。プログラミングの経験のない人間がJavaを理解するのは大変難しいとされているが、ここでは、HTMLから呼び出されて実行されるアプレットによるWebページ上のグラフィックス描写を通して、Java言語の一端を知ること为目标とする。</p> <p>最初に、Javaの基本構造を説明する。続いて、マウスやキーに対するイベント処理、ボタン等のGUI部品の使用、スレッド機能を利用したリアルタイム処理を通してJavaアプレットへの理解を深める。</p> <p>注意</p> <p>情報科学各論(中級)「HTML 応用 1」修了者か、または、それと同等程度の者を対象とする。</p> <p>◆評価方法</p> <p>日常の授業への参加態度と演習により評価をつける。</p> <p>◆テキスト</p> <p>プリントを配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Java の基本構造 2 イベント処理 (マウスイベント 1) 3 イベント処理 (マウスイベント 2) 4 イベント処理 (キーイベント 1) 5 イベント処理 (キーイベント 2) 6 GUI 部品の使用 (ボタン・チェックボックス) 7 GUI 部品の使用 (選択ボックス・スクロールバー) 8 GUI 部品の使用 (GUI 部品のレイアウト) 9 スレッドの利用 (イメージの移動) 10 スレッドの利用 (色の変化・時計) 11 スレッドの利用 (スレッドを利用したゲーム) 12 総合演習 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級－データベース 1） 情報科学各論（中級－データベース 1）	担当者	長崎 等
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は表計算ソフトウェア（Excel）の基礎をマスターした学生を対象として、Excel を利用してデータベースの基礎概念及び利用方法について学習する。高度情報化社会といわれる現代においては、昔と違い膨大な量の情報がうずまいている。そういった情報の中からいかに的確な情報を取り出すかというのが大きな課題である。その方法論的な答えの 1 つとしてデータベースがある。</p> <p>データベースの基本的な考え方や利用の仕方について、比較的なじみのある表計算ソフトウェアを利用して実習を行い、学習するのが本講義の目的である。</p> <p><受講者への要望></p> <p>情報科学各論（初級一表計算入門）を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第 1 回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。また実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席及びレポート課題、さらに実習試験によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>1 回目の授業で指示します。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスとコンピュータ利用の復習 2 データベースについての調査 3 データベースの基本概念 4 並べ替え 5 集計 6 レコードの抽出 7 条件検索 1 8 条件検索 2 9 データベース関数 10 クロス集計とピボットテーブル 11 まとめ 12 実習試験 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級－データベース 2） 情報科学各論（中級－データベース 2）	担当者	長崎 等
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は「データベース 1」を履修済みの学生を対象として、Access を利用してデータベースの概念や設計方法について学習する。</p> <p>Access の基本的な使い方やデータベースの概念を学習した後に、グループごとに与えられた要求をもとにデータベースの設計及び作成をおこなってもらう。グループ単位での演習を通じて、データベースの概念や設計に対する理解を深める。</p> <p><受講者への要望></p> <p>情報科学各論（中級）「データベース 1」を既修、またはそれと同等程度の知識があることが望ましい。第 1 回目の授業には必ず出席すること。遅刻は厳禁とします。またコンピュータの実習を主体とする科目なので休まずに出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席及びレポート課題によって評価します。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>30H で理解できるアクセス 2000， 実教出版 図解雑学データベース， ナツメ出版</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 データベースの概念と機能 2 Access の基本操作 3 テーブル 4 テーブルと結合 5 クエリー（1） 6 クエリー（2） 7 グループによるテーブル設計 1（ハイレベルエンティティ分析） 8 グループによるテーブル設計 2（関係データ分析） 9 グループによるテーブル設計 3（テーブル作成） 10 グループによるクエリ設計 1（外部スキーマの設計） 11 グループによるクエリ設計 1（クエリの作成） 12 グループによるプレゼンテーション 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級—データベース1） 情報科学各論（中級—データベース1）	担当者	松山恵美子
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>本講義は表計算ソフト（MS-Excel）の基礎をマスターした学生を対象として行うものである。 データには数値データと文字データがあるが、Excel ではそのどちらも同じように扱うことができる。膨大な量の情報のなかから、自分が必要とするデータを的確に抽出するには、数値データと文字データ両方の処理知識が必要となる。 ネット上からデータをダウンロードし、データベースの形式に加工する方法、情報をデータベース機能を利用して処理する方法などを取得することを目標とする。 授業の後半では、自分自身でデータベースを構築し、加工、分析、まとめ（発表）という一連の過程を行う。その過程からデータベースの基本的な概念を学習する。</p> <p>——（重要）——</p> <p>定員は 30 名とする。30 名を超える場合には抽選とする。第 1 回目の授業で行うので、必ず出席すること。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席およびレポート課題。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>「Windows による情報活用」 共立出版</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ガイダンスおよび Excel の復習 2 データベースとは—データの配布 3 並べ替え機能と集計 4 レコードの抽出と検索 5 第 1 回目課題作成 6 クロス集計（1） 7 クロス集計（2） 8 第 2 回目課題作成 9 データベースの構築（1） 10 データベースの構築（2）、最終課題作成（1） 11 最終課題作成（2） 12 最終課題作成（3） 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級—プログラミング論 1） 情報科学各論（中級—プログラミング論 1）	担当者	呉 浩東
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>コンピュータで問題解決のプログラムを作成することを「プログラミング」と呼びます。本講義では、プログラムをどう作成するか、プログラミング言語はどのような構造を持つか、どのような手順で行うか、データをどのような形にして扱うかについて解説と実習によって明らかにします。履修者にプログラミングのノウハウや方法を身につけることに目指します。</p> <p>初めにコンピュータの構成要素やプログラミング言語について概説します。続いて、プログラミング言語の一つである Visual Basic を用いてプログラミングの設計手順や方法、プログラミング言語の構造、プログラムの仕組みなどについて学習する。いくつかのプログラムの設計について講義および実習を行います。</p> <p>◆ 評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験と、レポートの提出および出席状況を加味して評価する。 <p>◆テキスト、参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 最初の講義で指示する。 (2) 必要な資料をファイルで配布する。 		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 授業のガイダンスとコンピュータ構成の概説 2 プログラミング言語の発展史 3 開発ツールとしての Visual Basic の基本 Visual Basic の画面構成、プログラム開発の流れ 4 Visual Basic の基本操作 コントロール配置、プロパティ設定、コーディング 5 簡単なプログラムの作成 プログラム開発の流れ、プログラムの動作を確認する 6 基本的コントロール 7 オブジェクトと変数 8 選択構造をもつプログラム（1） 条件選択構造、プログラムの設計とコーディング 9 選択構造をもつプログラム（2） 多重選択、複数の選択のあるプログラムの設計 10 繰り返しあるプログラムの作成（1） 11 繰り返しあるプログラムの作成（2） 12 総合練習 アプリケーションの試作 	

03 年度以降 02 年度以前	情報科学各論（中級—プログラミング論 2） 情報科学各論（中級—プログラミング論 2）	担当者	呉 浩東
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>◆ 評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートの提出および出席状況を加味して評価する。 <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>必要な資料をファイルで配布する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 前期の復習 2 配列とコントロール配列 配列変数の宣言、配列の使い方 3 ファイル操作（1） シーケンシャルアクセス：データの読み書き 4 ファイル操作（2） ランダムファイルとランダムアクセス 5 個人情報データベースの設計 6 コントロールの活用 7 応用的なテクニック 8 探索 二分探索、併合、逐次探索 9 ソート 選択ソート、挿入ソート 10 文字列の処理 文字列の照合と置き換え 11 再帰というプログラミング手法 12 さまざまなグラフィックスの処理 	

03 年度以降 02 年度以前	経済原論 a 経済原論	担当者	阿部 正浩
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義の目的 「経済学の考え方」とは何かから始め、経済学をツールとして「現代社会の問題をどのように分析すればよいのか」まで理解できるようにする。</p> <p>講義概要 テキストのないように沿って講義は行う。なお、ほとんど毎回課題を課すので、それを自習し、提出すること。詳細については初回の講義で説明する。</p> <p>◆ 評価方法 課題提出および期末テストの成績による</p> <p>◆テキスト、参考文献 「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ（東洋経済新報社）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 経済学の考え方 3. 取引と貿易 4. 需要と供給と価格 5. 予備日 6. 需要・供給分析の応用（その1） 7. 需要・供給分析の応用（その2） 8. 時間とリスク（その1） 9. 時間とリスク（その2） 10. 公共部門（その1） 11. 公共部門（その2） 12. 予備日 	

03 年度以降 02 年度以前	経済原論 b 経済原論	担当者	阿部 正浩
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>同上</p> <p>◆ 評価方法 課題提出および期末テストの成績による</p> <p>◆テキスト、参考文献 「入門経済学」ジョセフ・E・スティグリッツ（東洋経済新報社）</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. GNP とは（その1） 3. GNP とは（その2） 4. マクロ経済学と完全雇用（その1） 5. マクロ経済学と完全雇用（その2） 6. 経済成長（その1） 7. 経済成長（その2） 8. 失業と総需要（その1） 9. 失業と総需要（その2） 10. インフレーション（その1） 11. インフレーション（その2） 12. 予備日 	

03年度以降 02年度以前	社会心理学 a 社会心理学 (通年)	担当者	田口 雅徳
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>社会心理学とは、社会と個人の関わりという観点から、社会における個人の認知や行動を研究する学問である。個人の行動や認知過程は少なからず、個人をとりまく他者、環境、文化などに影響される。本講義では、こうした点を近年の研究動向を踏まえて概説していく。年間を通じての講義の概要は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会心理学とは 2. 行動の社会化と発達 3. 集団と個人の行動 4. 環境と人間の認知・行動 5. 他者認知と自己認知 6. 現代社会と個人の行動 <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、レポート、学期末の試験により評価をおこなう。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストはとくに使用しない。プリントによる。参考文献は授業において指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業ガイダンス 2. 社会心理学とは？ 3. 社会的行動の発達① 4. 社会的行動の発達② 5. 社会的行動の発達③ 6. 社会的行動の発達④ 7. 集団と個人の行動① 8. 集団と個人の行動② 9. 集団と個人の行動③ 10. 集団と個人の行動④ 11. 対人関係の心理① 12. 対人関係の心理② 	

03年度以降 02年度以前	社会心理学 b 社会心理学	担当者	田口 雅徳
<p>◆講義目的、講義概要</p> <p>講義目的および講義概要は上記を参照。</p> <p>◆ 評価方法</p> <p>出席、レポート、学期末の試験により評価をおこなう。</p> <p>◆テキスト、参考文献</p> <p>テキストはとくに使用しない。プリントによる。参考文献は授業において指示する。</p>		<p>◆授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会的環境と人間の心理① 2. 社会的環境と人間の心理② 3. 文化と人間の行動① 4. 文化と人間の行動② 5. 文化と人間の行動③ 6. 文化と人間の行動④ 7. 社会的認知① 8. 社会的認知② 9. 社会的認知③ 10. 社会的認知④ 11. 現代社会と心理① 12. 現代社会と心理② 	